



連続フォーラム「チョゴリときもの」  
～十二回目の話～

財団法人 京都市国際交流協会



## はじめに

二〇〇五年は第一次世界大戦での日本の敗戦、そして朝鮮半島や台湾の人々にとつては大日本帝国のくびきから解放されてから六十年目の節目の年にあたる。この六十年の間、日本で永住することになったそれらの人々はさまざまな家族の歴史と思いを重ねつつ、日本社会の市民としてくらしている。

今回はそれらの人々の仕事について語ってもらった。地方自治体によつては公務員の仕事の国籍条項を一部撤廃しているところもあり、さまざまな公務に従事している人、また民間企業で正規社員、または非常勤で働いている人々、そして自営業を営んでいる人々など、さまざまである。この他に今回は入つていなかが、同胞系の企業や職場で働いている人々もいる。

もうひとつ加えると日韓基本条約が一九六五年に締結されて四十年、そののちの韓国の経済発展と民主化が進み、海外渡航、定住者も飛躍的に増えつつある。そして日本へはおよそ十五万人以上の人々が新しく渡航して永住している。これらの朝鮮半島からの「ニューカマー」もまた日本社会の安定的な一員である。

それらの人々の家族のありようや仕事はいままであまり取り上げられることはなかつた。そこでこのフォーラムでは今回初めて三人の方々に登録していただくことにした。「在日」の方々とまた一味ちがう視点から日本社会と日本人の暮らしぶり、価値観などを自由に語つていただきたい。

全四回のフォーラムを通じて、さまざまな個人史を話していくだけだが、日本人一般がそこから学ぶことが多かつたのはいつもの通りである。お話しいただいた方々にあらためてお礼を申し述べたい。次回もまた新しい機軸をもりこんでこのフォーラムをつづけたい。



## 目 次

「チヨウトシノアメニ」～十一回の話～

第一回 「公共機關」で活躍する在田コリヤン ..... 5

第二回 「民間会社」で活躍する在田コリヤン ..... 49

第三回 「田舎業」で活躍するコリアン ..... 81

第四回 「韓国からのニユーカマ」 ..... 121



## 第一回 「公共機関」で活躍する在日コリアン

パネリスト

金 幸子氏

(城陽市国際交流担当)

孫 美幸氏

(元公立中学校教員)

コーディネーター

仲尾 宏氏

(京都造形芸術大学客員教授)

1005年1月二十五日実施



## チヨゴリときもの

司会・京都市国際交流会館連続フォーラム「チヨゴリときもの」を開催いたします。今年で十二年目を迎えます。この「チヨゴリときもの」は今年の内容としましては、皆さんのお手元にございますとおり、職業別にお話を聞いてみようと企画してみました。本日が「公共機関で活躍する在日コリアン」の方。来週三月四日の金曜日が「民間会社」、十一日が「自営業」、そして最後になります十八日は「韓国からのニューカマー」の方をお招きしております。ニューカマーの方のお話は「チヨゴリときもの」では初めての試みでありまして、外から見た日本社会、そして外から見た在日の方の世界についての感想とかを聞いてみようと企画したとおりでございます。本日の出演者の方を紹介したいと思います。毎年コーディネーターをお願いしております仲尾宏先生です。そしてパネリストの方、今日はお一人お招きしております。まずはお一人目が金華子（キム・ヘンジャ）さん。お二人目が孫美幸（ソン・ミヘン）さんです。それでは皆さんのお手元にあります資料をもとにして、今から「チヨゴリときもの」、「公共機関で活躍する在日コリアン」の方のお話を聞いていただきたいと思います。先生、よろしくお願ひします。





仲尾 宏氏

仲尾・皆さん、ここにちは。すわつたままで失礼いたします。今日は「公共機関で活躍する在日コリアン」というテーマです。公共機関ということはちよつとあまり耳慣れない言葉ですけれども。本来は公務員ということで考えていたんです。ところが準備の過程で、現役の公務員でお話いただく適当な方が見つからなかつたというとちょっと詰弊がありますが、うまく調整できませんでしたので少し範囲を広げました。今日のお二人の中の最初にご発言いただきましたので少しざっくりお話をさせていただきます。

いたくキム・ヘンジャさんは、後ほどご本人からいろんな事を具体的にお話いただきますが、城陽市の国際交流担当の嘱託職員です。ですから厳密には公務員ではないんですが、城陽市という公共機関で働いておられる準公務員というような立場と理解して、こう名付けければこの範囲に入るだろうと思いました。後でお話を聞く中で、ソン・ミヘンさんは元教育公務員でありましたが、現在はそうではないということなので、ひつくるめて公共機関という中で働いておられたという意味でこのように名付けていただきました。皆さんのお手元には何枚かの資料があります。これはいずれも公務員に関わる資料です。一枚目の資料は民團新聞という民團で発行している新聞がありますが、その記事です。これによりますと、全国十二の政令指定都市で同胞、つまり韓国・朝鮮籍で働いている公務員の方が二百四十八人、この五年間で三十人増えてる。見出しだけ言いますと、下の方では本名の職員が大阪・神戸では四割である。京都都市はその左の方に表がありますが、九十七年四月現在で三十人在籍、〇二年四月現在で三十人で同じですが、その内、在日が二十九人ということになります。国籍要件の緩和。これは従来は資格職や現業職などが中心でしたが、京都都市の場合でいうと〇一年度から一般技術職、一般事務職の全てではありませんけれども、就職のための受験資格が「国籍を問わず」ということになりましたので、その条件緩和ということを年度が書いてあります。それでいきますと、京都都市は必ずしも早い方ではないということになります。

### 政令指定都市における外国籍隊員の在籍状況

日付	年月日	登録料金	登録料金(税込)	備考
平成26年 1月26日	1	0	0	A1 新規登録
平成26年 1月27日	1	1(1)	1(1)	B1 既存登録
平成26年 1月28日	0	1(1)	1(1)	C1 既存登録
平成26年 1月29日	1	21(19)	21(19)	+3 新規登録
平成26年 1月30日	15	14(13)	14(13)	A1 新規登録
平成26年 1月31日	22	21(21)	21(21)	+2 新規登録
平成26年 2月1日	30	29(29)	29(29)	+1 新規登録
平成26年 2月2日	110	124(110)	124(110)	+1 新規登録
平成26年 2月3日	21	41(22)	41(22)	+10 新規登録
平成26年 2月4日	4	4(4)	4(4)	- 新規登録
平成26年 2月5日	1	7(7)	7(7)	+3 新規登録
平成26年 2月6日	2	1(1)	1(1)	A1 新規登録
		233	268(233)	+35

大阪府と神戸市との間で、大阪府は5年前の調査で「0人の外国籍職員の専任が確認されていない」たが、今回の統計では「224人」。

## 全国12の政令指定都市

# 同胞公務員 248人在籍

は268人  
外国籍全体  
5年間で30人増

本名職員4割

五  
海

真ん中ぐらいですかね。一枚目の資料は教育公務員で国立大学です。国立大学でいいますと、韓国・朝鮮籍の方が教授が二十六、助教授が七十五、専任講師が三十四、合計百三十五ということです、これだけが国家公務員ですが、ただしこれはいわゆるニューカマーの方も入っておられるんです。ですからいわゆるオールドカマーである在日の国立大学の先生がどれほどおられるかということはよくはわかりません。具体的に私が存じ上げてるのは、例えば一橋大学の教員でおられ、今、東京経済大学に移られたソ・キヨンシクさんという京都出身の方がおられます。右の方は京都、滋賀の大学でいいますと、そこにありますように滋賀大、滋賀医大、京大、京都工織大、国際日文研、それぞれにおられます。任期制のあるもの、女性、そういう区分をしてみました。公立大学では滋賀県大、京都市立芸大とともにおられるということになります。そういうわけで教育の分野でも大学、しかも国公立に限つておりますけれども、在日の方々がこの中に何人か入つておられるということが予想できます。下の表は「帰化」者です。日本国籍を取った場合、この場合は公務

国立大学等外国人教員国籍別現員表（2002.7.1現在・文科省調べから徐龍達氏作成のものを加工）

国名	教授	助教授	講師	計	●うち国立の京都、滋賀の大学（合計数）		
					計（無任期）（女性）		
中華人民共和国	21	179	29	229			
韓国・朝鮮	26	75	34	135	滋賀大学	2	2
アメリカ合衆国	38	53	16	107	滋賀医大	2	2
英国	9	23	3	35	京都大	20	16
ドイツ連邦	4	25	2	31	京都工織大	6	1
ロシア連邦	4	10	1	15	国際日文研	4	1
カナダ	0	11	5	15	○同上・公立大学（左の表に含まれていない）		
オーストラリア	5	9	1	15	滋賀県大	5	3
フランス	1	10	2	13	京都市芸大	3	3
インド	5	2	3	10	☆全国の公立大学の合計		
台湾	1	5	4	10		264	174
その他	(省略)						
合計	129	446	118	693			

注1)・国公立大学における外国人教員の任用等に関する特別措置法 1982.9 施行

注2)・教育公務員特例法 1949 施行において任期は評議会または教授会の議決により学長定めるものとする、とされている。

員の場合にももちろんカウントされません。「帰化」者の数というのはなかなか公表しなかつたんですが、最近ようやくわかつてきました。上の段は五十四年、六十四年と非常に古い年代ですが、その時には受理件数、許可件数と並んでおりますが、最終的な許可率は大体五十%を前後しております。下の表は九十六年一二〇〇三年までの最近の方ですが、許可申請者は毎年一万人を超えて、許可者もそのように増えてきております。その内もちろん韓国・朝鮮という在日の方のオールドカマーという方が大部分だと思われます。こういう方は公務員の場合、教育公務員の場合もカウントされませんが、この中にもたくさんおられるということは想像できます。公務員の国籍要件の緩和につきましては皆さんご存じだと思いますが、長い間運動が続けられてまいりました。

次の大いに新聞記事はそれを拾つたものでありますけれども。一番上に川西市で既にもう管理職になつておられる孫敏男（ソン・ミンナム）さんという方がおられます。左の方は高知県の橋本大一郎知事、この人は高知県知事として全国で初めて一切の条件抜きの完全撤廃をされた人です。下の写真はまだ大阪市で国籍条項の完全撤廃をしていなかつた時の運動の記事です。その裏側には表があります。まず左側の方は都道府県ならびに政令指定都市で国籍条項の撤廃状況がありますが、京都市は先ほど見ましたように〇一年度で部分

2004年5月25日（火曜日）

## 第2部 「教育・人権・共生」

在日外国人の帰化申請者数と許可率(1954~1964年)

年	A 帰化申請者数	B 本名の受理件数	C 帰化許可者数	C/B 最終的許可率(%)
1954	5,152	4,347	2,804	60
1955	8,707	5,525	2,661	46
1956	8,839	5,159	2,443	44
1957	10,205	5,983	2,682	43
1958	12,924	5,950	2,594	43
1959	15,711	7,462	3,076	41
1960	14,442	6,130	4,156	51
1961	14,666	7,571	3,013	39
1962	14,955	8,297	3,614	43
1963	14,008	6,211	4,100	50
1964	13,934	6,739	3,445	52

平成4年まで在日外国人の99%が韓国・朝鮮人

在日外国人の帰化申請者数、許可数等の推移(1996~2003年)

年	帰化許可申請者数	帰化許可者数				不許可者数
		合計	韓国・朝鮮	中国	その他	
平成6年	14,944	14,495	9,898	3,978	621	97
平成8年	16,164	15,061	9,678	4,729	654	99
平成10年	17,486	14,779	9,561	4,637	581	108
平成11年	17,057	16,120	10,059	5,335	726	202
平成12年	14,936	15,812	9,842	5,245	725	215
平成13年	13,442	15,291	10,295	4,377	619	130
平成14年	13,344	14,319	9,185	4,442	709	107
平成15年	15,666	17,633	11,778	4,727	1,159	150

〔法務省民事局〕

厚 小 標

（註）「民視」為臺灣電視公司，「民視」二字為臺灣電視公司之商標。

医籍条項全廃訴え願書提出

<sup>1</sup> 公権力特別扱いは住民無視

近畿各市の「即時系例」復興状況					
	大阪府	兵庫県	京都府	滋賀県	奈良県
市 の 数	33	21	11	10	7
総面積(万ha)	32	20	10	8	7
平均の市	大坂市	神戸市	京都市	守山市	生駒市

「うーん、おまえの言つた通りだ。でも、おまえが何を言つても、おまえの心は、おまえの心でいいんだよ。おまえの心が、おまえの心でいいんだよ。」

「尋來，必爭敵窪之進也。」

舊本大二郎  
高麗山

トのもので、そのうえ、この「おもてなし」の精神が、日本文化の特徴でもある。つまり、おもてなしの精神は、日本の文化そのものである。

卷之三

知りたい 聞きたい

的に撤廃をしました。京都府はまだ撤廃をしておりません。下の方は京都府内および滋賀県の市についてです。これでいきますと、キム・ヘンジャさんがお勧めの城陽市は撤廃をされておりますが、まだ採用者は出でていなさいということになります。右側の方は撤廃自治体の都道府県別に並べたものであります。いろいろこれは今後また今日のお話を聞かれて、その後参考までにお考えいただけただけたらと思います。それでは時間が経つもいけませんので、これからさうそくお一人のお話に入らせていただきます。それではまずキム・ヘンジャさんから約二十分ぐらいのお話をまずお聞きいたします。よろしくお願ひします。

第2部 「教育·人權·共生」

年	在日外国人の精査申請者数と許可年(1954~1964年)		
	A 精査申請者数	B 未了で審査終了者	C 既に許可された者
1954	3,152	3,437	2,628
1955	8,070	8,485	7,461
1956	2,529	5,765	5,241
1957	1,593	1,593	1,421
1958	12,976	5,980	5,794
1959	15,711	1,422	3,076
1960	14,447	8,330	4,354
1961	15,444	1,871	3,075
1962	12,235	2,593	2,514
1963	14,006	2,271	4,100
1964	13,931	8,159	5,445

表11-2 在日外国人の標準申込義務・株式改築の推移(1995~2003年)

年	在日外国人の移入・移出(単位:千人)				新規登録者数(単位:千人)	既存登録者数(単位:千人)	新規登録者数(単位:千人)
	移入	移出	増減	比率			
平成15年	14,945	14,495	5,950	3.9%	3,975	621	9
平成16年	14,162	15,661	-9,499	4.7%	9,678	4,729	634
平成17年	17,495	14,279	9,561	4.8%	4,837	531	10
平成18年	17,061	16,194	10,956	5.1%	7,262	726	10
平成19年	19,846	15,815	9,842	5.2%	7,262	1,755	21
平成20年	13,442	15,221	-10,779	4.3%	4,372	619	13
平成21年	13,345	14,178	9,185	4.4%	7,071	703	10
平成22年	15,660	17,634	-1,974	4.2%	1,123	1,123	1

地方公務員一般事務職 事件各項 増廢白告体[取材本部]

100% 中国語翻訳・通訳・翻字・翻音



キム・ヘンジャ・キム・ヘンジャと申します。よろしくお願ひします。

私、城陽市で国際交流員をしています。主な仕事は、韓国の文化の紹介、韓国語講座、韓国料理の紹介、韓国からお客様さんが来られた時の通訳です。自分が在日の事についてお話をさせてもらうのは今回が初めてなんです。小さい頃はずつと日本名・通名を使っていました。兄が一人いますが、小学校に行つた兄が「朝鮮人は朝鮮に帰れ」とか、いじめられたという話を聞いて、物心ついた時から私は韓国人と人に言つたらイメージられるんだなって、言つ前からビクビクして育つてきました。小学校も両親が将来のことを考えて名の知れた学校に入れようということで、奈良の私立で帝塚山小学校に通わせました。公立の学校に行つてたら、大体地域で人の人は韓国人やつてわかるんですけど、私立に行つてしまつたので、自分から言わないと韓国人ということがなかなかわかつてもらえないという感じで、小学校一年ぐらいから、「どうしよう。いつ韓国人って言おう」つていつもドキドキしながら通いました。友達に韓国人かつて聞かれたら、私なんて答えようつて。生活しながらどつかでそういう疑問があつたんです。かといつて変に強気な私は両親にも相談できず、兄弟とかにも相談できずに、気がついたら小学校五年になつてたんです。それまで日本人の恰好してドキドキしながらもし「おまえ韓国人か」と聞かれたら、私なんて答えようかなつてずっと悩んでた時に、廊下で男の子が「おまえ韓国人やろ」と言つて、ほんまに言われた日が来たんです。いや、どうしようとか思つて、その時答えたのが「私、日本人やでー」と嘘ついてしまつたんです。それがいまだにショックで、私日本人つて嘘ついてしまつたと思つて。かといつて自分が韓国人やと言つほどの勇気もなく自信もなく、学校の先生とかが呼び出しとか職員室に来なさいとかと言われて、「本名宣言しないか」と相談してくれはるんやけど。すればカッコイイなと思うんやけど、自分の中でなかなかどうやつたら本名宣言できるんやろ。クラスの前でどう

やつて「私、キムです」と言えるんやろとかと思つて。結局、先生に呼ばれて「本名名乗らないか」と言わ  
れても、「はい、はい。今はいいです」とか言つて、そのまま小学校を卒業しました。中学校に入つてもま  
だ本名とか名乗れず、自分の中でなんで私日本で日本人として生まれんと韓国人で生まれたんやろ、韓国人  
やつたら韓国で生まれたかったなといつも思つて。学校とかでも人権学習とかでビデオ見ながら、在日韓  
国・朝鮮人の話をテーマにした内容を話されるんですけど、先生の前では友達とともに「差別は絶対いけませ  
ん」とか言つのに、先生がいなくなつたら「やっぱり差別つてあるよな」とか言つて。そういうのがなんか  
変に耳に入るんです、敏感にしてる分だけ。やっぱり日本人の人らつて□ではいい事言つて、ほんまは韓国人  
つて差別すんのかなつて、変に悪いとこばかりが耳に入つてきて。一番仲のいい友達が京都とかで買い物  
とかに行つたら、前から朝鮮の学校のチマチヨゴリ着た女の子が歩いて来て、「あの人朝鮮学校の人や」つ  
て悪い感じで話されるのを聞いたら、一層「私、ほんまに言えへんわ」とか思つて。言えへん自分もいやや  
し、言えるだけのものまだ学校からも与えてもらえなかつたから、私どうやつて生きていつたらいいんや  
ろとかつて思つて。兄弟とかは公立行つてるから、自分で言わなくとも韓国人やと分かるんです。私は気が  
弱いからなかなか言えないまま高校に行つて、高校に入つても担任の先生からまたお決まりのように呼ばれ  
て、「本名宣言しないか」とよう言われるんやけど。その時思つてたのは、「先生には私の気持ちわから  
んわ」といつも思つてたんです。「そんなん言つてもどうせ差別あるんやろなー」て。それでまた結局  
は高校まで卒業した状態でも何も言えず、短大に入った時に英語コースを専攻したんですけど、その時の  
短大の先生が自分の国を、国籍を大事にするのが一番いいといつも説得してもらつたのと、日本人のすぐ  
尊敬している先生（心を教えて下さる）と出会えたということで、「あっ、もう私本名名乗るう」と思つて、  
初めて十九才の短大の時に、クラスといつても十五人ぐらいしかいないんですけど、キム・ヘンジヤで気  
軽にいけるようになつたんですよ。その頃から本名でいつています。短大も一回生が終わつて、小さい頃か

「日本大学附属国際教養科」の選択と質問。  
用語を学ぶと同時に、日本文化や日本語の基礎知識を身につける機会があります。教養系の専門でなくとも、日本文化や日本語を学ぶことで、自分自身の成長や、世界との接続性を高めることができます。また、国際教養科では、英語での授業が行われますので、英語力の向上も期待できます。

第1回入学者登録用紙(提出用)									
提出用紙									
姓	名	性別	年齢	学年	学年	学年	学年	学年	学年
田中	太郎	男	18	1	2	3	4	5	6
山本	洋子	女	19	1	2	3	4	5	6
鈴木	玲子	女	20	1	2	3	4	5	6
佐藤	亮介	男	21	1	2	3	4	5	6
高橋	美穂	女	22	1	2	3	4	5	6
伊藤	一郎	男	23	1	2	3	4	5	6
川上	恵美	女	24	1	2	3	4	5	6
井上	和也	男	25	1	2	3	4	5	6
岡田	香織	女	26	1	2	3	4	5	6
藤原	拓哉	男	27	1	2	3	4	5	6
西田	百合子	女	28	1	2	3	4	5	6
大庭	一美	女	29	1	2	3	4	5	6
佐々木	優子	女	30	1	2	3	4	5	6
田代	智子	女	31	1	2	3	4	5	6
河野	洋平	男	32	1	2	3	4	5	6
山下	美穂	女	33	1	2	3	4	5	6
鈴原	一郎	男	34	1	2	3	4	5	6
高木	恵美	女	35	1	2	3	4	5	6
伊勢	一美	女	36	1	2	3	4	5	6
川島	智子	女	37	1	2	3	4	5	6
井澤	一郎	男	38	1	2	3	4	5	6
岡田	智子	女	39	1	2	3	4	5	6
藤原	一郎	男	40	1	2	3	4	5	6
西田	恵美	女	41	1	2	3	4	5	6
大庭	一郎	男	42	1	2	3	4	5	6
田代	恵美	女	43	1	2	3	4	5	6
河野	一郎	男	44	1	2	3	4	5	6
山下	一郎	男	45	1	2	3	4	5	6
鈴原	恵美	女	46	1	2	3	4	5	6
高木	一郎	男	47	1	2	3	4	5	6
伊勢	恵美	女	48	1	2	3	4	5	6
川島	一郎	男	49	1	2	3	4	5	6
井澤	恵美	女	50	1	2	3	4	5	6
岡田	一郎	男	51	1	2	3	4	5	6
藤原	恵美	女	52	1	2	3	4	5	6
西田	一郎	男	53	1	2	3	4	5	6
大庭	恵美	女	54	1	2	3	4	5	6
田代	一郎	男	55	1	2	3	4	5	6
河野	恵美	女	56	1	2	3	4	5	6
山下	恵美	女	57	1	2	3	4	5	6
鈴原	一郎	男	58	1	2	3	4	5	6
高木	恵美	女	59	1	2	3	4	5	6
伊勢	一郎	男	60	1	2	3	4	5	6
川島	恵美	女	61	1	2	3	4	5	6
井澤	一郎	男	62	1	2	3	4	5	6
岡田	恵美	女	63	1	2	3	4	5	6
藤原	一郎	男	64	1	2	3	4	5	6
西田	一郎	男	65	1	2	3	4	5	6
大庭	恵美	女	66	1	2	3	4	5	6
田代	一郎	男	67	1	2	3	4	5	6
河野	一郎	男	68	1	2	3	4	5	6
山下	一郎	男	69	1	2	3	4	5	6
鈴原	恵美	女	70	1	2	3	4	5	6
高木	一郎	男	71	1	2	3	4	5	6
伊勢	一郎	男	72	1	2	3	4	5	6
川島	一郎	男	73	1	2	3	4	5	6
井澤	一郎	男	74	1	2	3	4	5	6
岡田	一郎	男	75	1	2	3	4	5	6
藤原	一郎	男	76	1	2	3	4	5	6
西田	一郎	男	77	1	2	3	4	5	6
大庭	一郎	男	78	1	2	3	4	5	6
田代	一郎	男	79	1	2	3	4	5	6
河野	一郎	男	80	1	2	3	4	5	6
山下	一郎	男	81	1	2	3	4	5	6
鈴原	一郎	男	82	1	2	3	4	5	6
高木	一郎	男	83	1	2	3	4	5	6
伊勢	一郎	男	84	1	2	3	4	5	6
川島	一郎	男	85	1	2	3	4	5	6
井澤	一郎	男	86	1	2	3	4	5	6
岡田	一郎	男	87	1	2	3	4	5	6
藤原	一郎	男	88	1	2	3	4	5	6
西田	一郎	男	89	1	2	3	4	5	6
大庭	一郎	男	90	1	2	3	4	5	6
田代	一郎	男	91	1	2	3	4	5	6
河野	一郎	男	92	1	2	3	4	5	6
山下	一郎	男	93	1	2	3	4	5	6
鈴原	一郎	男	94	1	2	3	4	5	6
高木	一郎	男	95	1	2	3	4	5	6
伊勢	一郎	男	96	1	2	3	4	5	6
川島	一郎	男	97	1	2	3	4	5	6
井澤	一郎	男	98	1	2	3	4	5	6
岡田	一郎	男	99	1	2	3	4	5	6
藤原	一郎	男	100	1	2	3	4	5	6

第2回入学者登録用紙(提出用)									
提出用紙									
姓	名	性別	年齢	学年	学年	学年	学年	学年	学年
田中	太郎	男	18	1	2	3	4	5	6
山本	洋子	女	19	1	2	3	4	5	6
鈴木	玲子	女	20	1	2	3	4	5	6
佐藤	亮介	男	21	1	2	3	4	5	6
高橋	美穂	女	22	1	2	3	4	5	6
伊藤	一郎	男	23	1	2	3	4	5	6
川上	恵美	女	24	1	2	3	4	5	6
井上	和也	男	25	1	2	3	4	5	6
岡田	香織	女	26	1	2	3	4	5	6
藤原	拓哉	男	27	1	2	3	4	5	6
西田	恵美	女	28	1	2	3	4	5	6
大庭	一美	女	29	1	2	3	4	5	6
佐々木	優子	女	30	1	2	3	4	5	6
田代	智子	女	31	1	2	3	4	5	6
河野	洋平	男	32	1	2	3	4	5	6
山下	美穂	女	33	1	2	3	4	5	6
鈴原	一郎	男	34	1	2	3	4	5	6
高木	恵美	女	35	1	2	3	4	5	6
伊勢	一美	女	36	1	2	3	4	5	6
川島	智子	女	37	1	2	3	4	5	6
井澤	一郎	男	38	1	2	3	4	5	6
岡田	智子	女	39	1	2	3	4	5	6
藤原	一郎	男	40	1	2	3	4	5	6
西田	恵美	女	41	1	2	3	4	5	6
大庭	一郎	男	42	1	2	3	4	5	6
田代	恵美	女	43	1	2	3	4	5	6
河野	一郎	男	44	1	2	3	4	5	6
山下	一郎	男	45	1	2	3	4	5	6
鈴原	恵美	女	46	1	2	3	4	5	6
高木	一郎	男	47	1	2	3	4	5	6
伊勢	恵美	女	48	1	2	3	4	5	6
川島	一郎	男	49	1	2	3	4	5	6
井澤	恵美	女	50	1	2	3	4	5	6
岡田	一郎	男	51	1	2	3	4	5	6
藤原	恵美	女	52	1	2	3	4	5	6
西田	一郎	男	53	1	2	3	4	5	6
大庭	恵美	女	54	1	2	3	4	5	6
田代	一郎	男	55	1	2	3	4	5	6
河野	恵美	女	56	1	2	3	4	5	6
山下	恵美	女	57	1	2	3	4	5	6
鈴原	一郎	男	58	1	2	3	4	5	6
高木	恵美	女	59	1	2	3	4	5	6
伊勢	一郎	男	60	1	2	3	4	5	6
川島	恵美	女	61	1	2	3	4	5	6
井澤	一郎	男	62	1	2	3	4	5	6
岡田	恵美	女	63	1	2	3	4	5	6
藤原	一郎	男	64	1	2	3	4	5	6
西田	一郎	男	65	1	2	3	4	5	6
大庭	恵美	女	66	1	2	3	4	5	6
田代	一郎	男	67	1	2	3	4	5	6
河野	一郎	男	68	1	2	3	4	5	6
山下	一郎	男	69	1	2	3	4	5	6
鈴原	恵美	女	70	1	2	3	4	5	6
高木	一郎	男	71	1	2	3	4	5	6
伊勢	一郎	男	72	1	2	3	4	5	6
川島	一郎	男	73	1	2	3	4	5	6
井澤	一郎	男	74	1	2	3	4	5	6
岡田	一郎	男	75	1	2	3	4	5	6
藤原	一郎	男	76	1	2	3	4	5	6
西田	一郎	男	77	1	2	3	4	5	6
大庭	一郎	男	78	1	2	3	4	5	6
田代	一郎	男	79	1	2	3	4	5	6
河野	一郎	男	80	1	2	3	4	5	6
山下	一郎	男	81	1	2	3	4	5	6
鈴原	一郎	男	82	1	2	3	4	5	6
高木	一郎	男	83	1	2	3	4	5	6
伊勢	一郎	男	84	1	2	3	4	5	6
川島	一郎	男	85	1	2	3	4	5	6
井澤	一郎	男	86	1	2	3	4	5	6
岡田	一郎	男	87	1	2	3	4	5	6
藤原	一郎	男	88	1	2	3	4	5	6
西田	一郎	男	89	1	2	3	4	5	6
大庭	一郎	男	90	1	2	3	4	5	6
田代	一郎	男	91	1	2	3	4	5	6
河野	一郎	男	92	1	2	3	4	5	6
山下	一郎	男	93	1	2	3	4	5	6
鈴原	一郎	男	94	1	2	3	4	5	6
高木	一郎	男	95	1	2	3	4	5	6
伊勢	一郎	男	96	1	2	3	4	5	6
川島	一郎	男	97	1	2	3	4		

日本の人たちは靴そろえて部屋に入りなさいという形で言われるんだけど、バラバラバラという形で。共通の冷蔵庫があるんですけど、そこにキム・ヘンジヤと名前書いて入れててもなくなつたりとか。仲良くなつたら皆一緒やという感覚があつたりとか。結構のんびり育つたんです。早く食べへんかつたら私のなくなるわとか。ちょっと日本と韓国の違いがあつたりとかして。その時は両親のおかげで留学させてもらつてるから、語学を絶対覚えないといけないということで必死というところがあつたから、あつという間に一年半が終わつてしまつたという形で。帰つて来てから仕事何しようかなと悩んで。韓国系の仕事をしたいなと思つて、在日韓国人の役所みたいな所、民団というのがあるんですねけど、そこに電話してどこか仕事を紹介してくださいと言つたら、「うちで働いてください」と言ははつて。私、最初そこ何してるこかもさつぱりわからなかつたんですけど、おじいちゃんが「そこに行つたらいぞ。いろんな事学べていいぞ」と言うから、勉強のために行きなさいということで三年半、民団本部で働かせてもらつて。その時に城陽市の管轄してゐる民団の役員さんと出会つて私を見て、「市役所、城陽市は韓国の慶山（キヨンサン）市、大邱（テグ）

表3 在日韓国人の就業状況		表4 公立大学の在外教員就業実績（在用状況）	
性別	年齢	性別	年齢
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代	男	30代
女	30代	女	30代
男	40代	男	40代
女	40代	女	40代
男	50代	男	50代
女	50代	女	50代
男	60代	男	60代
女	60代	女	60代
男	70代	男	70代
女	70代	女	70代
男	80代	男	80代
女	80代	女	80代
男	90代	男	90代
女	90代	女	90代
合計		合計	
男	10代	男	10代
女	10代	女	10代
男	20代	男	20代
女	20代	女	20代
男	30代</		

の横にキヨンサン市というのがあるんですけど、キヨンサン市と姉妹都市してるからそこで働かへんか」と一回声かけてもらつて、その時は民団で働いてたから「私いります」と言つて断つてたんですけど。また三年くらい経つて、同じ方に「城陽市で働かないか」と言われたから、「一回も言われて私何があるのかなと思つて、「どうしても」という電話かかつてきましたから、「面接だけ行きます」と言つて面接行つたら、仕事内容とかが面白そうやなど思つてやりたいなとかと思つても嘱託だからそんなに給料がよくなくて、またお父さんに相談したら、「応援するから日韓の親善のために頑張つてみなさい。」ということで、働かせてもらつてもう六年になるんです。城陽市の仕事について説明しますと、城陽市の中の城陽ロータリークラブが、テグのロータリークラブと姉妹交流をしていて、ライオンズクラブも姉妹交流してます。城陽市体育協会もマラソン交流してると、青年会議所も韓国と姉妹交流してもう十年ぐらい。少年サッカー団もテグと二年ぐらい交流していて、ソフトテニスも韓国としていて、議員交流も姉妹都市キヨンサン市と姉妹交流します。城陽市でも国際交流員という枠を作つて、市内の国際交流支援団体の支援という位置づけで雇いましょうかということで私は働いてるんです。今、私で五代目の国際交流員になります。城陽市で働いて、ピックリしたことは、私が生まれた時とか育つた環境は、どつちかといつたら日本人が怖い信じれへん。どつかで信じれへん部分があつたんですけど、仕事柄私を訪ねに来る方というのは皆韓国好きの方ばかりなんです。交流するに当たつて市役所にいろいろ尋ねに来られるんですけど、韓国が好きという前提で全部私にぶつかつてこられるから、こんなにも韓国を日本人の人が壁なく韓国を好きになつてもらつてるんやなというのがすごく勉強になつたのと。韓国キヨンサン市の職員さんからは、すごく韓国人のプライドというか韓国人の良さというのをいろいろ教えてもらえたなという六年間なんです。日本の生活をしてるだけやつたら、こんなにも韓国が素敵な国で素晴らしい国だというのを実感できなかつたんですけど。交流を通じて、本当に韓国つて素晴らしい国なんやなと理解できだし、自分にも留学だけやつたら経験できなかつた誇りも持

てるようになつたし、それはすごい感謝してますし、ほんまに嬉しい。なかなか経験できないことを、城陽市の人からは韓国のことが好きなんやなど教えてもらえて感謝します。いろんな事を学ばせてもらいました。

仲尾：どうもありがとうございました。本当に嬉しい思い出でですね。そういう体験をされたということは、私たち日本人にとつても嬉しいことです。実は私は三年前に城陽市で在日韓国・朝鮮人のことについて人権研修をしたいということからお呼びがあつて、私が講演をさせていただきました。その時は城陽市の職員の大部分の方を二部に分けて二回講演をしろということで一日かけてやりました。その時にキム・ヘンジヤさんがおられて、それで私が知り合つたわけです。ですから韓国とのいろんな市民団体の交流も盛んですけれども、市としても在日の人権問題についていろいろ進められてるという感じを持ちました。そういう中で市の公務員の方がどのようないいを在日の方に持つておられるかということなど、また具体的に皆さん方の質問を受けてお答えいただけたらと思います。それでは次にソン・ミヘンさんにお話をいきます。ソン・ミヘンさんは先ほど申しましたように、京都市の学校の先生をされていたわけですがれども、昨日たまたま私が見た書類に、今京都市は人権文化条例の策定中ですね。その策定委員の名簿を見たら、ソン・ミヘンさんの名前があつたんです。そういうことも積極的にやってらっしゃる方でもあります。それではまた同じように約二十分ぐらいよろしくお願ひします。



ソン・ミヘン氏

ソン・ミヘン、皆さん、こんにちは。ソン・ミヘンといいます。先ほど講演が始まる前に隣のヘンジヤさんと横の部屋で「二十分で全部しゃべれる?」という話をしたんです。確かに二十分では、先ほどヘンジヤさんも小学校の時からの話をずっとされていて、私はちょっと無理かな?と思つてたんです。二十分なんで、とにかく公共機関にいた時の経験を中心に行なうに、二〇〇〇年に京都市の公立中学校の英語科に採用されたんです。当時はとても珍しかったんですね。他府県ではたくさん在日の先生がいらっしゃつたんですけど、京都市は前年度に小学校に一人採用されて、次の年の中学校の採用だつたので大変注目されて、今でも覚えているのは新聞社の方からインタビューを受けたりとか。そういうことが続いて、今でもうちの母が大事そうにその当時の新聞を切り抜いて、クリアファイルみたいのに入れて、うちの母居酒屋してんんですけど、お客様が来たら順番に見せてます。もう五年も前なんで、ちょっといい加減にやめてほしいなと思ってるんですけど、それでも、そういう事がありました。自分は朱雀中学校という中京区にある中学校にてたんですけど、経験は一校だけなんですが、やっぱり珍しかったこともあって、人権学習とか多文化共生の講座に話をしに来てくださいということで、いろんな学校に行きました。京都市の小・中・高校全部行つたんですけど、教職員の方の前で話すこともあります。子どもたちの前で話すこともあって本当にいろんな経験をさせていただいて、自分の今の力というかパワーになつてるなと思っています。退職して、今は大学院に通つてます。大学院に通いつつも今でもそうやって学校との関わりが大変深いので、どうも教育とは縁があるようです。今日は会場を見渡してみると、もちろん子どもたちは学校に行つてるので、大人の方ばかりだと思うんですけど。いつも講演に行つた後子どもたちがメッセージを書くんですね。ソン先生の話を聞いてとか、ソンさん

の話はどうやつたとか。自分の意見を結構子どもたち書いてくれたので、今日は匿名というか代読でいくつか紹介しながら、子どもたちがこういう事を考えてるというのを言えたらなと思います。後でまたディスカッションというか議論をする時間があるというふうに先生がおっしゃつたので、その時に子どもたちの意見は軽視されがちなんんですけど、それも頭に置いておいてもらつて質問いただけたらいいんじゃないかなと思います。先生になろうと思つたきっかけなんですけれど、自分は大阪外国大学の朝鮮語科に通つてたんです。朝鮮語科に通つてると免許が何種類か取れます。自分は朝鮮語と英語の免許二種類を取りました。英語科の子は確かに英語の免許取りやすいんですけど、朝鮮語専攻で英語の免許を取ろうと思つたら、かなりしんどかって途中諦めようかなと思った時に「もうちょっとがんばり」と在日の子らの応援もあつてなんとか免許を取ることができました。一番、先生になろうかなと思ったきっかけは教育実習に行つた時です。教育実習は京都市の双ヶ丘中学校という所に行つたんですけど、ちょうどあの地域にも在日の方がたくさんいらっしゃるみたいで。教えた中にも在日コリアンの子どもが混ざつていて、なんでわかつたかというと本名で通つてるんです。日本の学校でそんなにいないんじやないかと思うんですけど。その時に一年生と三年生を教えたんですけど、ちょうど教科書が変わる時期だつたんですけど、あの時私が行つてた時は。英語の教科書なんか皆さん知つておられるかわからないんですけど、その時は「サンシャイン」という教科書を前の学年で使つていて、今の京都市の子は皆「ニューホライズン」という違う会社の教科書を使つてるんですけど。その「サンシャイン」の方を中三の子に教えた時に、ちょうど担当の先生が内容の面白いところを振つてくれさせて。外国から来た文化とか言葉で今日本に定着してくるものは何かという、ちょうど「サンシャイン」の教科書のパートだつたんです。これは面白いなと思つて言つた話が、例えば中国と朝鮮半島と日本があるけれども、言葉的にも漢字文化圏でとても近いよねという話をしました。例えば中国語圏と朝鮮語圏の方がいらっしゃつたらあれなんですけど、「図書館」という単語は中国に行つても「図書館」やし、韓国に行つて

も北朝鮮に行つてももちろん「図書館」だと、トウシユーガン（中国語）とトソグアン（韓国語）です。漢字見たら一遍でわかると。ただ三者二様のところもあつて、例えば「」くジエラス、嫉妬するという時どう言うかというので、なんで私の時それを思い出したのかわからないんですけど。日本だつたら嫉妬する時どうつてどう言いますか。「やきもちを焼く」と言いますよね。「やきもちを焼く」つて、一番日本がわかりにくくいと思うんですけど。「やきもちを焼く」と言うと。中国語は泡酢（チーツー）と言うんです。どういう意味かというと、お酢を食べるという意味なんです。お酢を飲むと思つんんですけど。中国語圏の子に「なんでお酢飲むの？」と聞いたら、どうもそれが酸っぱくて悔しい思いがするらしいです、中国語圏の子が言うには。もし知つてる方がおられたら中国語圏の方に聞いてみてください。朝鮮半島では、多分この場におられる方知つておられる方もいるかもしれないんですけど、どう言いますか。どなたか知つておられたら。嫉妬する時、韓国の人はどういうリアクションですか。「お腹痛い」って言いませんか。もし韓国の留学生がおられたら。「ベガアプダ」と言いますよね。お腹が痛くて嫉妬すると。それもわかるような気がするんですね。そういう話を子どもたちの前でしたら、子どもらが興味津々に聞いてたわけですね。その後の感想を見た時に、日本の子らは「頑張つて先生になつてください。」とか書いてるんですけど、在日の子の感想が面白くて「ソン先生の授業は今まで受けた英語の先生の授業とは全く違いました」というふうに書いてたんですね。あーと思つて、その時にピンと来て。もしかして自分が教育現場というか公立の学校に行けば、違う関わりができるんじゃないかというふうに思つたのが直接のきっかけです。うまく採用されたんですけど、先生になつてからは子どもたちがまた不思議がるんですね、やっぱり名前見て。どういうふうに不思議がるかといつたら、ちょうどこのあいだ講演した時の感想文を持つてきたんでちよつと読みます、三人ほど。中学校一年の男の子です。「ソンさんの第一印象は日本人のようでした。ペ・ヨンジュンとかと違つて日本語が上手だった。おそらくソンさんは生まれた時から父から日本語、母から朝鮮語を教わつてきたと思うが、

父からの日本語の方が印象深かったと思う。おそらく英語を入れて最低二ヵ国語は読み書きすることができると思う。そのところは在日の人には少し得だと思う」と書いてくれて、かわいらしくて、とても面白いんですけど。私が一世で母が一世なんです。そういう話をしたら直感的にこう思つたらしくて、とても面白いんですけど。中学校一年の男の子です。「ソンさんはなんで日本に生まれたのに韓国人でとても不思議に思いました」。これもよく言うことなんです。もう一人中学校二年の女の子なんですが「何々人、(中国人とか韓国人とか)の境界線って曖昧だな。その何々人って大方は見た目で判断してるけど、日本育ちだから考え方は日本と考えると混乱する。各個人によつて境界線はちやうんかな。変なの」と書いてくれてます。子どもらはほんまに素直で、自分がいた時も「先生、ナニジン? どつから来たん? 日本語なんどうまいの?」のこの三つがベスト三です。どこ講演に行つても、そういうふうに書く子がすごく多くて面白いです。別にそれは子どもだけじゃなくて大人もだと思います。今大学院の授業で立命館の国際関係研究科という所にいるんですけど、そこで日本語のクラスと英語だけのクラスがあるんです。英語だけのクラスには留学生がいて、その中に日本人が少数者で入るという形なんです。自分が発表をした時に、フィリピン人とカンボジア人が言いい合いしてゐるんです。何かというと、私の発表の後にフィリピンの子が「ソンさんの日本人としての意見を聞かせてください」という質問の仕方だつたんです。そしたら隣のカンボジア人の男の子が「ちょっと待つて。ソンさん韓国人ちやうんか?」とフィリピンの人に言つてます。フィリピンの人はカンボジアの人に「ちよつと待つて。でもソンさんは日本で生まれたから日本の意見聞いてもいいんちやうの?」と、今日本語に訳しましたけど大体そういう感じの事を言つて、自分は客観的に二人を見ていて面白いなと思つて、ついつい二人が話し合つてゐるを見てしましました。別に日本の子どもたちに限らず誰でも、民族とか文化の境界線というのを皆不思議に思うところはあると思います。自分が先生になつた時のエピソードを言つたらキリがないんですけど、もう一つ言つておくと、子どもたちを媒体にして地域の在日コリアンの人と交流があ

つたのもまた一つ面白かったなと思つてます。今でも覚えているのは、結構大変だった女の子がいて。その子は金髪で結構派手な女の子なんです、ある日私に話をするのが、学校のすぐ目と鼻の先にキムチ屋さんがあるんです。ちょうど在日の方が経営されてるキムチ屋さんで、その子がどうも学校帰りにチヂミでも買おうと思つて行つたらしいんです。ほんまはそれはあかんのですけど、学校帰りに何か買うということ 자체。その子はそんなこと言つてられへんので、その子の話を聞いてみると、このあいだそのキムチ屋さんに買い物に行つたけども、おばちゃんとしゃべつた時に「うちの学校の先生は韓国人やねんと言つてん」と言つんで。そしたらそこのキムチ屋さんのおばちゃんが「ほな今度その先生も連れておいで」と言つてたと。「先生、私こんな言われたらし、今度行つてな」とか言われたりしたんですけど。自分と地域の在日コリアンの方と面識ないんですけど、子どもを媒体にしてそういうふうにつながつていけるのはとても面白かったです。もう一つ在日コリアンの方がされてる塾もあつたんです。あの地域面白いんですけど。うちの学校の子がほとんどその塾に行つていて、子どもらが面白いのが「学校にはソン先生いるし、塾行つたら在日の先生がいる」と。そういう自然な状況がすごくあの地域にあって、とても在日としてどうやつたとかそういうんじやなくて自然な状況でした、すごく。日本の先生方もすごく温かく四年間見守つてくださいました。今再び大學生をやつてるということなんですが、知つてゐる範囲の人は「なんで退職して、もう一回学生がしたいか」という話を大体したんですけど、新聞とか載つてしまつたせいでどうも自分の知らないところで心配してくれる人がたくさんいるというのを後から聞いて、話をする機会もないし困つてたんです。一番は自分の夢というかやりたい事というのが平和であつたり、多文化共生というかいろんな文化の人々が共生する社会に貢献する人でありたいというのをいつも思つてました。それに対してライフワークというかおばあちゃんになるまで、仕事でもいいしボランティアでもいいしづつと何かやつていきたいと思つてたんです。心配された方の中に学校に行って何か問題あつたんぢやうんうかと言わはる人がいはつたんですけど。確かに

学校で問題のない日はないんです。全くなかつたですと言つたら嘘になるんですけど毎日いろんな事があつたんです。子どもであつたり保護者であつたり地域の方であつたり、言い尽くせばキリがないんですが。四年間マラソンでいつたら、ラストスパートを四年間かけた感じだつたんです。学校の先生を知つておられる方はそういう感じだというのを多分わからはると思うんですけど。脇目もふらずに猛ダッシュ。残業プラス土日はクラブ。ある日パツと気がついてみると、教師つてもつといろんな人に伝えていつたりとか与えていくものだと思うんですけど、中身が空っぽというか何も残つてへんというエネルギーの放出しつぱなしという感じになつてしまつて、ちょっと一定の時間きつちり充電したいというので休職をするか退職をするかをだいぶ悩んだんです。うちの家族と校長先生とかいろんな方と相談をして、やっぱりきつちり充電をしてまた自分の活動につなげていきたいということで大学院に行くというのを選びました。今、もちろん研究と勉強が第一次というか一番大事なんですけど、NGOの活動もちょこちょこやつてます。それは京都YWCAアパートという所が在日外国人支援というのをやつてるんですが、そこでボランティアの活動をしたり、先ほど言われたような行政にも少し関わるというか、公募委員に選んでいただいたので今年はいい経験をさせでもらつてます。学校ともそういうNGOとの連携で多文化共生の授業をしに行つたりというので、今現場の先生と連絡を取り合つて国際理解とかの授業を一緒にやりに行つてます。ということで、そういうふうにいろんなネットワーキングが自分はできればいいなと思つてるんです。難しいなと思うのが、今盛んにいろんな所と連携してとか、パートナーシップを組んでということを言われてるんですけど、やっぱりそれつて間をつなぐ人がいないと言葉ばっかりが滑つていつてしまふんじやないかなと思うので。自分は自分の足下からできるところからやつていきたいなと思っています。最後に子ども達の感想をいくつか読んで終わりにしたいんです。いつも子どもたちに講演というか、小学校、中学校に出かけた時は、一番最後に国籍とかの話から平和の問題につなげて話をします。どういう事を言うかというと、あなた達は未来そのもの

だと。一緒に差別であつたり、戦争であつたり、貧困であつたり、そういう暴力の連鎖を断ち切れる人になりましょうと。暴力からは誰の言葉が忘れたんすけど、マザー・テレサだつたかガングーだつたか忘れたんすけど、好きな言葉があつて。「暴力からは新たな暴力と悲しみと憎しみしか生まれない」という言葉があつて、それを子どもたちに言います。その後の子供たちの感想を言つて、今日は終わりたいと思います。五人言います。一人目、中学校三年生の女の子です。「私はソンさんが奨学金で海外へ行きたいと思つた時に、応募資格のほとんどが日本国籍の人のみだつたという話がとても印象に残りました。日本がまだ在日外国人の方への対応がちゃんとできていないとということを知つて悲しくなりました。自分がもしソンさんの立場でこのような対応をされたとしたら、私なら国に訴えに行くと思います」。海外留学に行きたいと思つた時に奨学金を調べたんですけど、なかなか応募条件が揃うものがなかつたので、その話をして、これを書いてくれてます。中三の男の子です。「講演を聞いて、日本人なのか外国人なのかはほとんど意味のない事なんだなと思いました。結構昔から日本に外国人はいるのに、奨学金は日本国籍の所有者のみというのはどうかと思つた。日本人だろうが外国人だろうがお金に困るのには関係ないだらうと思った。今後日本に住んでいたらいいとかに変えていつてほしいなと思いました」。もう一人中三の男の子です。「日本には日本国籍を持つていらないといけないということが多すぎる。今の時代そんな考え方は古い」。ここからスゴイです。「日本がより人に優しい国になるには国籍なんて考へない国にならないといけないと思う。国連で常任理事国になるなんて、こういうことを日本できつちりしてからじやないときつと認められない」。大人でも言えないとおもいました。でも大人の人は皆戦争ばかりします。私にはそういう人たちの気持ちがわかりません。人を殺して楽しいはずではないし。お互に憎み合つだけだと思います。人を憎んで自分を抑えられないと

いうのは子どもだと思つし、そんなことをして得することはないと思ひます。戦争がずっと終わらないのは、大人が戦争をしているのを子どもが見てるからだと思ひながら、大人は子ども見本になれるように世界を平和にしないといけないと思いました」。ラストです。中学校一年の男の子です。「実際に地球を幸せにしようと大人たちが言つたとしても、多分それは口だけで大人たちは行動しないと思うから、そう簡単には地球を幸せにはできないと思う」というのでちょっと重い感じで最後締めくくりたいと思うんですけど。だいぶ子どもたちは大人のこと信頼してません、今の感想文から言つたように、一人でもとくがが多く子どもたちの信頼を得られるような活動を自分は今からでもしていきたいなと思つてはいるところです。ありがとうございました。

仲尾・どうもありがとうございました。教室でのソンさんの姿が目に浮かぶようですね。今お話を中で説明しておいた方がいいと思うことが二つありますので少し説明いたします。本名で通学してゐる人がどれぐらいかという話ですが、京都市では少し前の統計ですが約二十%ですね。そういう点では双岡中学校は比較的本名通学が多いということではないかと思われます。これは集住地域、散在地域によつてその現れ方も違うと思いますので、その辺りもいろいろ参加者の方を含めて現状をお聞かせいただければと思ひます。もう一つは教育公務員の場合、公務員としての身分がどうなつたかといいますと、一九五二年のサンフランシスコ条約発効以前までは在日の方々は日本国籍が潜在的にあつたわけです。ですから五十二年以前には学校の先生になつておられた在日の方もおられました。その後、五十二年に日本国籍を一齊に失うものとするという、法務府民事局長の通達によつて一齊に日本国籍が奪わることになりました。それを受けたかのよう、先ほどの新聞記事にもありますが、一九五三年に内閣法制局の見解として、「法に別段の規定があるわけではないけれど公務員に関する当然の法理として、公権力の行使または国家意思の形成への参画に携わる公務員となるためには日本国籍を必要とするものと解すべきである」という通達が出たんです。先ほどの川西市の

記事の左上のところです。この結果、公務員から在日の方は一斉に排除されるということになりました。五十二年以前に教員として在籍された方は、このことを理由にクビにするわけにいかないので、そのままおられたと思いますが、今はそういう方はとつぐに定年になつておられます。今は新たに公務員になられたわけですけど、教員に関しては一九九〇年の始めて今まで五十二年以前に採用された方については元日本人であつたわけですから日本人と全く同じ待遇だつたんですが、教員については常勤職員という扱いになります。これは管理職になれない。ほかの待遇は変わらないんですけど管理職になれない。教頭、校長になれないという枠を新たに作つて、その枠の中で都道府県の教育委員会が採用していくことになつたわけです。従つてソンさんも常勤職員という立場で、いわゆる教諭ではないということになつておられたはずです。そういう制度上の差がまだ教育公務員の分野でも厳然として存在しているということがござります。それではお二人に大変貴重なお話を聞かせていただきました。これから後は毎年のように、皆さん方にいろいろお二人へのご質問やご意見をいただいて、それを整理してお二人に答えていただくという形でディスカッションを進めたいと思いますのでよろしくお願ひします。

司会・ありがとうございました。皆さんのお手元にご意見・ご質問用紙があると思います。そちらにご意見、お二人に質問とかもしあればご記入ください。先ほどの受付の所に箱を置いてありますので、そちらにお入れください。今から休憩に入りますので、あちらの時計で五十五分ぐらいまでに入れていただければ、ちゃんと対応できると思いますのでよろしくお願ひします。始まるのは三時五分ぐらいに始めさせていただきます。よろしくお願ひします。（休憩） 大変長らくお待たせいたしました。今回十九枚十九名の方からご意見・ご質問をいただきまして、だいぶ時間経ちましたけれど、さつそく始めさせていただきます。よろしくお願ひします。

仲尾・長らくお待たせしました。質問者は十九名ですからおそらく二人にお一人ぐらいは、あるいは二人にお一人ぐらいは質問、ご意見を出していただいております。少し整理に手間取りました。いわゆるご意見だけの方ご感想だけの方もありますが、まずは質問をされた方について、そのご質問に対しても二人に、あるいはそれからお答えいただきましょう。私が読み上げますから、お二人は聞きながら答えをご準備ください。まず十七の方。仮にナンバーを打たせていただいています。「ソン・ミヘンさんへ。中学生相手に大変でしたね。クラスの担当はされましたか。家庭訪問等で在日の先生ということで困ったことなどありますか。また教える内容を教育委員会等から干渉を受けたりしたとかなかつたですか。今後も続くだろう在日の方々にアドバイスがあればお願ひします。キム・ヘンジヤさんへ。泣かれたのは嬉しさがこみ上げられたからと察しますが、同時に苦しかったこともあつたのではないですか。誰かに相談された経験は?」。こういうご質問です。お二人に手短にお願いします。まずソンさんから。

ソン・ミヘン・クラスなんですが、私は中学校の二年生の担当から持ち上がりつて、また中学校二年生に戻った時に退職したんですけど。在日の先生ということで困つたことはないですね。それより困つたのは、若い女の先生で経験がないということなので、お母さんにしたら心配でたまらんのです。この先生に進路任せて大丈夫かという目で見はる方が自分としては大変でしたね。在日がどうのというよりも。教える内容の干渉とかもそこまではそんな堅苦しい、教科書に沿つてということなのでそんなに干渉されたとかそういう記憶はないんですけども。いた学校がすごく優秀な先生方がおられたので、自作の教材なんかを作つておられたので、それで大変学ばせていただきました。今後に続くだろう在日の方にということなんですが、京都市は先生をやつておられる方や非常勤も常勤も含めてもう数名おられると思うので。いろんな事が言われてますけども、あまり頭でつかちになるよりも目の前の子どものことに一生懸命取り組むというのが一番仕事と

して一生懸命やれるんじゃないかなと思います。

仲尾・キム・ヘンジヤさん、誰かに相談された経験は？

キム・ヘンジヤ・日本の方ですけれど、いつも相談に乗つてもられる方がいるんですけど、その方はやっぱり在日韓国人がもつとよりよい社会になるために一步一歩傷つかない、今の世代私の世代で傷つくことがあっても、子どもの世代ではそういうことがなくなるようちよつとずつでも前に進んで行くようとアドバイスを受けてます。

仲尾・次のご質問にいきましょう。三番の方。「教員を休職されずに大学院に行かれたのですか。また就職されることに心配ないですか」。これはソンさんへのご質問ですね。お願いします。

ソン・ミヘン・不安がないと心配がないと言つたら嘘になるんですけど、もう今まで就職していく時にずっと緊張感いっぱいですので、ちつちやい頃からですけど、あまり小さい頃の話しなかったんですが、日本人と同じ資格と能力で日本人の人と並んでたら絶対に選ばれるのは日本人の人だろうと、自分は小さい時からなんか知らんけど思つてて。それは母とか父の話の影響かもしれないんですけど。だからそのため自分自身は精一杯やつてきたんですね、今まで。なんで、これから先も多分同じだと思います。精一杯やるのみかなと思つてます。

仲尾・大変力強いお答えでした。次はキムさんへのご質問ですね。「嘱託から正規の職員になろうと思わ

れないのですか」。

キム・ヘンジヤ：ちょうど去年の十一月から正職員にしてほしいということで、いろんな関係してくださった市民の団体の長の方とか議員の方とか協力いただいて、市長さんの方にお願いしたんですけれど。それは私がなりたいというだけじゃなくて、私から見て城陽市がすごく国際都市ということと、尚かつ韓国と交流する団体が多い、市民が本当に韓国が好きだということで、それだったらパート的な感覚で置くよりも正規の職員が必要ですとずっと二ヶ月かけて言い続けたんですけど、結局市からの応えが「できません」という形で返ってきたので。残念なんですけれどこの三月で辞めさせてもらう。また新しい違う形で日韓の事をやらさせてもらつたらいいかなと今考えてるところです。

仲尾：ありがとうございます。ということで、キムさんはこの三月で今の仕事のケリを付けられるということですが、また新しい分野でのご活躍を期待したいと思います。次の方です。「もし国籍による制約がなくなつた場合、日本においてどのような活動がしてみたいですか。また韓国において自分がしてみたい活動等をお持ちですか」。これについて、まだソンさんからお願ひしましょう。

ソン・ミヘン：やっぱり自分は外大に通つてたので海外に対する興味のある子ばかりなんですね、外大つて。なんで自分はあの時に日本国政府が出してる船ありましたよね。青年の船とか、三ヶ月とか。あれ全部日本国籍所持者のみなんですね。あれに行ってみたかったです、すごい。それで無理で、関西だけで行ってる船があつたんですけど、それに参加をした覚えがあります。青年海外協力隊とかも行つてみたいなど思います、もし制約がなければ。当時は日本国籍の友達が青年の船とか結構行つたんですけど、行つた先々で会

う人らが、タイの人には会つたとしてもルーツは中国系だと皆言うから、ほんまに自分らは日本人で日本国籍というのもよくわからないんですけど変な気がしたというふうなことをすぐ今でも覚えています。

キム・ヘンジャ・私の場合は今生まれたのは在日として生まれて、この仕事をするために来たんじゃないかなと自覚、そういうふうに思えるから、日本国籍やつたらどうか全く考えられない。多分在日で生まれて、いろんな事を考えて、これから良くしていきたいなと思える環境にいるのでそれ以外の仕事は思いつかないんです。

仲尾・先ほど城陽市と姉妹都市の慶山（キョンサン）市で仕事をしてみたいとちらつとおっしゃつてましたね。韓国での仕事があるとしたら、どんな事をやってみたいですか。

キム・ヘンジャ・韓国で今でも姉妹都市慶山（キョンサン）市の方にお願いしてるんですけど、韓国の方も日本人と交流する時にちょっと昔のイメージ、歴史がからんてきて距離があるなどわかるんですよ。在日本やからちょっと本音を言つたりする部分もあるので、韓国に行つていろんな日本の文化を広めたり、日本の良さを伝えられる仕事もしたいなということで、向こうの市役所の方にそういう席を作つてくださいとお願いはします。

仲尾・実はそういう例がありまして、長崎県の対馬市、韓国に一番近い所ですね、金島が合併して対馬市になりました。そこは韓国との交流を自治体をあげて合併前からやつておりましたけれども。その対馬市の釜山（プサン）出張所というのがあるんです。そこには日本籍、日本人の職員と韓国で現地採用された人

が同じくもう一人職員として採用されてるんです。そういう現地採用というような形で採用されてる、そういうことを試みてる自治体もボツボツ始めてるようです。またそういう仕事が見つかる可能性はあると思います。この方はもう一つ質問があります。これは私が答えていただきます。「国家公務員と国家を担当する仕事につきまとう国籍という縛りは日本だけのものではないと思いますが、その重要性、無意味性についてどのようにお考えですか」。この問題についてはいろいろ法律論があります。国家公務員という、例えば総理大臣も国家公務員です。京都市長は地方公務員ですが、そのような公の意思形成に関する職務、あるいは公権力の行使に直接携わる職務、これは外国籍の人はどうしてもなれないだろうという論が法律論として支配的です。しかしながら就職の機会均等という点でいえば、この公権力の行使とか、あるいは公の意思形成というものをできるだけ狭く解釈する。そのことが外国籍の方に対する人権上の配慮として必要ではないかという意見が他方であります。この辺は線引きの問題で非常に難しい問題ですね。もう一つは先ほどの統計にありました「帰化」の問題です。これは先ほども言いましたように、かつては非常に厳しい条件でした。今でもそうですが、原則は法務大臣の裁量の範囲内なんです。これこれこれらの条件が整えば「帰化」で起きるというものではないんです。そういうことですから、「帰化」としての権利がないということがもう一面にあって、なおかつ公務員への就職の幅が限られてるということがもう一つの問題としてござります。この辺り論議していくといろいろ難しい問題、複雑な問題がありますので、とりあえずそういうことが考えられるということでお答えにさせていただきたいと思います。まだお一人への質問に戻ります。「韓国籍でも韓国内で仕事をするとしたらという制約はありますか。感想としてお一人それぞれの前向きな生き方に触れ、とても勇気づけられました」。これはソンさんいかがでしようか。お一人とも留学の経験があるんですが。

ソン・ミヘン：あまり制約、在日コリアンの人で韓国で仕事をしているという人は私が知ってる人は皆日本

語講師をしたりとかそういう人とか、日本と韓国で行つたり来たりする企業のそういう事をしたりという人は結構私は知つてゐんですけど。韓国内のみで仕事をするという人で在日コリアンの人を私は知らないので。制約というか言葉の問題じやないでしょうか。なんば在日コリアンの人で言葉をある程度民族学校であつたり、向こうの語学学校で学んだとしても日本語訛りなので。その辺でやつぱりあるんぢやいますかね、いろいろとは思います。

仲尾・キムさんは何がそういうことは感じられました?韓国内で仕事をすると制約が、そういう人がおられるかどうかご存じないですか。

キム・ヘンジャ・働いてたんですけど詳しい内容は聞いてないので。

仲尾・在日の方は韓国籍の場合、韓国の国民でありますから、いわゆる国籍条項に抵触するということとはあり得ないと思います。文化的には今ソノさんがおっしゃつたように、ネイティブスピーカーではないので、やはり言葉のハンディキャップはある程度残るだろう。そういうことが仕事を探す上で問題として残るんじゃないかということですね。その次は端的な質問ですが、「今まで一番嬉しかった、これは在日として」ということを入れましょう。今まで在日として一番嬉しかったことと、悲しかったこと、イヤだつたことを教えてください」。なかなか簡単ですが答えにくいかもしませんが、もしお二人が端的に言つていただくことがあればお願ひいたします。

ハン・ミヘン・たくさんどつちもあるんですけど、最近で嬉しかったのは子どもたちの前で講演をしたとき

に感想の中で今日は紹介しなかつたんですけども、「ソンさんは小さいけれども、ピースメーカーになつてゐると思います」と書いてあつたのがすぐ嬉しかったです。自分のしてゐる活動がなんかつながらつていてるんやなというのがすごく実感できたので。悲しかつたことイヤだつたことは、さつきみたいな国籍条項に当たつた時かなと思います。自分は韓国留学に一年、大学の時に行つたんですけど、その前に留学したいと思って日本政府がらみというかいろんな財団の奨学金を調べたんですけど、やっぱり日本国籍のみというのがすごく多かつたのでもう諦めて育英会に貸与の奨学金を借りて、それをためて行つたので、もうちょっとチャンスがあれば幅が広がつたのかなとは思いました。

キム・ヘンジヤ：一番嬉しかつたのは私は今が一番嬉しいです。いろんな韓国もすぐ好きになれたし、昔はマイナスマイナスの時点に自分がいるなと思つたんですけど。韓国人のプライドも誇りも持てて、日本の人とも心から通じあえる方もいっぱいできだし。今がすぐ満足してます。悲しかつたことは、小さい頃なんで私こんな悩まなあかんのかなというのが悲しかつたです。

仲尾：次は感想が中心ですがご質問もありますので読みながら最後の方の質問にいきます。「お二人の話を聞いて感銘を受けました。本当に在日コリアンだけに限らず、国籍に関係なく共存できて誰もが自由に生きていける社会が来ればいいですね。個人的にはソンさんがおっしゃったように、大人として自分ができる範囲のことを地道にやっていくことがそんな社会実現の一番の早道だと思います。子どもたちは本当に未来のものであると思います。特に思春期は大事な時期だと思うのですが、今でも国籍のこといろいろといふ悩むことは多いのでしょうか。あれば、具体的にどんな事で悩むことが多いのでしょうか。私も在日で、子どもの頃は制度的な制約を聞くたびに気が落ち込んだことを思い出します」。こういう「感想です。私の

学生でもそういうことを言つていた人がいました。それは先ほどソンさんの話に出ましたように海外青年協力隊員に応募しようと思つたら、国籍条項があるということがわかつて、本当に目の前が真つ暗になつたと言つてる学生がいました。そういうことだと思うんですが、先ほども少し触れてはいただいたんですが、何かこの事について重ねてお話をあれば、お二人からお聞きしたいと思います。

ソン・ミヘン：私が持つてたのは中学生なので、まだ外人登録証も持つてないし、そこまで国籍にガーンとブチ当たるということがまだなかなかない時だと思うんです。ですけど国籍のことで悩んでるといつたら、逆に中国籍の子で小学校六年生で日本にやつて来たという女の子がいたんですけど、全く日本語ゼロのことから公立の学校に来たので、その子の場合とか考えるとすごく進路とかでまた新たな問題だと思うんですけど悩んでました。日本人と同じぐらい日本語上手になつて試験を受けないといけないというプレッシャーがかなりあつたみたいで、一人いたんですけどそれぞれ中国籍の子はかなりしんどい思いをしてだと思います。

キム・ヘンジャ：私の場合は今は在日韓国人で良かったなと思えるのが、思つてもいらない自分の中のパワーがあるな、在日韓国人ということですごくパワーが出てきてるんやなというのがわかつたから、それで韓国人で良かったなと思つてます。それとやっぱり参政権が欲しいです。議員さんにもなりたいなとも思うし、やっぱり市役所とかで働いてたら、普段できないことでも議員さんが「お願ひします」と言つたらできる」とになつたりとか、そういうのを見たら、やっぱり意見が言えるって強いことやなどしみじみ感じたし。特にそれは獲得したいと思つてます。

仲尾：今は議員さんの話が出ました。先ほどの公務員の問題ですが、今国會議員で日本国籍を取られた方

が、三人がおられるということを皆さん「存じでしようか。一人はフィンランド出身の方です。ツルネン・マルチンさんという方です。この人が三回目ぐらいに参議院に当選して議員としておられます。もう一人はこの前の参議院の選挙で東京から出馬された二人。一人は中国籍の方です。これは元タレンタだった方ですかね、女性がおられます。もう一人は韓国籍、在日の方でした。お父さんが韓国人、お母さんが日本人。そして彼はずっと韓国籍で、在日でやつてきたんですが、これからはお母さんの籍に返つて、日本籍にし、そして活動しよう、議員になろうということを決意されて当選されました。そういう方もおられますので、キム・ヘンジヤさんが議員として登場されることもあり得るわけです。その場合は今の段階では国籍を変えなきやいけないという問題があります。次の質問は、この十二年間の「チョゴリときもの」のフォーラムの中で初めて登場した異色の質問です。「お二人に質問です。それぞれの職場での恋愛あるいは職場以外での恋愛などで国籍が障壁となつたことはありますか。例えば十代の思春期の頃から現在の年代において、人である以上人を好きになり愛することもあつたと思います。とても興味があります。お二人ともそれチャーミングなので」こういう質問があります。お二人の個人のことには別に触れられていても結構ですから、一般論としても結構です。非常にユニークな質問ですので、それぞれお考えやご経験をお聞かせいただければと思います。

ソノ・ミヘン：一番初めの一冊という質問用紙で一人で絶句してたんですけど。今の私の夫が日本籍なんですが、ちょうど同じ職場で教員をやってたんです。子どもたちはビックリだつたんですけども。それぞれ家が日本式の家と在日のコリアンの家なので、やっぱり結婚するにあたつてのいろんなしきたりがありますよね。それにうちの父が特に緊張して「やっぱり全部日本に合わせなあかんのちやうか」とか、そういう一つ一つがすごく邪魔くさかったです。私はすごい大きっぽなんで、「そんなん適当でいいよ」と言つたん

ですけど。結納をどうするとか、そういうのを父はずっと悩んでましたね。ただ私がしたいといつことなんですが、着物も着て、ハンボク（韓服）、チマチョゴリをソウルで彼にもパジチヨゴリ着てもらつて写真を撮つて、親戚皆に送つたので。そういう一つ一つの作業が大事なのかなと思いました。あまりこだわらずにとは思つてます。

**キム・ヘンジヤ** 私は昔は在日韓国人と結婚したいなどつと思つてたんですけど、ちょうど去年離婚してしまつて、在日の人と結婚できて良かったんですけど。これは国籍とかは関係なしに一人の問題で離婚したんですけど。できたら次は国籍関係ないとは言いながら、日本の方か本国の韓国の方がいいなとなんとなく。在日の人はしきたりが多くて、うちの家はどうちかというとさっぱりして、法事とかも少ないんですねけれど。いろんなしきたりとか多いと私の性格には合わないかなと思つたり。そんな感じです。

**仲尾** 在日のご家庭も様々だということですね。今しきたりと言われましたけども、一年前にここでもモデルケースでやつたんですが、韓国・朝鮮の場合は長男が法事を全部引き受けれるということになりますから、長男のご家庭だとそういうしきたりを全部引き受けなければならない。そういう煩雜さがあるようです。その「チエサ」、法事のモデルをこの「チョゴリときもの」のシリーズで一回やつたことがあります。また記録などもありますから、後ろに過去の記録集がありますからどうぞお持ち帰りください。お二人へのご質問は以上です。あとご感想がずっとありますので読み上げさせていただきますが。これは私に主にきてるので、まずお二人のご意見も聞きましょつか。とりあえず読み上げてみます。「今回の東京都の管理職昇任試験拒否に關わる最高裁判決についてどのようにお考えですか」。これはご存じの方も多いと思いますが、東京都の看護職の鄭 香的（チヨン・ヒヤンギュン）さんという方が管理職になろうとして受験を申し込まれたん

ですが拒否されたんですね。それで裁判を起こされて、地裁、高裁と進んだんです。高裁では都の判断が間違つてたという勝訴だったんですが、最高裁で逆転敗訴ということになりました。そのことについて、つまり管理職登用の問題ですね。これは東京都の場合そういう判断ですが、先ほどの新聞記事にもありましたように、川西市ではソン・ミンナムさんが管理職で課長クラスに進んでおられる。これは全く地方自治体のサードで極端にいえばどうにでもできる問題ですが。東京都が最高裁まで行きましたから、これは一つの判例が出てしまったことになります。これは確定判例ということになるので、逆に今後の地方自治体を縛る要素になるんじやないかと、こういう心配があります。そういうことを含めて、まずお二人のご感想をお聞かせください。管理職登用の問題ですね。

ソン・ミヘン・自分としてはさつきの子どもの感想じゃないんですけど、もうちょっとずつ頭柔らかくしていつてもいいんぢやうかなというふうに思います。これから少子化、すごく人□少なくなっていくわけで、何らかの形で有能な人材を集めようと思つたら、やっぱり国籍条項というのはもう二だわつてられないんじやないかななどいうふうには思います。

キム・ヘンジャ・私も同じ意見です。

仲尾：「この方の後半のご意見を続いて言います。「仲尾先生の見解もぜひお聞かせください」。一面は今申し上げました。「また先生については京都市の銀話会の座長として、今後この判決を踏まえ、京都市に対してどのような働きかけをお考えかお教えください。判決内容は個人的には全く評価していませんが、読みようによつては管理職以上でない一般職員については就けない職はなくなつたとも言えるのではないかと考

えています。その結果、京都市が主張している区では町づくり推進課にしか就けないという論理は崩れるのではないかと思つています」。こういうご質問ないしご意見です。まず京都市の懇話会の座長、これは正確には京都市外国籍市民懇話会という市長の私的諮問機関がありまして、その十二名の委員の中五名が市長からの指名、残り七名が公募で外国籍の市民の方という構成で続けられております。私は昨年の三月まで座長をしておりましたけれども、もう六年間も務めましたので、やはり交替した方がいいということを考えまして、現在はその座長でも委員でもありません。現在座長は京都大学の水野直樹さんが私の後を引き継いで座長を務めておられます。後半の方の判決内容についての感想ですが、一面は先ほど言つたことですね。もう一面は私もこの方と同じように、一般職については就けない職はないということを逆に言つてるような判決文でもあります。ですからこのチヨン・ヒヨンギュンさんの裁判は結果的に敗訴だつたけれども、管理職でなければ認めるということの意味合いが出てきてると思います。最後の京都市で主張してる区分では町づくり推進課しか就けないという論理ということですが、京都市が具体的にそういう推進課という課名まで挙げて、そこしか就けないというふうに言つてると私は初耳なんです。これはこれで私もおかしいと 思いしますので、引き続き水野さんとも内容を京都市の方にただしながら、実態をまず究明していく必要があると思います。いずれにしても京都市が〇一年に事務職、技術職について撤廃しましたけれども、具体的な職種の数でどれぐらいかということを京都市の方に尋ねたことがあります。すると職種の中の五十%が緩められた、つまり国籍条項が撤廃された。残り五十%は撤廃されていないということなんです。その職種といふのは非常に細かく一つ一つ数え上げますから、たとえば一人の職員でも一職種の場合もあれば、一〇〇〇人いても一職種と考える場合もありますから、必ずしも五十%しか外国籍の人を入れないとということではないんです。その量の問題ではなくて、職種の問題でいえばそういう数え方が今出来るということは、それをできるだけ私は広く大きく開放するという原則に立つて再検討をすること、これが今後の懇話会でも取り上

げていただきたいし、京都市の方でも積極的に取り組んでいただきたいと思います。わかりやすく言いますとこういう例もあるんです。消防職。これは国籍条項があるんです。なぜかというと、災害や火事の現場へ行きますと、鍵ぶつ壊して入ったり、延焼を食い止めるために物を叩き壊したりいろんなことをやります。あれは公権力の行使だというわけです。そうすると消防職員だけじゃなくて消防団員はどうか。消防団員といふのは嘱託公務員なんです。ですから城陽市のキム・ヘンジャさんと同じような立場なんですが、これもやっぱりダメだと。消防署員の署長の指示に従つて鍵を壊したり、物を壊したり、水をぶっかけたりするわけです。これはダメだということで、嘱託公務員でも制限があります。これは京都市だけではありませんけど、その辺の解釈です。消防団員や消防職員が好きこのんで鍵壊したり、水ぶっかけたり、物を壊したりするわけじゃないので、その職務の内容についての妥当性、上司の命令に従うこと、公のために仕事をするという公務員本来の原則からはずれなければ、私は最大限に大きく解釈すべきだと思つております。そういう点で今後の京都市の取り組みを注目したいし、今言つたような原則で広くすることを求めていきたいと考えております。ここから後は感想になります。全部今まで通りご紹介いたします。まず十三番の方。「私は中国に五回行つて、中国や中国語の勉強をしてきました。中国では日本人も韓国人も見分けが付かず、自分もよく韓国人と間違えられたものです。中国では韓国人の留学生が六、七割も占めるので、いつも韓国人のクラスメートということになり、自然とうち解けたものです。日本ではやはり日本人が圧倒的な割合を占めているので、日本人以外は何かよそ者扱いされてしまい、なかなか交流はしようとしたが雰囲気が強いと思う。日本、韓国、中国の東アジアは文化的にも共通する部分が多いのでもつと理解しあえたら良いと思う。今の韓流ブームは以前では想像もできない現象ですが、一過性に終わらせることがなく実らせていきたいものです。」こういうご感想でした。次は十二番。「お二方の率直なお話を伺つて感銘深いものがありました。ありがとうございます。まだまだ在日という差別のある中でお一人が頑張つてご自分の道を選びとつて、生

き生きと働きかねたり学んだりしてくださつてお姿を目の前にして本当に嬉しく力一杯の声援を送りたく思ひます。私たち日本人がお国の方々に対してもほとんど相済まないことを続けてきたこと。そして今もそれがすべて改善されていないこと。この「チョゴリときもの」の勉強の十年を通じて仲尾先生をはじめ、たくさんの方々からの指摘を受けて、私自身の中の考え方を変わりました。どうかお互いが心を広げて世界が平和であるように、子どもたちが伸び伸びと育つように戦争のない殺し合いのない世界の来るよう心から願つて、それを少しでも形としていけるように手を携えて行けますように祈り願つております。今日は本当にありがとうございました。「私は京都生まれ京都育ちです。生まれた所の近くにも在日外国人の方がいらっしゃいますが、全く差別となるようなことには会いませんでした。そこで不思議に思うのは、なぜか知らない中に脳裏に焼き付けられるような差別事例はどこで生まれどこで増えていくのでしょうか。こうした研修でお聞きすることと実生活が逆にギャップとなつて戸惑います。ただ思うことは、私には子どもがいるのですが少なくともこの子たちにはしっかりとこの事の本質は何なのかをわかつてほしい。私が思つている本質は皆何をそんなに難しく思つているのということです。どこからか聞いた風評に惑わされてる人がほとんどだと思う。少なくとも自分の子どもはそういうにはさせない」。こういうご感想です。在日外国籍の方は近年はそうでもないですが、やはり日本に、京都に来られた経緯からして、ある程度集住しておられる例が多い。例えば一番京都市で行政区でいいますと南区が多いわけです。それから中京区の西部、あるいは左京区などに集まって住んでおられることが多かったです。そうなるとそういう地域に住んでる日本人と全く、私は中京区生まれですが中京区の東部にはほとんど在日の方はおられませんでしたし、小学校も中学校も在日の友達には会うことがありませんでした。そういう地域差があります。そういうことですから、なかなか現実と結びつかないとおっしゃることもわからないではないですが、本当は三百人の小学校に一人でも在日の子どもがいたら、やはり在日の家庭がある。その方々

はおそらく目立たない、しかも日本名でおられたら目立たないですが、しかし問題は他の方々、今日のお二人含めて同じ問題をその一人の子どもやその家族が持つておられる。そういうことに私たちは気づくべきじゃないかと思います。この方も書いておられるように、あらゆる差別意識は風評が多いです。あそこ行ったら怖いとか、の人たちは怖いとか。の人たちはええ事してはるとか、の人たちだけ税金安いんじやないかとか。そういうことはそうじやないかという風評から出発してまして、事實を確かめてそうだったということはあまりないんじゃないでしょうか。そういう点で、私は差別意識というのはそういう風評から生じてるということが現実だと思うので、やはりあくまでそういうことがあれば本當かどうかということをきちんと自分の目と耳で確かめる、あるいは役所に行つて確かめるということをやらないといけないなど思つております。次へ進みます。「小学生の頃から在日の方の問題などについて学習してきたのである程度はわかっているつもりだったのですが、やはり当事者の方のお話を聞くと今まで気づかなかつた点に気づくところがありました。韓国人であるということを内緒にして生活し、いつかばれたらどうしようかとピクピクする生活つて想像するだけで辛いことだろうなと思いました。子どもたちの意見がとても面白かつたです」。次へいきます。次は、「興味深いお話をした。在日の方々の人知れない苦労に触れる機会があつて良かったです」。また「キムさん、ソンさん、お二人の話が非常に対照的のが面白かったです。キムさんが小学生の頃から在日コリアンであることを隠していたというお話はとても気持ちがよくわかりましたし、城陽市で仕事を始められ日本社会に対する良い印象を持たれたことをとても嬉しく思います。一方、ソンさんはまるでこれまでに在日コリアンであることで嫌な思いをした経験がないかのようなお話をでした。ソンさんのパーソナリティだと思いますが、差別を感じたこと悲しい思いをしたことがないとは思えません」。以上は感想です。「今年は日韓友情年、二〇〇五年の年。どうか両国が世界中が友好的になるため地域で私たちができることがありますたら聞かせてください。」これはいかがでしょうか、お二人。最後の

方の地域で私たち、これは日本人という意味でしようが、地域で私たちができることについて何か思いがありましたら聞かせてください。

ソン・ミヘン・最近、自分が関わってるNGOのメンバーとしゃべった時に、かなりの意識のギャップに自分はまた戸惑つてしまつたんです。というのが、皆それぞれ何かをしようと思ってボランティアなりに協力してるんだけれども、学校に対する不信感をすごい持つてはつたんですね、二人は。多分イヤな思いを相当されたと思うんですけど。でもやっぱりそういう壁を少しずつ取り払つていかないと多分どうにもならないというか、いがみ合つてるだけでは。いろんな所に参加されるのも大事だと思うんですけど、壁を積み上げるんじやなくて崩す方向で活動していくたらいいんじやないかなというふうに思つてます。

キム・ヘンジヤ・地域でできることですね。私自身が皆さんに願うのはこういう在日の状況を理解していただけで、私もつともつと幸せによりよい権利を持ちたいと思つてますが。それは皆さんの協力がないとできないとも思つてます。これからもいろんな形でいろんな知識とか意見とかいたただけたらと思つてますのでよろしくお願ひします。

仲尾・今年の日韓友情年四十年というのは日韓基本条約が結ばれた一九六五年からの四十年の節目です。

今年はまだ節目がありまして、解放、日本の敗戦からいいますとちょうど六十年目の節目に当たります。日本が韓国を併合したのはご存じのように一九一〇年ですが、実はその五年前一八九五年は第一次保護条約を日本政府が無理やりに当時の韓国政府に結ばせました。これは韓国に外交・財政顧問の送り込みを強制しました。引き続き第二次条約で外交権を奪い、軍隊、警察を解散させてしまうということがあつて、本当に両

羽根をもぎ取られたような鳥のような姿で一九一〇年を迎え、「韓国併合」ということになってしまった。その間、義兵の独立運動もありましたけどもうまく行かない。そういう中で義兵の将校であった安重根（アン・ジュンケン）さんが伊藤博文をハルビンで義兵闘争の一貫として射殺した。こういうことが一九〇九年にあった。そして一九一〇年を迎えた。そういうつた第二次保護条約乙巳（ウルサ）条約ともいいますが、その条約からちょうど百年目の節に当たっております。この頃から少しづつ日本に渡航してきた在日の方々が記録上あります。もっと増えてくるのはもちろん植民地統治、植民地支配が強化されてくる過程ですけれど。実は、在日の百年の歴史の出発点の年でもあります。そういうことを併せて、この日韓友情年と重ねてお考えいただければと思います。次へ行きます、「アンヨンハセヨ」。ハングルで書いてあります。「キム・ヘンジヤさんのお話を聞いて涙が出ました。小さな頃から国籍のことでいつもドキドキ、とても辛かつたでしょう。在日の方が朝鮮人たることを知られるのが恐ろしくて、「鮮魚」という看板の鮮という字を見ただけでドキッとするということを言わされました。マイナーな心で常に国籍を気にかけているのは悲しいですね。小学校の頃本名で名乗っている同級生がいました。子どもたちは私も含めて何も感じませんでした。私たちと全く同じ感覚です。でも本人はどんな気持ちだったかと思うと辛く思います。これからどういうことをしてあげたらいいのか。今ハングルを少しやっています。過去の差別意識なんて私の中には少しもありません。それどころか韓国は憧れます。キムさん、ソンさん、これからも頑張って」というご感想でした。次の方。「二人のパワーには感銘した。在日コリアンを始め、多くの外国籍の方には冷たい政府だが、政府と国民は必ずしも一致ではない。行政、自治体の啓発や市民団体などとの協同により、また学校教育や家庭教育等の働きかけを強めて差別や偏見をなくしていく取り組みを進めて行くことが必要。私たち保護者の責任は極めて大きいと再認識させられた」。次は「暴力からは新たな暴力と悲しみしか生まれない」という言葉が心に沁みました。私は今ある事で闘っています。しかし少し考えてみたいと思います。自分のため人

のために何ができるのか。皆生きている中でいろいろ苦労しているんですね。闘うことと暴力の違いといふものがよくわからないです。すべてを許すといつともとても難しいことです。自分を守る時はやはり闘わないといけないのではないでしようか。難しい問題ですよね」。こういうご感想でした。「今お二人の話を聞き、私が住む日本の社会や京都も閉鎖的な社会だと感じました。たまたま今まで在日問題を勉強することがなかつたので、自分の周りに在日の方がいたので考えなかつたが、こんなに大変だ」という感想です。次は最後の方です。ソンさんへのコメントです。「大阪外大モンゴル語科出身で、タイ語科の人らと体育の授業で一緒にさせていただいたり、次に行つた国際基督教大で在米三世の韓国系の人々と英語で会話したりしたので、私はレアケースかもしれません。だつてせつかくですから質問をひねり出しました。例えば私立中高や在外日系学校に就職するという道もあつたと思います。公立中学に行つたことだけが理由の問題はその毎日あつた問題の何割くらいだつたでしょうか。ところで自分はまとまつた休みを取ることなく燃え尽き鬱に入つてしまい、下京区から生活保護を受け、河原町五条下る一百メートル下町交流館の五軒隣のアパートをもらっています。引きこもらないよう国際交流のティーパーティーをその交流会館で始めています。よろしかつたらお越しください。三月一日、十八日、四月八日三時から実行。以上宣伝でした」。と書いてあります。というわけで、これはソンさんへの質問がちょっとありますね。どうして公立中学校を選ばれたのか。つまり私立の道を選ばれなかつたということですね。

ソン・ミヘン：自分は公立中に教育実習を行つたので、そのイメージがすぐ強かつたんですね。一部の私立でいろんな恵まれた環境でいく子と、いろんな子がいる公立とは全然イメージが違つたので、そういう問題意識はあつたかもしません。

仲尾・ありがとうございました。今のように十九の方々がご熱心に質問や意見を出していただきました。おそらく出していらっしゃらない方のお気持ちもこの十九人のアンケートの中にどこかで重なるものがあるかと思います。そういう意味で今日は大変お二人から瑞々しい刺激をいただきましてありがとうございました。それでは今日はこれで終わります。

司会・ありがとうございました。また来週金曜日三月四日になりますけど、また同じ時間この場所で開催いたしますので、引き続きご参加いただきますようによろしくお願ひします。



## 第一回 「民間企業」で活躍する在日コリアン

パネリスト

金 桂子

(在日一世 民間企業勤務)

李 政子

(在日三世 民間企業勤務)

コードィネーター

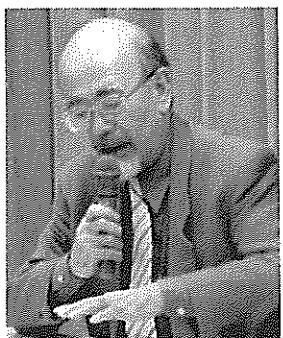
仲尾 宏

(京都造形芸術大学客員教授)

—1100五年三月四日実施



司会・大変お待たせいたしました。ただ今から「チョゴリときもの」を開催いたします。第十二回目を迎えます今年のフォーラムでは四回に分けまして、社会の多様な場で活躍されている方々のお話を伺つております。本日一日目は民間の会社で働いていらっしゃる方お二人をお迎えいたしました。それでは本日のコーディネーターとパネリストの二人をご紹介させていただきます。お一人目のパネリストは中央・金桂子（キム・ケジヤ）様です。キム様は在日二世でいらっしゃいます。大阪の大手のシティホテルで非常勤の形で働いていらっしゃいます。お二人目のパネリストは向かって右側の李政子（イ・ジョンジャ）様です。イ様は在日三世でいらっしゃいます。以前は大手の旅行会社で現在は滋賀県の方の製造会社の貿易の部門でお勤めでいらっしゃいます。そして本日のコーディネーターは前回同様、京都造形芸術大学客員教授の仲尾宏先生でいらっしゃいます。なお途中に後ろの方から時々写真を撮らせていただきますが、事業記録のためにご理解いただきますようよろしくお願ひいたします。それでは先生よろしくお願ひいたします。



仲尾 哲さん、こんにちは。今日は三月とはいえるとしても寒い日なんですが、このように多数お越しいただきましてありがとうございます。司会の方からご紹あわせ介ありましたように、今日は民間会社で働いておられる在日コリアンのお二人の方がお話をいたします。それに先立ちましてお手元の資料を少し説明させていただきましょう。この資料は外国籍の方の中で韓国・朝鮮籍者の職業についての統計です。外国籍の方の職業統計というのはなかなかないんです。たまたま一九九九年年末に入管協会が毎年「在留外国人統計」を集計して、翌年に発表しております。その九十九年版があつたんですね。今から考えると五年前ですが、その後はまだないんです。不思議なんですね。でもとにかくこれが一番新しいので、これをとりあえず持つてまいり

ました。韓國・朝鮮籍者ということをまざご説明いたしますと、ご存じの方も多いかと思いますが一九六五年に日本は大韓民国と国交を樹立いたしました。それ以降、在日の方で韓国国籍を取るという方がどんどん増えました。そういう方が韓国国籍者であります。それからもう一方の朝鮮籍者というのは戦後一九四五年の敗戦の後、一九四七年の五月に外国人登録令、後に法になりますが令が出ました。その時に日本政府は朝鮮半島出身者は全部朝鮮として登録しようと、中國大陸を含む台湾の出身者は全部中國として登録しようと、こういう規準を設けたわけです。従つて、一旦は旧植民地である朝鮮半島出身者の方は一齊に朝鮮籍であつたわけです。ところが先ほど申しましたように、その後大韓民国ならびに北の共和国が建国され、韓国と国交が樹立した後、韓国籍を取得する人が増えました。現在の外国人登録法ではやはり韓国・朝鮮籍というふうに公表していまして、その二つの籍を分類はしております。従つて韓国籍を取られた方、朝鮮籍のままでおられる方、この両方が総合された形で発表されております。その下のオールドカマー特別永住、ニューカマーラの合計数があります。今申し上げたことと関連がありますが、一九五二年四月二十八日にサンフランシスコ講和条約が発効いたしました。その時に日本政府は先ほど申し上げた旧植民地出身者は一齊に日本国籍を失うものとするという、そういう通達を出しました。だからこれは国籍法にも基づかなくて、単なる法務省の通達によつて国籍が変えられたということになりますので、これはかなり国籍法違反ひいては憲法違反につながりかねない措置だつたと思うんですが、とりあえずそういうことになつたわけです。それ以前からおられた方、五十二年四月以前におられた方とその子孫の方をオールドカマーと呼びます。一九九一年に特別永住という在留資格が設定されて、今その方は特別永住という在留資格であります。従つて今日のお二人も含めて、この方々はどんな仕事にも就ける、つまり就労に制限のないという在留資格の方であります。ニューカマーという人は今申しました一九五二年四月以降に日本に入国された方ということになります。一九五二年からですからもう五十年間経っていますけれども、そういう方々も少しずつ増えております。韓国・

朝鮮籍者の合計はオールドカマー、ニューカマーを分類せずに入管協会が公表しておりますので、そこに挙げました総数三万六五四八人というのは九十九年末のオールドカマー、ニューカマーで韓国・朝鮮籍者の総数ということになります。それでこの中オールドカマーと呼ばれる人は二〇〇三年末で約四十八万人です。その差がニューカマーということになります。京都府はその中四一八四八名、特別永住であるオールドカマーの方が約三八〇〇名とということになります。滋賀県の場合と同じく七三二五人、この中オールドカマーは約六千数百人という数字です。その次は職業別分類です。この分類は概ね国勢調査の分類にしたがつてあると思われますが、一番多いのは無職です。全国で四六二六一人、京都府で三三二九一人、京都府で七十九、三%という数値ですが、これは生まれたばかりの赤ん坊から子ども、もう仕事から離れられている老齢の方も全部含んでおりますので、こういう数字になります。そこから上の数字ですね。一番上の医療・保健技術者からサービス業従事者までがいわゆる有業者であります。この中、多いところを見ますと、京都府でパーセンテージが出てま

東京(都)・東京魚羊兼善(毛)の現況統計(1999.12.末)		(財)入管協会「在留外国人統計」		
	(オールドカマー(特別永住)、ニューカマーの合計)	全国	京都府	合 計
总数	636,548	41,848(100%)	41,848(100%)	7,325
医療・保健技術者	4,380	239(0.0)(2.7)	56	
技術者	2,469	128(0.0)(1.4)	51	
教員	2,382	107(0.0)(1.2)	26	
芸術家・芸能家	1,302	56(0.0)(0.6)	5	
文芸家・哲学家	200	3(0.0)(0.0)	-	
記者	178	16(0.0)(0.1)	1	
科学研究者	476	21(0.0)(0.2)	2	
宗教家	1,002	47(0.0)(0.5)	4	
その他専門職・技術者	1,979	108(0.0)(1.2)	27	
哲理的職業従事者	17,770	735(0.1)(8.4)	227	
事務従事者	51,592	2,226(0.5)(25.8)	685	
貿易従事者	414	9(0.0)(0.0)	1	
販売従事者	33,582	1,565(0.3)(18.5)	490	
農林漁業従事者	785	53(0.0)(0.6)	18	
商業従事者	106	1(0.0)(0.0)	1	
採掘・採掘従事者	97	7(0.0)(0.0)	4	
運輸・通信従事者	8,726	538(0.1)(6.2)	108	
技術工・半産工従事者	31,101	2,199(0.5)(24.5)	557	
一般労働者	2,882	164(0.0)(0.1)	49	
サービス業従事者	11,605	481(0.1)(5.6)	172	
無職	462,611	33,192(79.3)	-	4,826
不詳	929	58(0.0)	-	15

合は無職・不詳者を除いた百分比、少数点以下切り捨て。

ですが、大体全国でも滋賀でもほぼ共通しております。一番多いのが事務従事者二十五・八%。次いで管理的職業従事者八・四%。この管理的職業従事者の中には自営業を含みます。それからいわゆる同胞企業、在日の方が経営されてるいろんな製造会社、貿易会社、金融会社、不動産会社、食品製造業者等々全部含めて、そういう方の経営に携わってる方は全部管理的職業ということになるので比較的多く見えます。それから販売従事者が十八・五%、運輸通信従事者が六・二%。これはおそらくタクシーのドライバーさんたちも多数含まれると思います。サービス業従事者五・六%。こんな数字に並びます。これが日本人との比較でどうかということは一概に申し上げられませんが、私の気がついた限りでは管理的職業従事者が多いということのは、いまさつき言つたような自家経営の方が含まれてるということが多い一つの理由ではないかと思つております。それでは説明はこれぐらいにして、お一人のお話からお仕事の現場、そこでぶち当たつておられたいろいろな問題などについてお話を伺つことにいたします。まず最初に在日二世であるキム・ケジヤさんからお話を伺います。ですが。キム・ケジヤさんは今の分類で申し上げますとサービス業従事者ということになるかと思います。それではよろしくお願ひします。



キム・ケジャ・アンニヨンハセヨ。

キム・ケジャと申します。人前で話すのは今日が初めてなのでとてもドキドキします。上手に話せませんがどうぞ聞いてください。私は今心斎橋にあるホテル日航大阪でクローケの仕事をしております。週に四、五回です。日本企業で働くのはこれが初めてです。アルバイト情報誌を見て、この仕事なら韓国語、英語も少し使えてと思い面接に行きました。そしたら採用されました。四十才を過ぎて新しい仕事に就くのは難しいのでとても嬉しかったです。それからもう三年以上経ちました。ホテルは国際的な場所なので、外国の方々がたくさん働いてらっしゃいます。そして韓国人の割合もとても多いです。お客様も外國の方がたくさんいらっしゃいますし、仕事をしていく仕事の面ではいろいろ困つたこともありました。韓国人としてはあまりイヤな思いは今までしておりません。最初は制服にキムという名札をいつも付けていますので、それを見て何人かの方は「日本語上手やな」とか「その日本語ちょっとおかしいで」とか言われたりもしましたが、仕事をちょっと覚えて日本生まれだということがわかると、それもあまり言われなくなりました。でも心中ではいつも自分が在日というのを大事に思いい頑張ろうとは思つております。やはり働いてる上で日本語が一番難しいです。上の方にどう話したらいのかとか、お客様に失礼のないように話すためにはどうしたらしいのかとか、思えば思うほどかんだりしてしまいます。今でもたまにそういうことがあります。日本語を上手に話す方の真似をしたり、またその方にどう話したらいいかと聞いて教えていただきます。今は韓流ブームなのか「冬のソナタ」ブームなのか若い日本の大学生の方が私に手紙を書いてくださったり、メールをくださったり、プレゼントももらったりします。そして韓国の歌手のファンだそうで、歌詞を訳すのと一緒に訳したりもしてました。とても嬉しいです。これも小さな日韓交流かなと思つております。またホテルのレストランにはニューカマーの方がたくさん

ん働いてらっしゃいます。その方達がエレベーターでそれ違つたりした時に「キヨポインガヨ（同胞ですか）。

ハングツマルハセヨ（韓国語でりますか）」と聞かれて「ネー」と答えると、ニコッと笑いかけてくれますし、とても幸せな気分になります。ハングツマルを話せて良かったなと思つております。ロッカールームでも韓国の若い女の子たちが楽しそうにしゃべつているのを見て、その周りの他の人たちは「韓国語話せていなー。なんかドラマ見てるみたいや」と言つています。それもすごい微笑ましい姿だと思います。ホテル日航大阪で働くまでのことと少しひ話したいと思います。私は小学校一年生から大学まで朝鮮学校に通いました。その後 古い考え方の父だったので女の子は仕事をしなくてもいいと思って、習い事とか家庭教師、日仏学館に通つたり、少しフランスにも留学しました。その後いつも社会とは小さな線で結ばれていきたいと私自身思つっていました。そして留学した時に外国の方に「何の仕事をなさつてゐるの？」と聞かれた時に答えられなかつた自分がとても恥ずかしかつたので、それからアルバイトながら仕事を始めました。その時自分は韓国語が話せるし、英語、フランス語もほんの少しわかるのでそれを使い仕事をしようと思いました。京都国際会議場、一画廊、シナモンロールカフエ、そして教会でボランティアで韓国語教室のお手伝いをしたりもしました。そして日本の信者の方がほとんどでしたが、牧師さんが在日の方だったので韓国に興味をたくさん持たれていました。そして半年の間に随分上手になられました。生徒さんたちと韓国に行つて教会をいろいろ回つたり、大学でミサを聞いたりもしました。そして習つた韓国語で皆さんにお買い物をされたりもしました。私の小さな力が日韓交流の小さなお手伝いができると嬉しく思いました。いつも私は本名キム・ケジヤで働いています。友達は私のことを「ケジヤ、ケジヤ」と呼んでくれます。本名を名乗れない時代もありました。やはり本名を大事にしたいと私自身思つております。本名は生きる未来への重要な証であり、大切な要素となつて受け継がれていく人間文化の美しいものであると、ある韓国詩人が書いています。このように私はいくつかのアルバイトを経て、今ホテル日航大阪で働いています。私がもし日本人であつたら、

あなた方が韓国人、朝鮮人であつたというそういう視点の高さでこれからも一生懸命働いていきたいと思つております。このフォーラムを機会にもう一度自分を見つめ直したいと思つております。そしてこの機会を下さった日本造形芸術大学の仲尾先生、国際交流会館の岡村さん、チョンさんにお礼を言ひます。そして聞いてくださつた方々にお礼を言ひます。ありがとうございました。最後にフォーラムは「チョゴリときもの」という題なので、国の統一を願い亡くなられた詩人ユ・ミヨダルさんのチョゴリをテーマに作られた詩を読みさせていただきます。

花だより

放たれて

チマ・チョゴリは  
パレットの春になる

花はチマ・チョゴリに粧い  
チマ・チョゴリは花に咲く

空からやつてきた

花のささやき 根づかせて

櫻梅、水仙 蓮華 桃 桜 菜の花

アネモネ チューリップ スミレ

にんじんの花 大根草 踊り子草

やさしい色 おしゃれ色

小さい風にゆれている

わたしアボガド色は派手かしら  
このブルーベリー色は好きなのよ  
セピア色が似合うよと言った彼の  
そのオレンジ色は母のお気に入り

さあ いかがでしよう

女たちを有頂天にさせる言葉たち

水いろ 星いろ 虹いろ 空いろ  
とつておきのいろ 魅力しつくして  
香氣 彷彿 優雅でまろやかなれば  
気の向くまま

シヤガールのよう に美しい  
モネのように 鳥がうたいあう  
シスレー バジールらも描きたい

ひとつ春 告げるひかり  
使者を待つ 分断のくにに  
舞うオッコルムの出会い いつ

溢れる陽射し めぐる春

花だより 集めあい

こころの深いところで  
南も 北もひとつくにに  
きつと きつと 抱きあいましょう

指切りげんまん

嘘ついたら

針千本のおむ

※オッコルム＝チョゴリの結びリボン

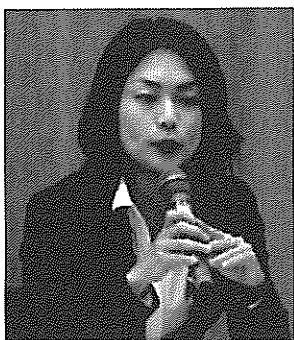
以上です。ありがとうございました。

仲尾・ありがとうございました。キム・ケジャさんはおっしゃいましたように小学校から大学まで朝鮮学校に通つておられた。朝鮮学校では一切の授業が朝鮮語でされますから、そういうことから朝鮮語がすっかり身についていた。それが社会に出てそのまますぐに役に立つたと、こういうわけですね。ありがとうございました

ました。それからもう一度今読まれた詩の作者の名前と本の名前と出版社をおっしゃつていただけますか。

キム・ケジヤ・出版はされてないんすけれども、「青春輪舞、ユ・ミヨダル詩集」なんです。私の親友のお母さんが書いた詩集で、もう八年ほど前に亡くなられたんです。良かつたら読んでください。

仲尾・どうもありがとうございました。詩の朗読までいただきました。それでは次に在日三世であるイ・ジョンジャさんお願ひします。



イ・ジョンジャ・皆さん、こんにちは。はじめまして、イ・ジョンジャ  
と申します。私もなかなかこうやつて皆さんの前でお話をさせていただく  
機会というのはありませんので緊張しています。隣からキム・ケジヤさん  
の緊張がすごく伝わりまして、さらに緊張してるとれども。皆さん  
のお時間が無駄にならないように精一杯お話をさせていただきますので、よ  
ろしくお願ひいたします。まず自己紹介からさせていただきます。私は在  
日の三世でして、生まれも育ちも滋賀県です。現在二十七才になります。  
社会人になってから五年目でして、卒業してすぐに旅行社に就職をいたしました。四年間ツアーコンダクタ  
ーをしておりまして、ちょうど去年の今頃、今の会社に転職をしました。今の会社は製造業になりますけれ  
ども、その中で貿易のセクションにいます。民間企業で働く在日コリアンの話ということですので、そのツ  
アーコンダクターのお話か貿易の話かということになりますが、貿易の話に関しては面白おかしくもござ  
いませんので。と申しますのも、出会う人数が限られてるんですね。社内の人間と取引先の人間と。です

ので入った当初から名前も本名でイ・ジョンジャという名前を使つてますので、どういつた人なんだということいろいろ聞いてこられたりもありましたが、もう二、三ヶ月もすれば珍しくもなんともなく、一年もしますとちやほやされることも全くなく普通に働いてる。ですので特にお話をさせていただきませんです。逆にツアーコンダクター時代の話というのは在日の問題だけではなく、いろいろ聞いていただきたいなと思う話もたくさんあります。話が最終的にまとまらないような気がするんですけれど、今回は在日コリアンがテーマということで、添乗の仕事を通しての在日コリアンを意識したという話を中心に進めさせていただこうと思います。ツアーコンダクターという仕事はお客様をいろんなツアーにお連れして、国内、海外をご案内するわけなんですけれど、一ヶ月で国内でしたら三本、四本ぐらいです。海外ですと一本のツアーが十日前後になりますので、二本程度二十日間ほどは添乗に出ていたという生活になります。一本のツアーでお客さまが大体三十名、四十名様ほどいらっしゃいますので、国内でしたら百名様以上です。海外でしたら八十名前後のお客さまに一ヶ月の間にお会いさせていただいてという生活を四年間続けておりました。それ以外に修学旅行ですか、大きなイベントですかそういうものもしておりますので、修学旅行なんかになりますと一学年お連れしますから何百人、二百人、三百人程度のお客さまをお連れして、いろんなお話をさせていただきました。その中で在日コリアンに対する認識度と申しますか、そういったものを私なりにタイプに分けてみました。このタイプというのが大体三つほどに分かれます。全く在日コリアンというものを知らない方、そして多少なりとも知っているという方、それから自分も在日コリアンなんだという方、この三つのタイプに分かれだと思います。全く知らない方というのは、知らないといふのは怖いという強いといいますか、さつきキム・ケジャさんからの話にもありましたけど、「日本語上手ね」ということで私もいろいろ話をしてくださいました。「日本語上手ね。日本に来て何年?」。ここまではまだいいとしまして、その後「留学で来てるの?」というふうに聞かれるんですね。「留学で来てる

の？」ということは私の日本語が訛りがあるということでしょうか？別にこれは怒つてゐるわけではありません。面白おかしく私も受け止めてゐるので、そんなに怖い顔をして眉間にシワを寄せて聞いていただくようなお話ではないんです。多少知つてゐるという方は、多少知つてゐるからこそそのことについて何も触れないという方、知つていてそのことについてああだこうだと話をしてくださいの方と二つに分かれます。いろんな話をしてくださいの方といふのは難しい政治の話をされる方もいらっしゃいましたし、私の近所にもなんとかさんという方がいて、キムチをいつももらつてねということでお話をしてくださいの方もいらっしゃいました。そして自分も在日コリアンだという方。大体私が今までご案内させていただいた方の中では日本の名前を通称名を使われてる方が多くいらっしゃいまして、私の耳元で「僕もパクなんだよ。僕もキムなんだよ」というような感じでお話をしてくださいの方も多くいらっしゃいました。全体を通してですけれど、そういう大きく分けて三つのタイプのお客さま皆さんに、在日コリアンという存在がこうして頑張つて生きてるんだよということを知らしめると申しますかお伝えさせていたぐことができた四年間だったんではないかなと思つております。全く知らない方に関しましては、新聞なんかでもたまに特集しますよね。そういうしたものを見ていただいて、添乗員さんもそうだったんだな、こういう添乗員さんがいたんだなということで、そこから何かが始まるきっかけになつたんではないかなと勝手に思つております。そして多少なりとも知つていて、私にいろいろお話をしてくださいの方、そういった方には私も話の一つになつたんじゃないかなと思つております。そしてこの中で添乗員の仕事をイ・ジョンジャという名前を使つてやつて一番良かつたなど思つるのは、「自分も在日なんだよ」とおつしやつたお客様と触れ合うことができたことです。特に修学旅行に行きますと、どこの学校にも大体一人か二人ぐらいは在日コリアンの生徒さんがいらっしゃいました。海外なんかでパスポートが違いますから、学校側が配慮をしましてパスポートに全員カバーを掛けさせらんです。生徒さんによりますけれども、生徒さんによつては飄々としてましてパスポートカバーを付けず

にそのままのパスポートでいたりですとか、逆に絶対に知られたくないという生徒さんもいらっしゃいます。そういういた場合は、パスポートコントロールで、ずっと日本の同じ制服を着た生徒さんが日本のパスポートを出してるのに、その子だけ同じ制服を着ててパスポートが違う、なんで違うんだということを聞かれる可能性がありますから、その子のすぐ後ろについて対応することもありました。海外の場合でしたら、パスポートで在日かがわかりますが、国内でしたらパスポートは必要ないので、在日コリアンということがわかる場所というのではありません。生徒さんは添乗員によく話をしてくれるんです。「添乗員さん」と言つて、集まつてきていろいろな話をするんですが、「添乗員さん、なんでイつていうの?」と言われるんですね。私はこうこうこうでねという話をしていく、「へえ、すごいな」と言ってくれるんです。するとその中の一人の子が「私もそうやねん」ということで突然その場で言い出して、周りの子は「ああそりゃん」ということで、そこからその子たちの世界が始まるわけなんですねけれど。私も自分の学生の頃を思い出してみた時にそういうきっかけはなかなかなかつたんですね。日本の名前をずっと使つてましたから、自分が韓国籍でどうのこうのっていう話を特別するきっかけがなかつたので、生徒さんたちに自然にきっかけが与えられたのではないかなというふうに思つてます。また、一般的のツアーや韓国籍の方が結構いらつしやいまして、国内でしたら日本の名前を使ってらつしやるとわからないんですけど、海外のツアーやご案内させていただくときはパスポートの名前を必ず頂戴します。それと通称名といわれるお名前がおりでしたら、そちらの名前も教えていただくので、私どもの方では両方とも把握をしているんですね。なのでお会いさせていただく前からこの方は韓国籍の方でこの方は朝鮮籍の方で中國籍の方でということでわかつてんです。一度韓国籍の方がいらっしゃるなと思つて、ツアーのカウンターでお待ちをしてた時にそのお客さまがいらっしゃって、パスポートを拝見をさせていただいたら、日本国と書いた赤色のパスポートだつたんです。名簿が間違つてて、チケットもパスポートに書かれてる名前じやないと入れませんから、これは大変だと思つ

て、とりあえず中をパツと開けたら中は韓国のパスポートなんです。そのお客さまは日本のパスポートのカバーを付けてらつしやつたんです。それがすごくショックだつたんです。修学旅行で生徒さんに配るパスポートカバーというのは日本国とは書いてない、旅行社が作つての色付きのパスポートカバーだつたりするんです。日本国と書いてあるパスポート、本当に見た目も日本のパスポートなんだと思うようなカバーだつたので、中を開けてしばらく混乱してたんですねけれどもそれがすごくショックでした。でも考え方人はそれぞれですし、私がこうやつて本名を使ってパスポートなんかも空港などでお客さまに自分の韓国のパスポートを見せても何も思わないような人と、そうやつてカバーを付けてでも隠したいと思われてる人がいても、それはそれでその人たちの考え方だと思いますので別に何も言わなかつたんです。しかし、そのお客さまが旅行から帰る二、三日前ぐらいになりますと、いろんな自分の話をしてくださるようになつたんです。自分は在日本コリアンでこういう考え方を持つてるという話をちょくちょくするようになりますて、最後帰国の日にはそのままの日本国のかバーを取つていらつしやいました。自分が何をしたというふうには思つてませんけれど、その方は結構苦しかつたんじゃないかなと、そのカバーを付けるのが苦しかつたんじゃないかなと。何かふつきれるものがこの旅行で見つかつたんだつたら、それはそれで良かったなというふうに感じました。次に、その旅行社と現在の貿易の仕事の会社の雰囲気についてですけれども、やはり前の会社はそれなりに大手と言われてる会社でしたので世界中を相手に仕事をしていることもあり、マイノリティーに対して理解があつたと思います。一度あるテレビ番組でツアーを紹介する番組があつたんですけど、私も行かされたこともありますて。そちらでどこどこの旅行会社のイ・ジョンジャさんですということで出されたりとか、他にも在日本コリアンの方ですとか中国籍の方ですかいらつしやいましたので、その辺に聞かれては本当に理解のある会社でした。今の会社は五十名ほどの小さな会社になりますけれども、入つた時いろいろ聞かれたこともありますが、今はもう全然そういうことに触れず。それはタブー視してとかいうわけではなくて、もう珍しく

なくそういう事を聞いてこない。貿易の仕事におきまして、取引先、相手国が韓国中心になりまして、私は韓国語は全然できなかつたんですけれども、大学に入って少し勉強をしましたので韓国語ができればそれでいいということで採用されたのが強いんではないかなと思っております。二つに共通することはやはり何ができるかということですね。私なんかは結構気がきつくて、何でも思ったことパワーと言うようなタイプですから打たれ強いといいますか、就職活動する時も本名イ・ジョンジャという名前で履歴書を送つて、それだけで突き放されるような会社はこちらから願い下げだという思いがありましたから、落とされても悔しい気持ちはありませんけど悲しくはなかつたんです。しかし、在日コリアン全員がこんなに気のきつい女ばかりではないということです。それで悲しむ人もいますし、それをすごく嫌がる人もいます。ですので私のこの話を聞いて、全員が全員そういう考え方だと思わないでいただきたいということです。修学旅行の生徒さんにしろ、パートを取つた方にしろ、在日コリアンがこうやって頑張つてるんだよと。全く知らない人のきっかけになつて、私を知つてゐる人の中での話の一つになつてということで、在日コリアンの認知度といいますか知名度といいますか適切な言葉が見つかりませんが、そういうものが少しでも高くなればという思いがありまして、今までずっと仕事をしてきましたし、これから先も本名で仕事をしていくこうと思っております。やはり昨日の夜寝る前に話をまとめて、なかなかまとまりがつかないままなんんですけど、何かご質問があれば後の質疑応答でということでの辺で終わりにさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

仲尾：ありがとうございました。質疑応答に入る前にちょっと確認をさせていただきたいんですが、イ・ジョンジャさんは大手の旅行会社に入られた時は正社員ですか。正社員ですね。キム・ケジヤさんは非常勤ですね。そういう雇用のされ方が違うところはありますが、両方ともサービス業、たくさんのお客さ

んを相手にされてるという点で共通点がありましたし、お二人のお話から職場の様子いろんな民族いろんな国籍の人を相手にしながら、しかも在日ということを明らかにしつつ仕事をされてきた。そういう共通点もあつたように思います。就職の問題については皆さん方も在日の方が最後にジョンジャさんが言われたように、大変厳しい状況が一面ではあるということとも、「ざいますけれども、そういうことを含めて皆さん方からのいろんなご質疑などをこの後お受けして、お二人にお答えいただくという形で今日のフォーラムを進めてまいりたいと思います。

司会：二部に入ります前に休憩を少し取らせていただきます。大体五分間ぐらいの間にお手元の方に配つております質問・ご意見用紙の方に記入していただきまして、後ろの方の箱にお入れください。お二人に対する質問・ご意見よろしくお願ひいたします。第一部は大体三時ぐらいの予定です。お願いします。ありがとうございました。（休憩）それでは皆さまからお預かりいたしましたご質問とご意見を元に第二部を始めさせていただきます。よろしくお願ひします。

仲尾：皆さんから十五名の方からご質問および感想、ご意見などをいただいております。それぞれのペナリストに名指しでのご質問、これはそれぞれの方にお答えいただきまして、特に名指しがない場合はお一人に一言ずつ答えていただく。こんな形で進めさせていただきます。感想、ご意見については後半の方にまとめて全部読み上げさせていただきます。まず第一番目の方からの質問ですが、イさんに「なぜ転職されたのですか」というご質問です。

イ・ジョンジャ・添乗員：という仕事はとってもハードな仕事でして、睡眠時間が大体一～二時間、時差もあ

りますし、毎日ベッドが違うわけなんですね。一ヶ月の半分以上違うベッドで生活をしていて、睡眠時間二、三時間の生活をしていれば、そろそろ地に足を付けた生活がしたいなど四年目ぐらいに思いまして。そして転職をいたしました。

仲尾：ありがとうございます。キム・ケジャさんには「一番辛かつた」とは何ですか？

キム・ケジャ：やはり日本語なんんですけど、内々で敬語を使っていいのか、この方にはどこまで何々さんと、そういう使い方を習うまでもなく困りました。

仲尾：ありがとうございます。今のお話にあるように、日本語は敬語あるいは謙譲語がとても発達しています。そういう特徴がありますから、学校で朝鮮語を主として勉強してこられた方にとっては大変難しいといふふうに感じられたんだでしょうね。

キム・ケジャ：でもできる方もたくさんいらっしゃるとは思います。

仲尾：わかりました。次の方に進みます。「お二人にお聞きします。最近楽しかった」と、嬉しかったこと、仕事またはプライベートがあれば教えてください」ということです。一つでいいですから、まずイ・ジョンジヤさんからお願いします。

イ・ジョンジヤ：これは在日を意識して嬉しかったことでしょう。

仲尾・そう解釈しましょう。

イ・ジョンジャ・在日を意識して嬉しかったことですね、特にありません。

仲尾・普通の日常生活は?

イ・ジョンジャ・日常生活でしたら、昨日雑祭りでしたので母がケーキを買ってきてくれたことが嬉しかったです。

キム・ケジヤ・二日前に韓國のお母さんが集まって皆でお昼を食べました。キンパブという韓國の海苔巻きといろんな野菜のサラダなんんですけど、それをチヨジャン（味付け味噌）であえたのをいただいて、いろいろ楽しくお話したのが楽しかったです。

仲尾・ありがとうございます。ご存じの方もあるかと思いますが、韓國の海苔巻きは日本とちょっと違いますね。海苔で巻いてあるんですけど、ご飯に酢飯を使いません。酢がありません。海苔に胡麻油をしきますね。ですから同じ形をしておりますけれども全然味が違います。まだの方一度おためしください。これは家庭でも簡単に作れます。次はイさんにお尋ねします。「在日に理解のあるやりがいのある大手旅行社を四年でやめられたのはなぜですか」。これはさきほどありましたね。次に進みます。「美しいお二人に質問。結婚に関して国籍の違いとか考えられますか」という質問です。どちらからでも結構です。

キム・ケジヤ・私自身どこの国の人でも全くいいです。

イ・ジョンジヤ・国籍の違いとかですね。普段生活をしていて出会いがあるのは、やはり日本籍の方がほとんどですので、恋愛結婚するなら日本人との確率が多くなるんじゃないかなという程度で、特に在日じやないとというような思いはありません。

仲尾・次の方に進みましょう。「イ・ジョンジヤさんは小・中・高は民族学校ではなかつたのですか。一般的に民族学校に入るかどうかというのは、一、入るための資格は?二、日本の学校とどちらでも選べるか?三、どちらに行く方が多いのでしょうか。」まずイ・ジョンジヤさんは全部日本の学校でしたね。一、二、三はどうしましょう、答えていただけます? 私が答えさせていただきます。民族学校は、朝鮮学校、韓国学校と両方ありますけれど、いわゆる学制は日本と一緒です、六・三・三・四制です。ですから入学の資格というものは全く特別に変わったものがあるわけではありません。民族学校に入る場合、日本籍の人でも入れられます。これは韓国学校でも朝鮮学校でもそうです。国籍や民族を特に問うということではないようです。一番、日本の学校とどちらでも選べるのか。これは選べます。小学校について言いますと、満六才の四月を迎える子どもは教育委員会から日本人の子どもの場合就学通知が来ます。これは義務教育ですから就学しろという通知です。外国籍の方には就学案内が来ます。これは義務ではないわけで、日本の学校へ行くのであればご案内しますという意味合いで就学案内が届いております。その就学案内にのつて日本の学校に行くか民族学校に進めるか、それは主として親の判断ということになつてきますので特に制限とか資格があるわけではありません。三番、どちらに行く方が多いのですか。大体京都市の場合、おそらく全国平均でもそんなに違わないと思いますが、民族学校に行かれる方は約二割ぐらいです。あの八割は日本の学校にな

ります。これは本人の希望あるいは親の希望ということもありますけれども、まず小学校の時点ですぐにたくさんの民族学校があるわけではありません。京都市内では三校ですね。ですからどうしても遠くになる、交通機関が大変、交通費もかかる、授業料も安くないと。小学校から有料ですから。そんなこともあって民族学校に行きたいと思つても諦めるという場合もあります。逆に日本に定住することはわかつてゐるんだからわざわざ行く必要もないというようにお考への方もおられます。あるいは小学校、中学校は民族学校へ行かせるが、将来の進路、進学や就職を考えて高校になると日本の学校に行かせる、そういうことをなさつてゐる方も聞いています。大づかみに言つて、そんなところが現状ではないでしょうか。もし何かこのことについてお二人の方で私の意見が間違つていたり付け加えることがあつたらおつしやつてください。それから今度はパスポートの問題。「朝鮮籍の方のパスポートに関して教えてください。国交がないので、いわゆる北朝鮮と国交がないという意味ですが、パスポートを持てず、その都度証明を出すと聞いたように思ひます。海外でこういう事例は少ないのでしょうか」。まず日本と朝鮮民主主義人民共和国とは国交がまだ樹立されおりませんので、先ほどから朝鮮籍といふ話が出ておりますが、厳密に言うと朝鮮国籍ではないんですね。つまり外国人登録上の記号として日本政府が朝鮮という一九四七年以降使つてきた登録事項をそのまま朝鮮籍と称してゐるわけです。それで朝鮮籍の方がまず韓国へ行かれる場合は、韓国政府が朝鮮籍の方も韓国の国民とみなしますから、日本にある韓国の領事館へ行つて臨時パスポートを出してもらう必要があります。これは一回限りなんです。故郷訪問とかお墓参りとか親族訪問とか、そういう時に原則として出す。最近はそうじやない観光でも行けるようになつてしましましたけれど、韓国を訪問することができる。ただし原則一回、二回目からはもう韓国籍を取つた方がいいんじゃないかと、そういうことを領事館で言われるということを聞いています。それ以外の国に行く場合は、朝鮮総連の方でその人の渡航証明書を出すということになつてゐるようです。ようすどいうのは直接私自身が経験したことがないで、いろんな方のお話を聞いてのことな

んで、そういう表現をさせていただきますが。今朝鮮籍の方も世界中ほとんど行けるんです。決してそんな孤立した状態ではない。というのは、日本と国交が樹立しておりませんけれども、世界の中の二百数十ヶ国の中百数十ヶ国と北朝鮮は国交は樹立してゐるんです。特に数年前ヨーロッパ諸国がなだれを打つたように国交を結んでおります。そういうことを含めて、日本やアメリカが国交を樹立していないというのはむしろ異例のことなんです。そういうわけですから、朝鮮総連の発行する渡航証明書を出せば、百数十ヶ国には少なくとも問題なく行ける、現に行つておられるということであります。次へ進めさせていただきます。「私の友人にもたくさん在日コリアンの方はいらっしゃいますが、日頃のお付き合いの中ではお互に大きな壁や違和感を感じることもなくつき合えているようには感じています。お一人が仕事を通じて改めて自分が在日コリアンなんだと感じる時はどのよくな時ですか」。先ほどのお話の中にもありましたけれども、改めて一言ずついただきましょうか。

イ・ジョンジャ：普段生活をしていてとか仕事をしていく、自分が在日コリアンなんだなどという認識をすることはそんなにありません。ただお昼休みなんかにお食事をしながら、選挙のはがきが来た来ないなんていう話になりますと、私の家には来ませんからそういう時に「ああ韓国籍在日コリアンなんだな」というふうに思うくらいです。

キム・ケジヤ：私の場合は名札をキムと付けてるので、韓国の方が私に「韓國の方ですか」と聞かれる時に、「ああ私は韓国人なんだ」とそう思います。毎日はそういうことは感じておりません。仕事で精一杯です。

仲尾：ありがとうございます。選挙の問題は在日の方からよく聞きますね。日本人が投票行きたくないか

ら行かない、好きな政党や人がないから行かないと言つたら、在日の人は怒る人多いんです。私には選挙権がないのにと。そういうことの一端が今お話があつたことのご感想かもしません。それから名札ですけども、多くの会社では通称名で仕事をしている方が多いですね。するとキムさんではなくて、金山とか金本とか出でるわけです。それじゃなくて、キムさんというように本名で名前が出来る例はむしろ少ないので、それで余計いろいろ皆さんから関心を持たれるということもあるでしょうね。私はもうだいぶ前ですが、三条河原町のある居酒屋チエーン店に行つたら、居酒屋のサービスの女性がやっぱりキムと書いてました。大変嬉しかったですね。その居酒屋チエーン店は本名で接客をするということを普通のこととして認めてるようです。今もその居酒屋があるかどうか知りませんけど、もしあつたら行つてあげてください。その次へ進みます。「本日のテーマからはずれる質問で恐縮ですが、パスポートのお話が出ましたので教えていただけます。在日コリアンの国籍つまり韓国か北朝鮮かはどのようにして決まるのでしょうか。在日の大半の人が韓国のそれも南部の方の出身と聞いています。在日のご夫婦で子どもが生まれた時にどちらかの国の国民を選択するのでしょうか。よろしくお願ひします。」これは私にという質問ですので私から答えさせていただきます。まず国籍は戦前から来ておられる方つまり特別永住の方ですかから特別永住の方が、私は朝鮮という記号で一九四七年に親が登録していただけれども韓国国籍を改めて取りたいという場合は、韓国の領事館に申請して所定の手続きを取ればそのまま韓国籍、大韓民国国民ということになります。「北朝鮮かは」とあります、先ほども申しておりますように北朝鮮とは国交がありません。北朝鮮政府も韓国政府と同じように在日韓国人、朝鮮人は全部朝鮮民主主義人民共和国の公民である国民であるという認識です。ですから改めて朝鮮籍を今の段階で登録するという必要はないというのが北朝鮮政府の立場なんです。ですから改めて韓国籍を取るか、朝鮮のままの記号でいくか。もしまだ将来日本と北朝鮮の国交が樹立されば、その時点で改めて在日の人々がどちらの国籍を取るか、特に朝鮮籍の方が北朝鮮国籍を取るという手続

きがその時にでてきます、在日本朝鮮民主主義人民共和国大使館または領事館に申請をするということになるのではなかろうかと思います。いざれにしてもこの国籍の問題については在日コリアンの場合は本人あるいはその家族が決めるというわけでありまして、日本政府や日本人が決めるということではありません。そのようにお考えいただければいいかと思います。後半のご質問ですが、在日の大半の人が韓国それも南部の方の出身である。これはその通りです。特に関西に来ておられる方は慶尚南北道(キヨンサンナンボクドウ)、ケイショウドですね。プサンやテグウ辺りからの出身の方が大変多い。濟州道(チエジドウ)、濟州島(サイシユウトウ)出身の方もそれに次いで多い。全羅道(チヨルラド)から来ておられる方も少しほられる。こういう順序になります。ですから墓参とか親戚訪問とか故郷訪問といふことになると、朝鮮籍の方でもやはり臨時パスポートを取つて韓国へ行くということが必要な方が大変多いということになります。最後のご質問「在日のご夫婦で子どもを生んだ時にどちらの国の国民を選択するのでしょうか」。現在の方に子どもさんが生まれたとします。「ご夫婦が」とありますので、これはこのままでは日本国籍は取れません。日本国国籍法は血統主義なんです。父または母が日本籍であれば、その子は日本籍を取るということになります。ですから両方とも在日の方でありますと日本国籍にはなりません。外国人登録を親がされます、その時に韓国として登録されるか朝鮮として登録されるか。これが第一段階です。その後日本国籍を取るということは可能になります。ということは「帰化」という方法がありまして、一定のこれも大変難しい条件なんですが、条件をパスすれば成人後日本国籍を取るということが可能になります。韓国籍にするか朝鮮籍にするかは今申しました外国人登録をする段階で親がどちらにするかとすることによつて決まります。ただし先ほど申し上げましたように、朝鮮の場合は今のところ国籍ではありませんので、将来日朝国交樹立以降の問題にこの子どもさんの国籍も改めて本人ないし家族が決めるということになつていくのではないかと思います。以上です。それから追加で申し上げますと、父または母がというのは日本の国籍法です

から。片一方が日本籍、日本人である場合にはその子どもは二十才までは日本籍と登録しておいてもいいんです。二十才～二十二才の間の二年間の間に、本人がどちらかの国籍を取得するという宣言をして、どちらの国籍を捨てるという宣言をすれば、その時点ですで日本籍あるいは韓国または朝鮮籍かという選択ができる。こうのことになります。追加で申し上げておきます。次のご質問、まだ少し質問が一、二ありますので続けます。「お二人はサービス業ですが、配布資料を見ているとサービス業の比率はそれほど高くなく、事務従事者が異常に多いように思うのですが。就業構造等でお気づきの点があれば教えてください」。

これは私が出した資料なので、これも私がお答えさせていただきますと。私の記憶では日本人の就業構造は事務従事者はもつと多いです。二十五%よりもつと多いです。サービス業ももつと多いと思われます。先ほども申しましたけども、管理的職業従事者がもう少し少ないというように覚えております。記憶だけでもちょっと正確なことわからんんですけど。日本人の就業構造については国勢調査を元にして統計が公表されておりまして、関心のある方はぜひ日本人の統計とこれとを突き合わせて見ていただければ、その特徴が浮かび上がってくるのではないかと思います。その次の質問に参ります。「在日の方にとつて祖国はどこになるのでしょうか。日本の社会は実名、本名ですね、で生きていくのはじづらいですか」。この二つの質問がありますが、これはお二人に一言ずつまたお答えいただきましょう。

キム・ケジャ：私は日本生まれの日本育ちなので、やはり日本も自分の祖国みたいに思いますし、韓国もどちらとも一つとも思うと 思います。ルーツはいつも韓国人なんんですけど。それで答えになるでしょうか。そして今まで私は実名キム・ケジャでずっと生きてきて別にしづらいことはありませんでした。でも狭い世界で育つてきたので、またもつと違う所では生きていくのは難しい」ともあつたかもしません。

イ・ジョンジャ：難しいですね。祖国、國となるとやはり韓国だと思います。日本は祖国ではないという思い

があります。滋賀県は故郷、すごくそういう思いが強いです。名前に関してはしづらいといいますか、この李という漢字を季節の季と書く方が多いんですね。それで名前を間違うなんて失礼だなと思うぐらいで。あとはそんなにしづらいということはないです。

仲尾：ありがとうございます。よく在日の方、特に高校生とか大学生が本名を名乗るというのはとても勇気がいるということをいろいろ聞いておりますが、今日のお二人はその辺は非常にすつきりクリアされてるというか、今のお話を聞いても特に本名でしづらいということはないというわけですから。名乗つてしまえばそれつきりというか、それだけのことかもしれませんね。

イ・ジョンジャ・ケジヤさんは最初からキム・ケジヤさんという名前だったんですね。私は生まれた時からずっと日本の名前を使ってまして、大学生の時に変えたんですけど。その変える前後ぐらいが一番葛藤がありました。今はもう飘々と生きてますけれども。変えようかなと思い始める前というのはイ・ジョンジャという名前は普段絶対に使うことはないというふうに思つてたんです。私は生まれた時からホシヤマセイコという名前で、おじいちゃんも政治の政に子どもの子と書いて政子と読むように付けてくれたんだから、私の名前は政子だというふうにずっと認識をしてたんですけど。大学に入つて、海外なんかにお友達と旅行に行くようになつて、スポーツの名前が違うんです、イ・ジョンジャというふうに書いてあつて。それがもう煩わしくなつたんです。それが大きな原因だと思うんですけど。変えて、周りがどういうふうに見るんだろうというのがすごく怖かつたのは大きかつたですね。一番最初変える時に大学の学生課に行つて、名前をイ・ジョンジャに変えようと思うんですけど話をしたら、学生課のお兄さんに「本当に変えるの？ 変えたら、もう日本の名前に変えないよ。変えた手続きをもうしないよ」というふうに言われたんです。なんでこの人

にこんなことと言われなきやならないんだと腹が立つたんですけど。その辺りですごく怖かったです。今でも覚えてるんですけど、JRの定期券を買う時に一回本名で書いてみようと思つて、イ・ジョンジャと書いたんですけど、別にそのまま何にも反応されることもなく、反応も別にする方がおかしいんですけど。されるともなく、そうやってだんだん慣れてきて、今はこっちの方が自然な感じですね。

仲尾：ありがとうございました。名前のことについては特に女性の場合こんな話も聞きます。在日の方で女性として生まれます。するとお父さんの名前があります。お父さんが日本名、通称名を持つておられる。すると子どもの頃は大体通称名でいかれる方が多い。お父さんの姓を受け継いだ名前もある。結婚されます。結婚された相手が自分の姓と違いますから当然別の姓があります。それからその方がまた日本名を名乗つておられる。その地域で日本名で生活されると、結局その人は四つ名前を持つてるんです。しかもそれが日本読み、それと朝鮮語、韓国語読みで分かれます。それであと二つくつつく、ということになつて六つの呼び方があると。そういう非常に複雑なことにもなりかねないんですね。そんなことが在日の方の現実の中にあります。それから祖国のことについて申し上げますと、ある在日三世の方がこういうことを言つておられた記憶があります。祖国というのは今も、イ・ジョンジャさんが言われたように、やっぱりおじいさんおばあさん、あるいは先祖の生まれた国という点では朝鮮半島だと、どちらの国かは別にして。母国というと、やっぱり自分は日本で生まれて日本で生活してるから、やっぱり母国は日本だろう。故郷というと今言われたように滋賀県だ京都だとこのように思つてる、そういう方がありました。奇しくも今言われたようなことにピッタリ合いますね。キム・ケジヤさんもそういうところでしようか。次に参りましょう。「会社勤めの苦労、楽しさ、いろいろあつたと思います。これからも頑張ってください。質問一、自分に向いてる仕事は何だと思いますか。あるいはこれからしてみたい仕事は？」一番、在日としての会社勤めでは言葉が強みに

なつたり逆に弱みになつたりとかしますが、いわゆる生活習慣の違い、例えばチエサ、敬語、食生活が大きく影響したような経験がありましたか。あつたとしたら、それはプラスだったでしょうか、あるいは負・マイナスだったのでしょうか」。お話の中にもちょっと出ておりましたけれど、「質問がありますので、重ねて簡単にお一人一言ずつお答えください。

イ・ジョンジャ：自分に向いてる仕事は何だと思いますか、模索中です。在日としての会社勤め。これは普段は会社で法事の話ですか法事がどうのこうのということは仕事には影響してきませんのでそんなに感じたこともありませんし。プラスもマイナスもゼロという感じですね。

キム・ケジャ：一番の答えには今している仕事を一生懸命していきたいと思っていますし、またこれからは今から考えたいと思います。一番目の、やっぱり韓国語がしゃべれて良かったなと思うことは多いですし、言葉つてすごく大事だと思います。生活習慣の方では別にあまり感じることはありません。

仲尾：それではここから先はご感想です。ご紹介いたします。「キム・ケジャさんもイ・ジョンジャさんも在日あることに誇りを持っていることが伝わり、聞いていてカッコいいと思いました。韓国語ができるという強みを生かして社会で活躍されてほしいと思いました。」次の方。「お二人を在日一世、在日三世と紹介されているということは、世代の違いを表すということだと思いますが、実際に二世と言われる人は年齢では何才から何才で、三世は何才から何才であるのか。一世に特徴的な考え方や行動パターン、三世にも同様なそついた括り方はできるのでしょうか。明らかに一世とは違うというのはイメージできるのですが。これは後で少し答えていただきましょう。「お二人ともそれぞれ職場環境が多様な人々との出会いを前提と

しているということで、その中で在日の存在も多様さを構成している一つと感じられたと思いますが、日本人という多様さの一つを日本人も感じていった方がいいと思いました。（何のことやら）本名、名前についての思いをもう少し話していただければ」。本名、お名前についてのことは今まで二回か三回繰り返し言われますが、少しお尋ねしたいのは前半のことですね。一世、二世、三世。つまり一世であるキム・ケジヤさんは、あるいは三世であるイ・ジョンジャさんはおじいさんおばあさん、お父さんお母さんである一世の方をどのように自分たちの世代と違つなどいうふうに見られているか。三世であるイ・ジョンジャさんは一世、お父さんお母さんをどのように違つなどいうように見ておられるか。その辺りを少しお聞かせただけるでしょうか。

イ・ジョンジャ：うちの両親が一世なんですね。一世の人たちは一世である自分たちの両親をダイレクトに見てますから、私から見たらおじいちゃんおばあちゃんですね、韓国から伝わる文化を絶対に守らないといけない。絶対に大切にしなければいけなという思いがすごくうちの両親からも伝わります。三世になりますと、その気持ちは薄れていきますね。私は韓国に一年近く行つてたことがあるんですけど、やはり昔から日本でもそうだと、どこの国でもそうだと思うんですけど、昔からの物つて少し風化をされたりとか少しづつ形を変えながら守られていつたりとかするんですが。在日の私たちの中に残つてる伝統文化と韓国本国の伝統文化が少し違うなどいうふうに思ったことがあります。いい悪いは別にして、うちの父や母はずつと守り続けたいと思ってるものに対し、私たち姉妹はそれほど父ほどは。もちろん大切にはしていきたいですけれど、そんなに絶対的に崩してはいけないというような思いは少なくなつてきてると思います。これは答えになつてないと思うんですけれども。こんな回答ではダメですか。

キム・ケジヤ・一世といえど私の父なんですけど。一世のイメージは父そのものでアボジと呼んでるんですけど、本当に食べ物もほとんど韓国の料理を毎日食べてますし、小さい頃から家に帰つたら漢方薬の匂いとか胡麻油の匂いとかそういうイメージと。チエサとかいろんな風習にうるさく、国を想う気持ちがすごく強く強いと思います。今の韓国と日本との一世の方は韓国を離れてきたので国を想う気持ちがすごく強いので、韓国に住んでらっしゃるそのぐらいのお年の方は、父は七十七才ぐらいなんですが、同じ年の方よりもっと風習とかそもそも厳しく子どもに教えてきたと思います。私は二世で四十五才なんですが、私が二世の多分最後で友達も皆一世の方が多いんですけど。父がすごく厳しかったので、三分の一ぐらいは父の考えが知らない間に自分の頭の中に入っていますし。私は娘が一人いるんですけどもうすぐ十八才なんですが、彼女は三世になるんですけど全く違うと思います。でも私がなるべく伝えていきたいと思っています。

仲尾・ありがとうございました。今のお話の中で四十五才という辺りが一世の最後の方だとおっしゃいましたね。「一世の始まりはいつかといいますと、私と同じくらいの年齢の在日のある人は、「私は二才の時に親に連れられて日本に来た」と言つてました。ですからその方が一世の始まりですね。一世で一番お年を召しているのが大体七十才。七十才、四十五才というのが一世ということになるかと思います。一世については一九〇五年百年前の第二次日韓保護条約の時ぐらいから増えておりまして、それが一九三五年までの間にどんどん増えまして約百四十万人に達しています。この方はは自身で来て、後から家族を連れて来るようになつたとか、あるいは日本で家族が増えたとかそういう方々ですね。百四十万の中に一世もおられれば一世もおられるということになります。戦前日本で三世であつたということは、おられるかもしませんがあまり聞いてはおりません。年代からすると、一九一〇年代二十年代に来られた方はあり得る話ではありますけど。一九四五年には二百万人に達してました。でもその方々の多くは一九三〇年代後半から来られた方で、

これは半ば強制的に連れて来られたという形ですから単身の方が多い。そしてほとんどその方々は解放と同時に帰つておられます。残られた六十万人の中での比率が一世が半分から六割、二世の方が四割ぐらいだつたでしようか。大体そんなふうに見ておけばいいのではないかと思います。以上が世代構成と世代交替に関するざつとした話です。最後にもう一人だけご感想がありますので、このご感想によつて最後にしたいと思います。「お二人ともとても素晴らしいお話を興味深く聞かせていただきました。ジョンジャさんが最後に読まれた詩も素敵でした。」以上です。今日はお二人の方にお仕事を通じての様々な在日としての思いを話してくださいました。お仕事についてはお二人とも本当にサービス業という共通性もあり、非常に国際的な人々の出入りの中で仕事をしてらつしやる。そういう共通点もあつたかと思います。このような職種あるいは業種に在日の方が就かれてる、あるいはそれで普通に就職されたということはとても素晴らしいことだと思うんですね。と申しますのは、かつてはとてもそんな状況ではありませんでした。今でも一皮むけば、やはり在日の人の就職は厳しいという例もたくさん聞いております。けれども少しずつ日本社会が変わってきたんだということも改めて印象づけられました。これから以降あと二回のフォーラムの中でもお仕事の話について他のパネリストの方から聞くことができると思いますので、これ以上付け加えませんけど、そのような日本社会の変化と在日の方々の活躍ぶりが直接お聞きする機会も出でたということで、それなりに私は嬉しく思つております。どうも今日はお二人大変ありがとうございました。それではフォーラム、私の司会はこれで終わらせていただきます。

司会・本日はどうもありがとうございました。本日はご来場いただきましてありがとうございます。次回十一日はご自分で会社、事務所、お店等を運営されている方々のお話を伺うことになつております。どうぞ次回もおいでいただきますようにお待ちしております。ありがとうございました。

## 第二回 「自営業」で活躍する在日コリアン

パネリスト

金 慶光  
(在日一世 会社経営)

金 千代  
(在日三世 飲食店経営)

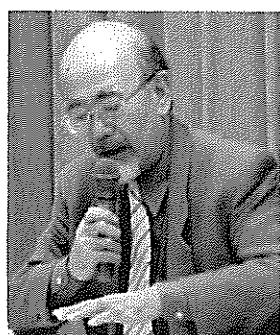
コーディネーター

仲尾 宏  
(京都造形芸術大学客員教授)

—1005年3月11日実施



司会・今日は「チョゴリときもの」の第三回目と「う」とで、自営業で活躍する在日コリアンの方のお二人を紹介しております。出演者を紹介いたしますと、まずコーディネーターはいつも仲尾先生です。パネリストの方ですが、お一人目が金慶光（キム・ケイミツ）様です。キムさんは今株式会社を経営しておられます。もう一人の方が金千代（キム・チヨンデ）様です。キム・チヨンデ様は今飲食店経営ということです。それでは先生よろしくお願ひします。



仲尾・大変長らくお待たせいたしました。今日は自営業で活躍する在日コリアンというタイトルにしています。今日お配りしたこの資料がございます。前回の時にも少し申し上げたんですけど、在日の方は日本人一般とくらべて自営業に分類される方が大変多いということになります。それが今日お配りした資料にも現れております。この資料は一九九七年に京都市が京都市に在住する京都市民、外国籍市民をあわせて意識調査をやりまして、その時に無作為で抽出した人について職業の分類をしてみたんです。そうするとオールドカマー、ニューカマー、韓国・朝鮮籍の方についてはこういう分類ができるんですが。オールドカマーリーというのは一九五二年四月二十八日サンフランシスコ条約発効以前に日本に住んでおられた方とその子孫になります。つまり戦前からの日本居住者の子孫ということになります。ニューカマーはそれ以降日本に渡つて来られた方。これは日韓基本条約が締結されました四十年前一九六五年以降少しずつ増えまして、現在数万の人々が日本に定住されているということになります。そのニューカマーの方から申しますと一番多いのは学生です。韓国からの留学生です。それが二十八%。それからその次が教育、教員、研究職、つまり大学であるとか高校の非常勤を含めた先生の数ということになります。三番目は主婦。こういうことです。そ

れにくらべて、オールドカマーの方は非常に際立つた対照があります。まず一番多いのは自営業の方二十二・六%。この数字は下に書きましたけれど、九十五年の京都市の国勢調査の日本人就業者の中の自営業種は十四・五%という率です。それにくらべると在日のオールドカマーの二十一・六%が非常に高い数字であるということが言えると思います。那次は主婦十六・一%。これはオールドカマー、ニューカマーあまり差はありません。オールドカマーでその次に多いのは無職十五・三%。これも非常に多いです。

これはおそらく在日一世の方々がもう六十才を過ぎてほとんど仕事に就くことができない、第一の就職に就くことができないという方が非常に多い。つまり土木作業をはじめとしたきつい仕事で生きてこられてましたけれど、六十才を過ぎると第二の就職にはありませんし、身体の点でもそれは「無理だ」ということからこういうことになつてゐるのではないかと思われます。技能工、生産従事者が七・二%、管理的職業従事者が六・六%とこんな順位で並んでいます。在日の方の自営業についてですけれど、戦後ほとんど日本人を含めて仕事がないという社会の混乱期の中で、在日の方々は仕事を見つけていく上で日本人以上に大変苦労をされています。つまり日本の企業に雇用されるという機会が非常に稀でしたから、そういうことから自分た

#### 民間企業の就職問題について

##### 1 調査結果からみた就職問題

###### (1) 岐差と興味のかかわり

	オールドカマー	ニューカマー
医療・保健技術者	2.5%	0.3%
技術者	1.7%	4.5%
教員・研究職	0.6%	21.0%
その他の専門職	1.0%	2.4%
管理的職業従事者	6.6%	4.2%
事務従事者	5.6%	2.1%
販売従事者	3.7%	1.2%
運輸・通信従事者	3.5%	0.6%
技術工・生産従事者	7.2%	3.0%
一般労働者	2.1%	2.1%
リーピス業	6.2%	2.4%
その他の従業用者	2.7%	1.2%
農林・漁業・採牧従事者	0.0%	0.0%
自営業	22.6%	4.5%
無職	15.3%	4.5%
主婦	16.2%	15.9%
学生	1.7%	28.4%
不明	0.8%	0.9%
計	100.0%	100.0%

\*京都市在住外国人比率・実態調査報告書(1977年)から

オールドカマーについてみると、自営業が目立ち、日本人就業者中の自営業上の率14.5%（1995年国勢調査・京都府合計分）と比較すると職業選択傾向の厳しさを示している。また、一方で、教員・研究・技術者、その他の専門職などについている人は極めて少ないことが特徴的である。

ニューカマーについてみると、出身地域（国籍）の違いを除いて学生が多く、教員・研究職がこれに次いでいる。

ちで仕事を見つけて探すということをされておりました。よく言われるのは在日の三大産業というのもあるんですね。ご存じの方おられますか。一つは土木建築の仕事。二つ目はパチンコ屋さん。三つ目は焼肉屋さん。これが在日の三大産業と言わわれている。とりわけパチンコ屋さんは日本人がほとんどやつていなかつた産業です。いまや堂々たる日本産業の一翼を担うものになつておりますが、それは在日の方々のご苦労の成果であつたということもできるかと思います。中には非常に成功されて、パチンコの全国チーンの展開をされてる方、あるいは焼肉の全国チーン、あるいは焼肉タレのチーンを作つておられて成功された方もおられます。これ以外にもソフトバンクの孫社長のように、最近のＩＴ産業の中で活躍される方もおれば、あるいはタクシー会社の経営に成功されてる方もおられます。具体的な名前を挙げますと、ロッテというのは在日の方が経営されて日本で成功されて、韓国に逆に進出して韓国でのデパートや観光産業、運輸業の大手になつておられる。そういう方もおられます。ですからそういう点で産業の規模、経営の規模という点ではまちまちですけれど、今日は自営業というふうに絞つてみました。この場合自営業というのは普通従業員が家族だけであるとか、あるいは一人一人であるとかいう零細の企業を指します。今日お二人の中最初にお話していくだけキム・ケイミツさん、（キム・キヨンガン）さんは果たしてこの自営業という分類に入れていいのかどうか多少疑問があります。つまりキム・ケイミツさん、キム・キヨンガンさんのお仕事はすでに会社を経営なさつてあるわけです。そういう点では管理的職業従事者の方に入るかもしれないせんけれども。いろんなご苦労を経られた後の今日ということですので、それは具体的にこれからお話を聞かせていただくことにしますけれど、自営から出発して会社を立ち上げられた。そういうケースであります。キム・チヨンデさんの方はまさに家族的なお仕事の中で今も焼肉屋さんを経営されているという方でありますので、そういう少しはご体験が違う、あるいは経営の規模が違う中でどういう思いで仕事をなさつてきたかということを生い立ちと絡めてお話を伺うということにいたしましよう。それでは最初、キム・ケイミツ

さん、キム・キヨンガンさんからお話をお願ひします。



キム・ケイミツ氏

キム・ケイミツ・皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介にあずかりました  
キム・キヨンガン、日本名でキン・ケイミツと申します。このレジメをお  
配りしております。本日はこのような機会をいただき、皆さまに私事では  
ありますがあ話をさせていただき、少しでも交流、友好につながればこん  
な嬉しいことはありません。少し堅い話になる点はどうかお許しいただき  
たいと思います。私は一九六五年（昭和三十二年）生まれの現在数え年で  
五十才です。京都生まれの京都育ちとして、在日コリアンの二世です。現  
在は北区に在住しております、妻と長男小学校三年生、次男三才の四人暮らしだす。広告代理店ペン株式  
会社というのを経営しております、社員さんは全部日本の方々で二十五名でやつております。まず一番目  
としまして、私の生い立ちからお話をさせていただければ後の話がわかりやすいだろうなと思います。私はJ  
Rの山陰線の花園駅、その花園駅裏の朝鮮部落で育ちました。その当時はもう豚とか鶏が放し飼いにされて  
おりまして、その部落の方でもニンニクの臭いがすごかったです。いい悪いじゃなくて一種の異国感がある  
ような地域でした。私が小学校一年生の時に父が蒸発していなくなつたもので、私と母と弟の三人で暮らし  
ていた時は六畳一間のトタン屋根で三人が暮らしておりました。そして雨漏りが大変で、しかも共同便所、  
共同水道でした。今から思えば劣悪な環境だつたんですけども、母には愛情いっぱいで育てていただきたい  
という思いが強いです。小さな雨の漏る犬小屋で母犬が子犬をお腹に抱えて暖かくしているという光景なん  
かはそのままそつくりだと私は思っております。母は土方をしたり飲み屋で働いたり内職をしたりして私  
と弟を育ててくれました。私は母の苦労を見て育ちましたし、私も小学校四年生から新聞配達をして家計を

助けました。部落から一歩出れば日本人社会。部落内では朝鮮人社会でした。部落内の人々は日本社会からの差別に對して助け合つて生きていました。部落内の集会所では時折子どもたちを集めてハングルの勉強とか歴史を教えてくれました。特に日本の朝鮮侵略についての印象が私には強く残つておりますし、子ども心に日本は悪いヤツという單純にその時受けた教育により反日感情を子ども心に持つに到りました。子どもの時は感じたまま教わったままだったんですけど。しかし、その時点では本当に以後経験する日本社会でのすさまじい排他的侮蔑的差別があるとは想像もつきませんでした。それらは社会人になってから具体的に体験することとなつて、その過程で本当の私の苦悩が始まつたとも言えます。私は何でもプラス志向で考えるタイプですので、今思えばそうした境遇で在日として生まれ、いろんな苦境、差別を受けたことに對して今となつては逆にありがたかったと感謝しておるぐらいです。しかし、ここまで心地に到るにはいろんなことがもちろんありました。次に一番目の自當の道なんですが、私が自當の道を選びましたのは二つの理由があります。一つは私自身の性格が人に使われるのがイヤで自分で何かやつてみたいという思いが非常に強い人間だったんです。笑い事じゃないんですけど、今日お越しの皆さんも私の顔を見ていただければ、なんかそういうなというのをわかつていただけるかもしれませんね。もう一つはおのれのことは自ら當まなければ、この日本社会では生きていけないなと思ったからなんです。アパートなんかも朝鮮人だから借りられない。だったら自分で家を建てるしかないなとか、就職も不利ならば自分で何か起こうと。それしか道はないなと。在日であるが故の諸々の不利に対しても自立精神が芽生えたということなんです。ただ自立精神といえば聞こえはいいんですが、実際のところの心境というのはこの社会に対する「なにくそ」という見返し根性、反骨精神、ハンガリー精神、あるいは自分の将来の不安だとも言えます。この考え方は何でも自分でやらなければ人は助けてくれないということを体験によりいろいろ教わったからだと思うんです。私はがむしゃらに商売に専念しましたし、金銭欲も非常に強いものがありました。金に力も感じましたし、金が悲惨さを救

つてくれるとも思い込んでおりました。情けないですがその当時ほどではないんですけども、今でもお金は邪魔にならないなと思つております。次に通名を捨てて本名を名乗つたいきさつなんですが、十年ぐらいまでは通名岩本と名乗つておりました。生まれた時からですで自然に名乗つてたわけなんですが、何の疑問も抱くことなく。しかし韓国から自分のパスポートを取つてみると、どこにも通名なんか記載されてなかつたんです。ましてや韓国はもちろんのこと、世界あちこちの国へ行つても、呼ばれる名前は「ミスター・キム」と呼ばれるんです。韓国なんかに行くと、キム・キヨンガンというふうに呼ばれるんです。しかし日本にいる時だけは岩本という通名を使う。何かおかしいなと思って非常に違和感を感じました。そして通名の歴史についても勉強してみますと、昔創始改名により強制的に日本に付けさせられた名前であるということがわかつたわけです。しかし実際長年通名を使つてきておりますと一種便利なところもあるんです。今日はちょっと時間が短いもので、そこらのいろんなことを具体的にお話できませんけれども、ちょっと悪いことした時や、ちょっと後ろめたい時がある時なんかは通名は便利ですね。それだけじゃないんですけど、いろいろ便利なところも実際はあります。しかしそういった利便性と自分自身のアイデンティティとの間で、通名を使うのか捨てるのかということを非常に悩んでおりました。そのジャッジをするにおいての最優先事項は子どもに対する教育、あるいは子どもに対する将来のことを考えた上でジャッジすべきだなと思つたんです。子どもに対して将来通名、私は嘘の名前だと思うんですけど、嘘の名前で行くよりも本名で胸を張つて堂々と生きてほしいと思いました。子どもが大きくなつて私のように通名で悩ませたくもなかつたんです。今では家族全員本名で通しております。妻はヨ・スッケと言いますし、ヨは余るという字を書くんですけど。私の金が先にきて、金余りになるんですけどね。長男はキム・チャヤンスという名前で小学校に通つておりますし、次男は三才なんですけどキム・チャンジで保育園に通つております。子どもに対する差別が心配だつたんですけど、どうもなさそうなので非常に安心しております。私も仕事上本名でやっておりまして

も差別というのはそつ感じませんので、よい時代になつてきたのかなという感想を持つております。ただもし今日役所の方がいらっしゃるならば、ぜひご一考いただきたい件があります。先日外国人登録の切り替えまして、私は役所に行きました。今は本名、昔は確かに岩本という通名を名乗つておりました。でももう何年も前にそれは消しており、証明書をあげても通名は出てこないのですが、しかし、職員さんに聞きました。「私の通名記録残つてますか」。「それ残つてます」。「じゃあ、消してください。もう私の名前じゃないです、私は本名で行きたいし、息子たちも本名で生まれながらやつてますし、息子たちにもそんな通名の記録もう過去の亡靈を抱えたままというのはイヤですし」と申し上げましたら、職員の方は「これは記録から消すことはできません」ということでいろいろ理由を話されました。その理由に対しても、私は「それは一理も二理もあるな」ということは理解できました。しかし私の意見に対してもやっぱりご理解いただける点があるうかと思うのです。本名を名乗り通名を記録から全部消してくださいというケースは本当に在日の全体割合からすれば少ないとthoughtします。しかし、通名のことに対する勉強をしてきた、今後は使いたくないという決意を持つてる者に対して記録を残されるというは本当につらいものがあります。対策を検討していただけたらと思います。最後に将来の夢という部分なんですが。先ほどからの話で私は自営の道で自立はできました。それは自分自身が強かつたからかもしれません。しかし、この社会には在日の方の弱者はもちろん、日本の弱者の方、韓国、朝鮮の弱者も現実にたくさん存在しておられます。同じ人間なのに、これはかわいそうと言うほかありません。そういう弱者に対しては力のある者が助ける義務はあると私は思っております。私自身もそうしていきたいと思つております。それは韓国、北朝鮮、日本ということにかかわらず同じ人間としてです。私は私個人も会社も長年に渡つてユニセフや老人ホームなどに寄付もさせていただいておりますし、大学に行けない子どものためにも奨学金を出しています。けれども今後ももつともつと社会弱者の力になつていきたいと思つております。そうすることが私自身の自己満足にな

つてているわけなんです。決してしてやつてはいるということじゃなくて、私はさせていただきたい。それは私のためにという精神でそういうことをやつております。そういった希望を持つ以外には、祖国の南北統一です。今分断されてるために親兄弟が生き別れになつてはいるということが私の親戚の中でもあります。肉親が別れて暮らしているというのは本当にかわいそうだと察していただきたいと思います。察していただきけるのであるならば、南北統一に一助をお願いしたいと思います。それと今後の日本との友好と和平ももちろん願つております。話がとびとびになるかもしれませんけれど、皆さんにはぜひとも朝鮮籍とか韓国籍、在日の方には故あって国籍の欄が韓国籍とか朝鮮籍になつておりますが、一つこの部分でも勉強していただきまして色眼鏡で見ないでほしいなと思つております。在日同士の世界ではあまり南も北もありません。どちらかというと日本の方の方が意識は強いんじやないかと思ひます。最後に生意気なようですが、眞の交流とは考え方や方法で行動などの互いの違いを認めることから始まると思うんです。否定から入れば、絶対交流は始まらないと思ひます。国際感覚とはまさに相手の違いを理解することに他ならないと思うんです。そうすれば各国との交流が促進され、今後国際交流が絶対的に必要な時代にあつて、私たちの國も井戸の蛙で孤立することは防げると思うんです。その最初が私たち一人一人の深い人間愛から始まるんではなかろうかと思います。私も今後交流のため平和のために微力ではありますが頑張つていきたいと思つております。今日は以上です。ありがとうございました。

仲尾：ありがとうございました。おそらく後で皆さん方からの質問も出るかと思ひますので少し聞かせていただきたいんですけど。今の広告代理店の会社を始められた動機、会社のことですからうまくいく時もあれば、うまくいかない時もあつたと思いますが。お差し支えない範囲で今の会社を始められた動機。今お聞きしますと二十五人の社員の方がおられる、そういうことについて、こういう方針で会社をやつてきたという

ようなことを少しお聞かせいただければと思います。

キム・ケイミツ・実は今のベン株式会社という広告代理店をやる前にいろんなことをやっておりました。先ほども申し上げましたように自立心が非常に植え付けられましたので、過去、この会社をやる前にいろんなことやってきましたが、全部それは時代に合わなかつたとか、自分が仕事に専念しなかつたとか、ギヤンブルをやり過ぎたとか、そういうた理由で継続しませんでした。今のベン株式会社というのもたまたまやつた仕事なんですけど、それが十七年間続いている。仕事って三十年続けたいと思っても続くもんじゃないですし、一年で終わりたいなと思つても終われるもんじゃないと思ひます。いろんな縁とか環境とかがあつて業歴というのが作り出されるものだと思つてます。従つて、今やつてる会社の動機というのも本当に自立精神、そして商売してお金儲けしたいということでやり出したのと同じでたまたま十七年間続いているということなんです。今現在も会社はいつも安定収入・安定成長という目標を掲げて社員さんたちとやつてますし、経営理念は周りの満足ということを掲げております。といいますのは、自分の会社だけが良くなるんじやなくて関係各位、近江商人の「三方良し」と同じで。いつてみれば、我が社を取り巻く環境はやはり株主さんもおられますし、お取り引きしている得意先、クライアントがいらっしゃいますし、あるいは出入りしていただいていたり、お手伝いしていただいてる業者さんもいらっしゃいます。また勤務していただいてる社員さんたちもいます。人々人間と人間の関係で会社も成り立つてますし、それが関係者とのお互いが満足いく形にならなければ継続や発展というのないと思つてます。そして結構それが商道の眞理だと思つてます。従つて周りの満足をもたらして自分たちの安定収入・安定成長を達成しよう。そして自分たちが活動した結果に対しても自分たちも報われるけれども、社会弱者に対しても貢献していくという姿勢でやっております。

仲尾・どうもありがとうございました。また皆さん方からのご質疑の中で触れていただくかもしれません  
が、とりあえず以上のことをお聞かせいただきました。それではキム・チヨンデさんお願ひします。



キム・チヨンデ・アンニヨンハシムニカ（こんにちは）。キム・チヨンデラゴハムミダ（金千代と申します）。おかしいですね。私はやっぱり女性なんでしょうが、さすがカッコイイ男性やなと思いましたね、今の話を聞いてて、在日の男が頑張るとこんだけできるんだと。皆思いません？ 思いましたでしよう、やっぱり。ほんとカッコ良かつたです。紹介いただきましたキム・チヨンデですねけれど、私はそんなカッコイイ仕事、かつこよくなないと卑下したらダメですね、カッコ悪いですけど、彼のレジュメ横取りして、

私もそれに沿つてお話をしたいと思つてます。私も京都生まれの京都育ちです。幼稚園から大学まで日本の学校。私の両親は一人とも幼い時に日本へやつて参りました。オモニは数えで多分キムさんと一緒にですね、数えで二、三才と言つてから本当はもっと小さかつたんじゃないかなと思うんですけど。母はそれで、父は三ヶ月ぐらいで日本へやつて来ました。母に連れられてお互い抱っこされて。どちらも八人兄弟の一番上で、ただ違うのは父親の方は向こうで仕事がないものですから、仕事を探そうと思って。韓国にいてもない時代だったんです。日本に来た方が仕事ができるというふうな公告紙（？）に誘われて内鮮一体とかいつて、日本に仕事を探しにやつて来ました。主人の父親も向こうの農学校出てるんですけど仕事がないんです。向こうの農学校出てたらエリートです。ですけど仕事がないから職もないから、そして家族兄

弟も多いから日本へ流れて来ました。そういうふうな形で私の父親も流れて来たんです。母親は今ソウルのある京畿道（キヨンギドウ）の道知事の孫として生まれました。だからその時も裕福で非常に恵まれた境遇だったんです。つまり仕事を得るために日本へ流れて来たんではなくて、命を守るために日本に流れてきました。その時の指導者はたくさん殺されました。指導者であればあるほど韓國の中です。日本の国へやつて来たら、そういうことがおおっぴらにはなかつたんで日本の京都の嵯峨の方へ流れて来ました。父親はそういう仕事探しに来た両親の元で育つて来ますから。京都の部落に、大概皆そうです。部落に流れて来ました。そしてそこに育ち、嵯峨に育つていた母とお見合いで結婚しました。母はそういう家に生まれて育つているのですからおつとりしたところがありました。道知事までやつた人のお家だったから朝鮮本土からたくさんの人たちが頼つて来てたんです。朝起きてみたら、知らない人がいるというのはザラの状況で、村長さんとかいろんな指導者たちが流れて来ました。その道知事だった私の曾おじいさんは、朝鮮半島ではそういうことがあるんでその兄弟はバラバラになつて満州へ逃げて行き、そして曾おじいさんはこつちへ流れて来ました。その後兄弟はバラバラで消息は全然わかりません。曾おじいさんという世代はそんなに遠い話じゃないのに私たちには全然わかりません。そういう悲劇がある時期でした。両親が結婚して、私たち兄妹四人が生まれました。私に兄がいるんですけど、その兄の頃に部落から出てすぐ近くの所に居を構えて私たちは育ちました。父は八人兄妹の長男ですから、結婚して当然すぐに私の祖父母たちは四十代で隠居しまして、朝鮮人というのは割とそういうのが当たり前で。長男は大人になれば家族を養うのが当たり前。二十幾つで両親が結婚してから、兄妹下七人を本当に一生懸命育てました。父は非常に頭の優秀な人で、小学校一年の一学期しか月謝を払つておりますんで、後は特待生として全部学校から公的な援助、奨学金をもらつて、今の京都工織大の前身を卒業したんです。まだ韓国人、朝鮮人の差別のきつい時だつたけれども優秀だつたもんで日本の会社に就職できました。でもサラリーマンですから、あと七人、まして私たち子供四人がいますから

生活を維持することができないから辞めまして。社長から半年ほど戻つてこいと言つて自ら来てくださった  
ということなんですねけど、食えないからいろいろな仕事をしてました。空気枕とか抱っこちゃんとか。空気  
枕は最初特許取つたのはうちだつたんです。でも家族が多い大家族ですから、そんなものだけえはとんでも  
ないです。皆口開けてパクパク待つてますから。一生懸命やつてくれて苦労もしました。日本人の詐欺師に  
もあつてピックリするような金額取られてしまつたりとか。それでも割と人を信じてすごい純な両親でした  
から、その中で育てられて、身につくものは取られないそういうような教育を、教育熱心でした。兄が京大  
の電子工学を出て、私は私学の女子大出て、弟が今の府立の整形外科の助教授になりました。妹が公立の京  
都府大出て。そういう意味でいうと、非常に恵まれて両親に育てられたなと思うんです。でもやつぱりそん  
なに恵まれていても楽じゃないですね、私たち。それぞれさつきちらつとおつしやつたように、私たちも結  
婚した時アパート借りられませんでした。本名でやると朝鮮の人は困ると言つてつつ返されました。弟も府  
立の医者なのにアメリカに留学して、こちらで結婚して向こうに行つて戻つて来て家を借りようとしたら日  
本人の保証人を付けてくれと。公立大の医者ですよ。それを憤つて、僕が保証人になると言つてくれたのは  
親友の日本人ですからね。この日本はどうなつてるんやろなと思います。私たちはそういう意味では教育を  
いろいろ受けました。教育しかありません。こちらのキムさんのように金余つません、うちは金不足です。  
もうカツカツですけれど。今焼肉屋します。たまたま今京都に住んでますけれど、その前に京都府下のあ  
る市に住んでました。その真向かいの家の男子中学生がつっぱつて不良してたんです。この辺に剃り込み  
いれて、女の子のスリッパみたいなの履いて。すごくいい子だつたのにどうしてというところから、その時  
息子が一才だつたんですけど、自分が大学生の時家庭教師をしてた経験があるので勉強見てあげる。お金は  
いいからと言つたら、向こうのご両親がそういう訳にいかんといって月謝下さつた。ラッキーです。それで  
家で塾をやりました。夫は歯科技工士をしてたんです。だけどこの人も計算ができるへん人で、金足らずで、

働いても働いてももう一つ収入が得られないんです。こんなに働いてるのに朝から晩までこんなに働いていて家族食べていけないというか苦しいのは何なんだと思って。夜は我が家で子どもを抱えながら塾をしていました。昼間はあいてるんですからパートをしたりして。本当は塾する前に子どもたちが小さいから何でもするわと、ラーメン屋のおばちゃんでもするわと言つたんですけど、在日の男は嫁さんを働かせるの外出させるのイヤなんです。大概の人はせんでもええと言つんです。私、今日本当は来たくなかつたんですよ、グチ言つちやうから。せんでもええと言つんだつたら、もうちょっとあんたなんとかしてよと思つんですけど、それはかばつときます。一生懸命やつてもダメだつたんです。そういうことにして。じゃあとということで、昼間他のアルバイトも喫茶店のお茶碗洗いとかも行つたりしてずっとやつてたんです。塾自体は焼肉屋をする前に十七年やつてました。宣伝も何もしてないんですけど、一応中学と高校の教師の免許を持ってましたし、宗教主事の資格も取つてましたから、なんとか資格で、本名でやつてましたが、来てくださいって子どもたちに勉強を教えてました。そうして生まれ育つていく中で子どもたちは最初から本名だつたんです。通名はカッコ付きであります。通名はカッコ付きであつて、在日には通名は当然付いてるもんだというふうに解釈してたんです。本名を名乗るようになつたいきさつというのは、桂高校出身なんですが、その時に除勝（ソウ・スン）の弟さんが、除俊植さん、私の先輩にいたんです。彼が本名を名乗らないかというふうに言つてくれたんです。素直に聞く方だつたから、家に帰つて「本名で行こうかなと思う」と言つたんです。別に運動体質でもないし、ナショナリストとか全然ないんですけど、そりやそうだなと思った。両親が「学業半ばで変えるのもあれだから、大学に行く時に変えたらどうか」と言つので、また素直にそうやなということ。大学の時から私たち兄妹は全員本名を名乗るようになりました。通名はいつもカッコで付いてます。子どもたちが育つていく時に、先ほどのキムさんのお話じやないけれど、本名でいくのが当たり前だなということです。カッコはどうしたらいいもんかなと思いながら、本名で行つてたらしい

ということしか思つてなかつたんです。そしたらその通名を捨てられるというのを教えてもらつたのは実は役所の方なんです。私たちも子どもたちが育つていく中でカツコはいらない、捨てられる。こちらのキムさんのその歴史、過去まで捨てたいという気持ちはずごくわかるんですけど、そういう発想はなく、とりあえず今からでもない方がいいということで、その役所の方が言つてはるのが本当かどうか知らないんですけど。ちょっと話が飛びますけど、私たち家族が全員通名、別のを付けられるんですよ。本名は変えられませんけど。だからお父さんをマツケンとか、私は吉永小百合とか。それをずっとしばらく使っていて、吉永小百合」とキム・チヨンデですつとやつていて郵便が来るようになりましたら、それを持つて役所に行つたらオッケーだそうですよ。こちらにも役所の方いらっしゃるんですか。また間違つてたら、うちの焼肉屋に来て訂正して教えてください、ビール飲みながら。そういうふうにして全部変えられると教えてもらったのは役所の方です。それは日本人で役所が付けはつたんやから昔、そやし知つてはつて当たり前かもしれないんですけど。役所でなんでそういう話になつたかというと、指紋押捺制度が署名に変わる時期に私とこの子どもたちがちょうどその時期だつたんです。自分のイヤなことは子どもにさせたくないと思つてしまつたから、五本とも最初取られるんですね。それもパッと押さえるんじゃなくて、グルリグルリと皆回していくんです。そして左手の人さし指は切り替のとき毎回グルリグルリと。大人なつたらもう顔もなんとか心臓もなんとかになつてくるんですけど、つい今まで中学生だつた女の子が「どうぞ。ちょっとこつちへ来てください」と、皆役所の人達がすわつてはるところに自分だけ奥に入られるというのはそれだけでも心臓ドキドキバクバクなんですよね。韓国でも当然指紋は取つてますけど、これは全員取つてあるんで。そうですよね、鄭晶根（チヨン・チヤンゲン）さん、韓国で取つてますでしょう。でも日本で取つてるのは犯罪者だけです。問題のある人だけでしょう。だからそれはやっぱりイヤなんですよ、自分の子どもを犯罪者と同じようにさせるのは。そういうことでいろいろ話をしている中に通名の話とかいろんなのが出てきまし

て、捨てられるんだと。そういう親を見ていたからか知らないんですが、上の娘たちの時に署名に変わったんで、その時は付いて行きました。どんなふうになるのかなということもありましたから。息子がちょうど切り替えの時に、息子には自分一人で行きなさいと、署名私もわかつてゐるから一人で行つておいでと面倒くさいから言つたんです。帰つて来まして、「行つて来た?」「行つて來た」と。そのあと何か意味不明のことを言つたんです。意味がわからなくてもう一遍聞き直したんです。「えつ?」と思つてもう一遍聞き直したら、「通名捨ててきた」と言うんです。うちの家で一番最初はあの子なんです。「通名捨ててきた。スッとした」と言つたんです。こちらのキムさんのお子さんはまだ幼い小学生で、私たちの子どもたちはそれよりも十才以上うえですが、小学生の頃名前で笑われたり「晶美(チヨンミ)、育美(ヨンミ)」とか全然学年上のよそのクラスの子が笑いながら言うんです。「朝鮮帰れ」とか、やつぱりやられてるんです。息子も小学一年の時に「韓国、韓国」と言われて、半泣きになつて家に帰つて来たんです。私がその子達を友達同士で「呼んどいで」と呼びに行かせたんです。「行かんでええ」といはつてかばいはつた親御さんのお子さんは当然来ません。「なんやー」という感じで来てくれて、ちょっとわかつてますよね、その子たち何で呼ばれたか。もう一人は「キムさんのおばちゃんが言つてるんやさかい行つておいで」と親ごさんが送り出してくれたんですね。来て、「あんたたち、ヒョンソクに言つたらしいけど。あんたたち日本、日本つて言つて、それ悪口になるの?」と言つたんです。小学校一年生やさかいもう一つようわかつてへんやろからね。「日本、日本と言つて悪口になるの?」と言つたら、「ならへん」と言つから。「そうやる。ヒョンソクは韓国人なんやから韓国、韓国いうのは悪口にならないんだよ。お帰り」と帰らせたんです。そんなこともありますし、息子がヒョンソクと言うんですけど、「短足、短足」と言つてまた悔しがつて。あの子悔しがりですから。小学生、中学生が一番やられるんですよ。いたら見ていただきたいんですけど、スマートなカッコイイ男の子なんですよ、仲尾先生。仲尾先生よりずっとカッコイイですよ。「あんたが短足やつ

たら他の子皆短足やわ」と言つてやつたら、ようわかつてへんで「あつ、そつか」と言つてそれでスッとし  
て、親がかばつてやると親が言うことはそのまま入りますからね。そんなふうにしてなんとかくり貫けてき  
たんです。一番上の子の時はもつとひどかったですけど。帰つて来たらベッドの中で小さくなつてゐるから、  
「名前で笑われた」と。入学式の次の日に言われてますから。ワーッと教室中が湧いた。先生が「いろんな  
名前の人人がいはる」と言つてくれはつたんですけど。家では「そやけどな、名前嘘で行くのがええか本当で  
行くのがええか。あんたは名前で笑われたけど、いろんな人がいはる。障害者の人もいれば外国人の人もいっ  
ぱいいる。あんたは名前を言わなかつたら皆は笑わないやろ。でも見た目でわかる人達がどんな思いするか、  
あんたわかるやろ」と言つたら、「うん、わかつた」と。そういうふうなんで、私たちは本名でやつてきま  
した。焼肉屋したのは塾をやつてる時と重なります。一番簡単に言うと、そこの町でおいしい焼肉屋がなか  
つたんですね。自分は外食嫌いじやないんですけど、その時から人が集まるの、そういう母親に育てられてま  
すから、いろんな人たちが集まるの好きで、焼肉バー・ティーをよく家でやつてたんです。皆がおいしいおい  
しいとおだててくれるものですから、よそで食べてもおいしくないから自分でしようかと。その市で十年間  
やりました。十年間やつてる中に友達がいろいろ増えてきました、その市の職員の方とか学校の先生ももち  
ろんですけどいろんな方が。本当にいい人たちに恵まれて、仲尾先生もその中のお一人ですけど。そつして  
る中にある友達と食事をしながら、「私は本当に人に恵まれてきた」と言つてたら、その友達が「ありがと  
うと感謝してるだけじゃなくて、それをもう返す時期に来たんじゃないかな」と言つて、年齢的にも。そ  
りやそうだ、ありがとうりがとうともらうばかりじゃない。じゃあどうしたらいいんだろうという  
提案の中の一つとしてその人が言つたんです。「確かにいろんなすごいバリアフリーな感覚の人たちに恵ま  
れた店だ」というんです。「それが京都市の職員には欠けてる」と、京都市の職員だけじゃない公務員に欠  
けてると言わはつたんです、ちょっと訂正します。公務員にはちょっと欠けてる感覚だと。その人も公務員

で店に来てくれてはるんです。私が京都市内で店をするとそういう人達が集まつて、いろんなことの話し合ひが広がるんじやないかと。私が京都市内に行くことがそのことで役に立つ、お返しができるんだといふうに言わはつたんで、それだつたらできそだなと思つて、今の店に移りました。政党とかいろんなことでちよつととげとげしい雰囲気になる時があるのですが、私はいいやないのと思うんです。ここはそのためには開いてるんだからカラ一に染まらないで、日本人も韓国人も障害者も。足腰悪くなつた友達は二階に上がれないと言つて嘆いてますけど。もうちょっと待つて、儲かつたらエレベーター付きにするわと。ちょっと無理ですけど。そういうふうなんで、いろんな人たち、政党も関係なしにいろんな人たちが語り合つてやつてくれたら。前に住んでた市、いろんな話すると「京都では、京都市では」と言わはるんです。京都市が変わればそこが変わる。京都市が変わつたら日本変わると思いません? 人間一人が変わればいろんな事が変わつてきますからね。末っ子は名前で笑われたり、国籍で笑われたりしないです。子供達は今まで同じ小・中で上がつてきて末の子は違う高校へ行つた。それはそういう先生たちがいらつしやつてゐる事もあるけど、上のお姉ちゃんたちが先に行つていて、先生たちと友達とが変わつてきたからでしよう。だから変えようとする人がいるから変わつてきたんだと私は思つうんです。放つといたつて変わりません。変えようとすると人がいなかつたら絶対日本も変わらないです。それぞれ皆変わらないと私は思つてます。そういうふうな小さな夢を持つて今の店をやつてます。ずらづらつととりとめもないような形になりましたけど、一応キムさんのレジユメをお借りしてなんとか。以上です。ありがとうございました。

仲尾: どうもありがとうございました。お二人にはいろいろ皆さんの方からもつとその点を聞きたいとか、もうちよつとしやべつてほしいということがたくさんあると思いますので、休み時間中に質問票にお尋ねを書いてください。それを元にして後半のセッションに入りたいと思います。

司会・ありがとうございます。それではあつちの時計で休憩を挿みまして、二十五分ぐらいに始めさせていただきたいと思います。申し訳ないですが、皆さまのお手元にある質問用紙にご意見などを二十分まで書いていただいて、外の受付の所に箱がありますのでそこにお入れください。よろしくお願ひします。（休憩）

仲尾・大変長らくお待たせいたしました。今日もまた皆さんからたくさんの方から質問と感想をいただいてます。全部で十二名の方からいただいております。まず最初に質問から答えるということにして、感想はまとめて後で読ませて披露させていただきます。まず一番の質問。一番というのは私どもに回ってきた質問票の番号を事務局の方で便宜的に付けていただいてる番号ですが、一番「焼肉屋さんはどこですか、所在地」と書いてあります。これは口頭で言つてもなんですので、キム・チヨンデさん名刺ありますね。名刺を今回していただきます。キム・チヨンデさん名刺もありますね。名刺を今回していただきますから、一緒に回します。それで特に焼肉屋さんについて興味のある方はメモをしておいでください。もちろん予約なしでもいけますが、大人数の場合は予約された方がいいかと思います。

キム・チヨンデ・今日話して良かつたです。

仲尾・実はこの質問はたくさんありましたけど、とりあえず今名刺を回させていただくということで質問にかえます。後で詳しい営業時間等必要がありましたら、休日とかおつしやつてください。次の方いきます。質問三点あります。「今の日本の憲法、歴史教育を変えようという動きについて、北朝鮮敵視の雰囲気につ

いてどのような感想を持たれますか」。こういう質問があります。大変難しい質問ですけれども、お二人から一言ずつ感想をお聞きしたいと思います。

キム・キヨンガン・北朝鮮についてなんですが、拉致問題。あれはもう最低だと思います。いくら過去の植民地政策があつたといえども、親、兄妹いらっしゃる方に対しても拉致をして引き裂く。これは人道的に許されません。これは私たち在日の社会でも当然異口同音に皆がそう言っています。しかし、北朝鮮も我が祖国です。アメリカ帝国主義に対する姿勢であるとかという話になつてくるとだいぶ難しくなつてきて、私も頭が混乱してしまいますので、難しいこと政治的なことは置いときまして。とにかく過去日本がかの国にしたことでも当然悪いこともありますけれども、北朝鮮がやつてることも批判されるべきだと当然思います。しかし、先ほどの私の話の中でも言いましたように、北朝鮮がなぜああいう考え方でああいう行動を取るのかというところをちょっとよーく見ていただきたいと思うんです。私個人は理解できる部分もあります。拉致は別ですよ、それは絶対理解できません。でも向こうの国の政策という部分については、それなりに理解できるところもあるうかと思います。今後は北朝鮮や日本、あるいは韓国がどういうふうな友好関係になつていくかは六ヶ国協議とか今頑張ってやつていただいているんですけど、いろんな国の利害も絡んでたりしますので非常に難しいと思います。でも早く統一してほしいし、そしてアジアという単位でも早くまとまって欲しいと思います。それに対して私個人があるいは私の子どもたちが何ができるかというのを考え、そういうことに対しても力を尽くしていくことを考えております。以上です。

仲尾・キム・チヨンデさんお願いします。

キム・チヨンデ・私が本名でいるのも、今の日本はちょっとおかしいんじゃないかなと思うんで。日本が好きですから大切だから、だから本名でいます。今帰化もしないですし。日本が好きだから帰化しません。でも今の日本はちょっとおかしいなと思います。ちょっと前に引越ししましたので昼テレビを見る時間ができただんですけど、家の構造から。なぜこの頃毎日のお母さん奥さんたちが見てる時間帯になんて憲法九条云々かんぬん変えようか変えまいか。えーちょっと違うんじゃない。新しい教科書採択の話とかもいろんな事がおかしいとは日本の知識人いろんな方がおっしゃってる。北朝鮮敵視もしてる。北朝鮮のバッティング。拉致問題は私もキムさんと同じですけど、何のために今こういう動きがあるのかということを考えたら、正直いって大借金して引越したばかりですけど、いざとなつたらこの家売つて好きな日本捨てて外国へ行くでと私思つてます。ちょっとこの動きは本来の日本国民、日本人の人達を大切にしてない動きじゃないかなと私はそう思つてるんです。日本の国、國益とかそういうものを優先してるような気がして、日本に住んでる日本人とか外国人とかいろんな人達を大切に考えて、あるいは日本だけじゃなくてアジア人、地球人という発想で考えてないんじゃないかなというふうに私はこの頃の動きをそういうふうに思つてます。

仲尾：ありがとうございました。大変難しい大きな課題ですが非常に簡単に要約してまとめてお話を二人からいただきました。もう一つこの方は質問があります。「今の部落はどんな雰囲気なのでしょう。昔と変わっていますか」。こういうご質問です。この場合の部落というのは、さつきキム・チヨンガンさんがおつしやつた朝鮮部落、つまり今の朝鮮人、韓国人の集住地区ですね。それがたまたまお生まれになったのは右京区の花園地区ですが、その辺りを一つ例にしてどのように変わつていったのかということを少しお話をいただきましょう。

キム・キヨンガン：私が育ちましたそこでの小学生時代、中学生時代、高校生時代の時は、まだその地域では日本人の方を数える方が早くて、わずかしかいらっしゃらなかつたです。日本人の方も少しお住まいでしたが、ほとんどが朝鮮の人でした。今では花園駅もだいぶ様変わりしまして、年々年々新しい家が建つたりして日本の方がどんどん入つて来られたりして、今では朝鮮部落という面影は残つていません。ガラツと変わつてしまつてます。ですから初めて見る方は、昔そういう所だったというのもうわからない状態になつております。私が知つてゐる朝鮮人の集落地域というのはそこしかないんですけども、他でも京都でも何ヶ所かありますけど、私は花園のことしか知らないので、そこについては今現在そういう状況です。

仲尾：ありがとうございました。私が経験したもう一つの例は、京都駅の八条口の辺りですね。今は非常にきれいなビルと大きな通りですが、あの辺りが闇市でした、戦争直後は配給制度があつて、配給でお米や野菜、帽子から靴まで全部割当制でしたけど。そういうことでとても食べていかないので闇市というのがあつて、どつからか品物や食料を揃えてきて、そこで自由に販売していた時期があるんです。その中にたくさんの方も交じつておられました。日本人もたくさんおりました。そしてあの辺り一帯、今も東九条地域は在日の方がたくさん住んでおられますけれど、その辺りの方が闇市を構成しておられたということをよく知つております。私が滋賀県に父方の実家がありましたので時々行つて、当時の蒸気機関車の列車で帰つて来ます。すると列車の車両の中で大きな大きな荷物や風呂敷を抱えたおじさんおばさんがいっぱいいるんです。京都駅の手前賀茂川を渡る鉄橋を越えるとスピードが蒸気機関車ですからウンと遅くなる。そうするとそのおじさんおばさん達がバツと窓を開けて、自分たちの大きな荷物をどんどんどこ外に放り出します。よく見ると土手の下にはたくさん的人が待ち受けていて、それを取つてゐるんです。なぜかといいますと、その包みの中はお米とか野菜とかなわけです。京都駅に着くと、警察官が全部没収してしまいます

からダメです。ですからそういう形で列車の中から放り投げて、それを自分たちの食べ代にしたり、あるいは闇市で売つて生活の糧にする。そういう方がおられた。それが今から考へるとかなりの部分在日の方でした。そんな雰囲気が四十五年の敗戦から一、三年続いていたと思われます。あるいはもうちょっとと続いていたかもしれません。今おっしゃったキム・キョンガンさんは私より二十才お若いですが、それでもさつきおっしゃつたようなトタンの六畳一間のお家で過ごしておられたんだから、おそらく一、三年どころか東九条一帯はそういう光景がもつと長く十年以上続いていたかもしれません。今のキム・キョンデさんのお話の付け足しですけれども、そういう風景でした。この方は感想もあります。「キム・キョンデさんの通名の記録を消せないお話、大変印象に残りました。社会的弱者の力になりたいという夢、共感しました。キム・チヨンデさんの指紋のお話とともに申し訳なく思いました。日本国がそのような事を強いていたことについて」。この指紋押捺制度は一九九〇年代に入つて、今の署名、家族書き、ラシネットと変わる制度というように変わりました。それまでは指紋押捺制度があつて、これについては在日の方々や支援する日本の人々の数年間の大きな運動があつた。もう指紋を押さない、犯罪者と言われても押さないという実力行動が全国で一万人も出たんです。それで日本政府もこれは効果がないということで、結局のところ指紋押捺制度は廃止するということになりました。今のカード制度、五年に一回の切り替え制度、再入国の期間の四年ごとの更新、いろいろまだ問題は残つております。「京都市が変われば日本は変わるも共感しました」。次の方の質問に行きましょう。「今日のお話を伺い、お二人の何事にも前向きに取り組まれてきた結果がそれぞれのお人柄や今の成功に結びついているように思われ、自ら反省させられる一時でした。そんなお二人が現在に至るまでの経験をふまえ、日本人と在日の側の間の壁を取るには何が一番必要でしょう」。今までのお話の中でも出てきておりますが、改めてこういう事だということを一言ずつおっしゃつていただければと思います。

キム・キヨンデ：予断をしないことが大事だと思います。自分なりの今まで育つてきた経験であるとか積んできた学習にもとづいての判断です。結構これは間違つてる部分があると思うんです。そんなことよりもずっと手前の生きとし生ける者同士の人間愛ですね。この日本人と在日の間の壁とかにとどまらず、どこの国の方であろうがお隣の方であろうが大阪の方であろうが、人間つて複数になればもう親子でもケンカしますし、兄妹でもケンカしますし。複数になれば絶対に壁というのが存在してくると思います。あえて日本人と在日の方だけに壁が存在するんじゃないと思いますし、もつと根本的な部分で生きてる者同士、ましてや人間同士という部分の人間愛です。それが強ければ、あらゆる壁を打破できると思います。

キム・チヨンデ：一番言いたいのはおいしい焼肉とマッコリを飲むこと一緒に、と言いたいんです。つまりどんなにおいしい物を食べて一緒に飲んでも、やっぱり気持ちを開けないと一緒に食べても飲んでもね。皆さん経験あると思うんですけど、なんば食べても、この人と食べたっておいしいと思ったことない。この人とだったらフルコースよりもコーヒー一杯その辺で缶コーヒー飲む方がましやという人いやはるでしょう、周りにも。やっぱり経験なさつてると思うんですよ。なんかおウドンやのに喉が詰まるとか。やっぱり本当に心開けて聞く話すということが必要だと思うんです。さつき指紋の話を娘のことで言いましたが、最初その役所の人本当に目がこんなつり上がつてましたよ。色の白い人が真っ赤になるんですよ。上の法務省の人も来てはるみたいで。「すみません。指紋押捺の留保のこと」などと言つただけで、役所にウワーッと緊張が走つて、顔の白いお兄さんが顔真っ赤になるしね。ターッと来はるんですよ。もう攻撃するのかという顔でしかなかつたです、向こうは。「じゃないんです。私は先ほども言いましたように、ナショナリストでもないし運動をしようという人間でもないし。ただ自分がイヤなことを親として子どもにさせたくない。ただそれだけです」と。皆さんそうでしょう。何回かお話をしまして。そしたら涙も出ることありますよ。なんで通

じないんだろう。押せの一辺倒であつたり。そうして何回か話をしてる時に、その時にマッコリも焼肉もありませんけどね。話をしている中に何回かしたらその人が最後、担当の方が決まつてたんですね、「僕も親やつたら同じことしたと思う」と言わはりました。最終、指紋押捺から署名に変わる時にはそういう風におっしゃつたし、その後、同じ役所の別の窓口で通名の話で、私は通名をなくすとかそういうじやなくて本名で郵便を出して欲しいただそれだけです」と。「そしたら郵便は着くんですか」といろいろなこと言わはるんですね。「私の名前だから、すみません本名でお願いしますと言つてるんですけど」と言つたら、「通名でいいじゃないですか」と目が点になるよつた形でしか返つてこないんです。もうすつごい疲れます。自分の仕事の枠とかいろんな予断というか最初からその目で見てるから通じないです。その時にずっと僕が親だつたら同じことをしますと言つてくださつた方が、「私間違つてるんだろうか」と窓口にいらっしゃつたから言つたんです。そしたら「キムさん一緒に行きましょう」と、その方が自分の同じ役所の人によつてこうこうだからああだからと。私にまたこういうふうにシステムの問題として簡単にできることではないんでということを説明してくれた。それで私は納得。でもそれは今後の課題にしましようということで、役所の中の人に年金のことと国民健康保険のことと別々の係の人にそれぞれ行つて通名の問題を話してくれはつたんです。やっぱり本当に心をお互いに耳を傾けて一体何が言いたいのかということをやつていく中で、心通わせることができたから、それこそものすごくその時嬉しかつたです。重なりますけど、日本人も在日も別々の人間ですから、そういう風に心開いて何が言いたいのかもうちよつと歩み寄る。なにより私は友達になつたら一番簡単だなと思つてますけど。友達になつた時には、極端な話、今バッシングがいっぱいあります。北朝鮮に友達がいたとしたら、「今こんなテレビで北朝鮮バッシングしてるけど、あの人どんな思いで見てるやろ」と思つたらそこで見えてきます。いろんなことが、それは政治問題に関わらずいろんな事。友達に一人気の合う人、いっぱい日本人も韓国人も朝鮮人も障害者もいっぱいいるじゃないですか、その中で気の合

う人が一人できたら、百冊の本を読むより入門書読むよりグーです。私は一人でいいと思います。

仲尾：ありがとうございます。次もキム・チヨンデさんへの質問です。子どもさんのことで、キム・キヨンガンさんの方はまだお小さいということもあつてこうなつてるんだと思いますが。「子どもに韓国をどのように教えておられますか。子どもたちは韓国をどのように見ていますか」。別の人からも「息子さんや娘さんのお話をもう少しお聞かせください」。また学生さんからこういうことが。一緒にして簡潔にお答えいただけますか。

キム・チヨンデ、十年前にお話を聞いていただいた方ありがとうございます。今日一緒にうちの店に行きましたよ。焼肉食べましたよ。子どもに韓国をどのように教えているか。私は詳しくは教えておりません。教科書は子どもたち皆公立ですので日本の学校ですから日本の教科書使つてます。ただ私の高校の時と違つて少しまともになつたかなと思うのは、私たちが育つた時には豊臣秀吉の戦争は「朝鮮征伐」でしたから。「侵略」じゃなくて「朝鮮征伐」。「征伐」と習つた瞬間に、息子の話娘の話をもう少しとおつしやつていていた消防署勤務の方、その方は重なるかもしれないんですけど。その時「征伐」と聞いた瞬間、私は征伐される側なんだと思うんですよね。「征伐」というのは征伐する側が正義で、征伐される側は悪でしょう。逆の表現ないでしよう。退治と一緒にですよ、ある意味で。安重根（アンチュンゲン）、伊藤博文をハルピンの駅で射殺したアンチュンゲンも、あの時は私たち「朝鮮人暴徒」と習いました。わーやクザやなど私たちの国人はというふうに刷り込まれていくんです。でも今ではアンチュンゲンの名前が出ているし、「朝鮮侵略」という言葉が出ているから少しまともかなと思つています。私がずっと今こうしてこれたのも、母親が朝鮮の国は日本の文化のお兄さんだよとか、折に触れいろんな事を言つてくれたからです。はつきり言い

ますけど、うちの末っ子が今高校三年ですが中学の入学の時に、校長先生の式辞「皆さん、立派な日本人として」と。日本人になつてくださいと言わはるんですよ。立派な日本人、一人でも外国人がいるんだけどな  
と思いながら、またかと思つてますし。そういう流れの中でなにより親がしつかり生きることじゃないかな  
と思ってるんで、韓国はこのようだとかあのようだと特別取り立てて言つております。息子が去年の一  
月から三月に延世（ヨンセイ）大学の語学堂に語学留学三ヶ月したんです。その時にこれは行かなあかん。  
本当は行く理由何もないんですけど息子を理由に行つたんです。うちの人は「なんで行くねん」と。「息子  
が行つてるし行かなあかん」と何にも理由にならないんですけど。行つて、やっぱり息子は「居心地がいい」  
と言つうんです。「韓国は居心地がいいな」と。ちょうど三月十四日ホワイトデーですね。その時にちょうど  
ホワイトデーに重なったんです。すごいですよ、向こうのホワイトデーのお返し。お見舞いに持つて行く果  
物籠があるでしょ。あれがチュールのレースで飾られてるんですよ。こんなに大きいですよ、果物籠みた  
いなものだから。屋台がいっぱい出ていっぱいあるんです。そしてカップルがどうするかと言つたら、男性  
が皆持つんです、それ、男の子が。女の子は今のはやりの言い方でしたら、勝ち組という感じで闊歩して  
るんで、二人。たつたバラ一輪の女の子もいるんです。それは目立たないなという感じで。息子言いました  
「僕、日本に生まれて良かつたわ」と。ですから子どもは子どもなりにいろいろな事を感じて、本名でいる  
からということで「自分は韓国か?」といろんなの言われたり、でも自分はずつとそれできるから末っ子  
なんか「なんでことさらその事取り上げるんだろう?」と言います。ところがちょっと年離れた息子は今  
度就職が決まつてゐんですけど、新入社員の集りに行つたら同じ本名の人がいる。「おお、君も韓国人か」  
と手を出したら、向こうが手を引つめたと言うんです。僕は韓国人やということですごくこだわつて言つ  
たわけじゃなくて、ある意味で京都人か同じ京都人やなというぐらいの気持ちでしか持つてないのに、なん  
かそういう人もいるんやなというふうに息子は思つてます。子どもたちは日本も好きだし韓国も好き。桂高

校に行つた末っ子はサッカーで、朝鮮学校と桂高校と優勝をインターハイ予選でやりましたでしょう。その時に自分はちょっと複雑だつたらしいです。自分の知つてゐる友達が日本のチームだから応援した。その時に中学生か高校生か知らないけれども、朝鮮学校が勝つた時に「朝鮮帰れ」とスタンンドから言つたんですって、何人かが。「おまえら朝鮮帰れ」と。「その時はホントむかついた。ものすごくむかついた」と家に帰つて来て言いました。私はどちらにも思いがあります、正直な話。私さつき言いましたようにここで生まれて育つてますから故郷はこつちですよ。母語もこつちですよ、母國語は韓国語ですけど。だから子どもたちもきっとそんな感覚でいるんじやないかな。息子も居心地がいいけれども、折りに触れては日本の方がええとか韓国がいいなどかそんな風に思つてますから。息子や娘、看護師になつてる子もありますし、その子も本名で。今度就職する息子も本名で全員本名で。末っ子だけは明日入試です。皆さん祈つてやってください。日本の大を目指しておりますのでお願ひします。消防署の方十年前ありがとうございます。変わつてへんおばちゃんですのでよろしくお願ひいたします。

**仲尾：次へ進みましょう。**「貴重なお話を聞いていただきありがとうございました。キム・キヨンガンさんに質問です。学生時代の話を教えてください。何か在日の事に関係があれば。キム・チヨンデさんに質問です。仕事上の苦労などお教えください。お二人に質問です。在日社会に対して何か思うことはありませんか。ちなみに私は在日三世です」。こういう質問で後半の質問はお二人に、前半の質問はそれぞれ個別の質問になつています。まずキヨンガンさん。

**キム・キヨンガン：**私に対する学生時代の話を教えてください、何か在日のことに関係があればという部分ですが。学生時代小学校、中学校、私は高卒なんですけれど。韓国人でありながら日本に住んでいるという

ことに対する苦惱がやっぱりいろいろありました。特に先ほどもこちらのキム様からお話をありましたように、日本での歴史教育、私もずっと日本の学校なんです。そこで朝鮮征伐とか伊藤博文をハルピンで暗殺したアンジュンゲンという人のことなんか犯罪者というふうに暗殺者というふうに教えられましたし。例えは小学校五年生その授業の時間、教室での私、そいつた部分のくだりが出てきた時に小さくなるんですよね。後ろめたくなるんです。恥ずかしくなるんです。教育というのは怖いもんですよね。豊臣秀吉といえば日本では出世の神様みたいに扱われてますけども、韓国に行けば極悪人ですよ。伊藤博文についても歴史上向こうでは当然評価は非常に低いですし、アンジュンゲンについては英雄ですし、日本と逆さまなんです。だから教科書問題というのは起つて当然だと思います。そのはざまに翻弄されてきました。非常に苦惱がありました。朝鮮朝鮮ということでよく差別も受けて、朝鮮がそんなに悪いもんなのかなと卑屈になつていくんですね。まだ自分の知識および情操がしつかりしてないものですから、どうしても感化されやすいんですね。非常に卑屈になつていきました。実際にそういうふうに差別されたりイジメられたりするものですから、なにくそと思つてしまふ。そして自分が荒れしていくんです。暴力的になるんです。話がころつと変わって申し訳ないですけど、アメリカでもよくある話がスラム出身は犯罪率が高いというのも私はよく理解できるんですよ。実際に搾取されている側とか虐げられてる立場、逆の立場とは全然違う思いになつていきますね。人間つて優越心あるじゃないですか、人よりおいしいもの食べたいとか、人よりもいいもの着たいとか、人より大きい家に住みたいとか、人よりこうなりたいとかという優越心というのは反対側から見れば、ある意味羨望の的なんですね。その落差が大き過ぎたり、貧富の差が大きすぎると治安が悪くなつていく。差別やそしてそれに続していく暴力や非合法。こういった部分も人間の優越心、エゴといったものが根本的に作り出してるんではないかなとやっぱり私は思います。その反対側に立つた私としては本当に暴力的でもあります。ですから警察にも何回か捕まりました。廉恥がなくなつてくるんです。恥ずかしいという気持ちがな

くなつてくる。やられたらやり返せ。やり返したことに対する、もっと悪い言葉で言うと侵してしまえ汚してしまえとまでなつちゃうんです。平気で犯罪行為、法律違反ができるという怖い世界です。私は多少警察に捕まつたこともありますが、大変な事態に到らなくて良かつたんです。実際日本の社会でも韓国の社会でもヤクザになつてる方もいらっしゃいますよね、非合法でも。これらを作つてきている社会構造というものに対し、関係者である私たちはもつと目を向けなければならぬんじゃないかなと思います。そういうふた学生時代からうまく社会人にスライドできて、今は本当に監獄の中じゃなくて良かつたなと思っています。次に「在日社会に対する何か思うことはありませんか。ちなみに私は在日三世」という方からのご質問なんですが。これについては今ちょっと明解な答えを持ち合わせておりませんのでちょっとパスさせていただきます。

仲尾：この質問は確かに在日社会に対する、質問ですが、在日社会というものが何だろうということでもありますので、ちょっとお答えにくいかもしませんね。キム・チヨンデさんには仕事上の苦労。プラス今のことですが、何か思いがあれば。

キム・チヨンデ：仕事上の苦労は韓国焼肉、ちゃんとまとまると上手にできません。料理下手です。でも食べるのが大好きで、こうしたらおいしいかな、ああしたらおいしいかなという工夫だけでなんとかあの店はやつております。あの料理出してくれこの料理出してくれと言われたって、そんなに上手にできないというのが仕事上の苦労で。だんだんお客様が年輩の方が増えてきて、最長老は仲尾先生ですけど肉を食べないですね。それも苦労ですね。「豆腐あるか?」とか。日本の料理もある時はお造りとか、たまにカレーライスとか、お客様の嗜好が焼肉屋に来てんのという。「鍋作つて」とか言う人もいりますし、それがあえて

いうと、私の腕以外の仕事上の苦労。そんなもんでしょうか。在日社会に対してというのはさつき仲尾先生がおっしゃったように、じゃあ在日つて一体何だらうかと思います。というのは、「こちらのキムさんも私もそうだけど、日本の学校教育をずっと受けてきますから、しか受けてないから逆に言えば。だから「在日」という映画ありましたよね、数年前に。あれを見て思つたんですよ。いろんな人がいらっしゃいますよね。スポーツ界であろうがいろんな所で。それを在日と一緒にしてあの映画ができるんだけれども、その中で民族教育を受けた人がどれだけいるのかな。皆日本人教育つまり日本人化教育ですよ。日本の教育は公教育はパブリック・エデュケーションじやなくて、ジャパナイズ・エデュケーションです、はつきり言つたら。さつき私やこちらのキムさん一人とも朝鮮暗殺者みたいな、朝鮮人暴徒、それから朝鮮征伐というような言葉で、日本人がいいんだという新しい教科書とか。そういう流れで、日本人にとって聞きやすい耳触りのよい言葉を選んで日本の教育を受けてますから。キムさんだけじやないです。うちの子どもたちも社会科を受ける時に、なんか朝鮮とか韓国という話題が出てきたら身が小さくなると言つてました。だんだんましになりますけど。そういう流れは自分たちと逆流です。民族教育受けてる人はそうでもないんですね。逆の発想で韓国人、朝鮮人は偉いんだというふうに受けますから、日本人が何言うねんというふうにひょつとしたら思つてるかもしれない。そうするとなんで通名乗らなかんねんという発想になりますし、本名でええやないか。私たちは日本人がいいというような教育を受けてきたから、その流れの中で育つてきてる在日社会つて一体どう言えばいいんだらうか。ただその中でこうして本名を名乗つての在日は少ないと思想です。それで生活している人間は。だからそれこそ監獄に入らへんでよかつたんですけど、立派にこうして本名で生きてるということだけでも私は大したもんだなど自画自賛します。そういうふうにして一生懸命生きてる人が少しでもいる事がいい。帰化という言葉 자체もいろいろ問題があるんです。帰化という言葉をまた調べていただきたいらしいんですけど。帰化もしないでここに住んでいる韓国籍の人間として、でも日本へ

の思いを持つて生きてる私たちであつたらいいなど。だから在日三世の方もこのご質問をいただいた方も、それこそあなたがあなたとして韓国人に生まれたんだつたら朝鮮人に生まれたんだつたら、それを良かったと思つてもらえるようなそういう環境であつてもらいたいなど切に願いますし、それをオッケーと思うような日本社会になつたらいいなど。在日社会というのを裏返したら日本社会の鏡ですよ。在日社会つて、これが日本でなかつたら在日という言葉もないですよ。どんな状況であろうと、その人が弱い立場に置かれている私たちですからね、はつきりいつて。私たちいろんな面で不自由ですから。でもそれで良かつたよと思えるその人であつてもらいたいし、またそういうふうに良かつたねとそういうふうに変えてもらい、やつてくれる日本の皆さんであつてもらいたいなど。私はそういう意味で在日社会という言葉に関してはそういうふうに思います。ちょっととりとめなかつたかな。

仲尾：ありがとうございます。非常によくわかりましたね。思いが伝わってきました。次は名前のことについてです。番号の八番の方と四番の方、あわせてお答えいただきましょう。まず四番の方は「通名の便利な点を教えてください」。八番の方は「在日コリアンの方で本名を名乗られる方が増えているのは良いことだと思いますが、日本人からは韓国語、朝鮮語での読み方がよくわかりません。本日も一人は金さんとふりがなが振られ、もう一人はキムさんとしてあります、読み方について何かこだわりだとありますか」。こういうことなので、あわせてお一人から一言ずつお答えいただきたいと思います。

キム・キヨンナ・まず通名の便利な点をという部分ですが、先ほども私の話の中でも出しましが、自分を隠したい時とか隠れたい時、いわゆる仮面ですね。仮面をかぶりたい時は通名は便利なんです。それは自分に後ろめたさがある時です。私、後ろめたさの人生やつてる時は本名を通そうとは思いませんでした。通名

を通そうと思いました。それは学生時代が特にそうです。本当の自分を出せるのは、眞面目になつた時とか自信を持つて社会の一員として貢献していくようになつてからとかそういう思いがありました。そういうふうに思うようになつてからは本名を名乗るようになります。通名の利便性は何も捨ててないんですが、今ではおかげさんで「毎日眞面目に生きよう、悪いことはしないようにしよう。人から後ろ指さされることのないようにならう」ということで、私は生きてるつもりです。本名しか名乗らないことによつて、そういう生き方に結びついています。それ以外にも同じような観点で私の自宅には仏像が置いてあつたりとか、不動明王が飾つてあつたりするんです。私は何も信心してないんですよ無神論者ですし。でもなぜそれを置いてあるかといえば、やっぱり家に帰つて来るたびにそのお顔を見ると怖いんですよ。自分に今日一日悪いことをしてないかというふうに、特に不動明王さんなんかはすごい形相されてますので、そういうふうに言われてるんじやないかなと感じます。我に疑いなきやというふうに問うてるんですけど、元々私は人間が汚いものですから、毎日毎日自分で浄化作用を働かせなくてはいけなくて、そういう不動明王さんのお力を借りたり、あるいは本名を通すことによつて悪いことはできない。そういうふうな形で今は使つてる部分もあります。次に金さんとキムさんですけど、これは私が思うに、金・銀・銅の金と書けば、日本語読みでは「キン」ですけど。韓国の方でハングルで書けば「キム」というふうになるんです。最後□を結ぶんです。これを「キン」とカタカナで書くのか「キム」と書くのかその違いだけだと思います。

キム・チヨンデ・通名の便利な点、私もキムさんと同じですね。子どもたちが小学校の時に本名で行つておりましたから、二人とも絵が表彰されたんですね。「朝鮮人つて韓國の人つて絵がうまいねんね」とこううなんです。「あなたたち二人」じゃなくて。そういうふうに一括りにするという傾向がありますので。何百人いらっしゃる所でパツと立つ時には本名で話をする、その中にはいろんな方がいらっしゃいますからちよつ

と怖い部分があります。まして子どもたちにしたら。そういう時には自分を守る、そういう意味での隠すという意味では通名が便利じゃないかなと思います。私たちには当然通名があつて当たり前だというふうな公的な機関ではそういうふうに思われてますから。うちの人が若い時に弟と二人乗りしてまして捕まつたんです、原付で。そしたら「通名は?」と言われて、ケンカふっかけたと。「通名あるのか」と。あつたんですけど、その時は。「なんあんねん。アメリカ人あんのか」とケンカしたこと。えらそうに言うから、私は「お父さん、ホントは原付二人乗りして悪いことしたんとちやうのん」と。それは置いといて、警官にワーッと食つてかかつたと言うんです。本名で悪さしてます、うちのお父さんは。それこそ名前で「キン」さんというのは、キン・ケイミツさんと同じで全く日本語読みで、そうなるとキン・ケイミツさんで。でも外国人だということで、この方はカタカナで書いてらつしゃいますよ、外来語はカタカナで書くでしよう。日本の学校で習つたんですけど。小学校か中学校で習つたんですけど。ケイミツさんはちゃんと外国人ですということで、でも日本語読みでカタカナで書いてらつしゃる。私はそのまま漢字読みでしたら、キン・チヨなんです。私この名前嫌いなんです。さつき控え室でも言つたんですけど、「僕のおばあちゃんが同じ名前や」とか。そんな話しか聞かないでイヤやなと思つていて。韓国語読みするとキム・チヨンデと。チヨンデと読んだら、韓国では最後にデと付くのは、男の人に多いんです。名前を見ないで発音だけでは韓国から来られた方は男の人かと思いましめたと。この名前嫌いなんです。いい名前付けてくれませんかという話をさつきも控え室で言ってたんですけど。ただカタカナで書くとまたわけいきつくなるから、私の感じでは。だから平仮名で書いてるんです。さつき言わはつたように、日本語読みだつたらキンしか読めません。韓国読みだったらキムとヨの発音なんです、Kim。だから日本語読みよりはいいだろつといふことで。仕方ないと思いますよ。全く韓国の発音はチヨンデーもあればチヨンデもあるし。チヨンもあればチヨングもあるし。韓国語発音はいろいろですから、それを限られた日本語の制約の中で表現しようと思えば当然違うのは当たり前で

す。ハングル習つてください。できるだけハングル読みに近い。文化、語群が違うのでそれは仕方ないことだと思いますけども、できるだけ近づけて読んで、本人の思うような読み方で読んでいただけたらなと思います。この方もキム・キヨンガンさんと書いてらっしゃるから、ハングルで。という」とで説明できただしようか。読み方ごだわり、そういう意味ではあります。

仲尾：ありがとうございました。だいぶ時間が経っておりますが、ご感想を中心のご紹介します。「違ひを認めるのは苦手な国だと思います。日本はもつといろいろな民族を受け入れる心構えが必要です。同じであることばかり求められているから。もつと教育が違いを教えることが必要だと思いました。」こういうご感想です。それから「通名を使っておられる在日の方が多い中、お二人とも本名でお使いになつていてることから、お二人ともとても祖国への熱い思いを持つておられることが窺えます。そんなお二人に、コリアンに生まれて良かつたことをぜひお尋ねしたいです。」これは一番最後に一言ずつ答えていただきましょう。次感想をご紹介します。「幼い頃より苦労を前向きに生きてこられたお二人に心打たれました。もつと時間があればたくさん話を聞かせてもらえたのにと思ひます。」もう一人の方「お二人の率直なお話に感銘を受けました。いずれも今日までどんなにか頑張つてみえたことがとお察しします。たくさんの困難を乗り越えて、今日のお姿があることを思ひみて心から拍手を送りたいと思ひます。在日の方々に対して、私たち日本人の思ひは誠に到らぬことが多くて相済まぬことと重ねてきたことをお詫びいたします。その中によくもこゝまでご自身の道を切り開いて、しかも将来についての大きな夢と希望を語つてくださいましたことを改めて嬉しく思ひます。私たちも同じ夢と希望を持ち続けて、少しでも人が人として差別のない伸びやかな、人の命が何よりも尊ばれる平和な時代のために力を尽くしたいと願ひます。またどこかでお会いできますように」というご感想です。最後に先ほど申し上げました、お二人にコリアンに生まれて良かつたことをぜひお尋ね

したいです。一言ずつ。

キム・キヨンガン・家の料理が食べられて嬉しいですね。私個人は何人（なんびと）として生まれてきても良かったんです。別に日本人であつたほうが良かったとか、アメリカ人であつた方が良かったとかそんなのは一切思つてません。地球上として生まれてきたこと自体に、本当にこの世に生を受けたこと、この父この母を親として生まれてきたことに対し感謝しております。また本来ならば朝鮮半島で生まれるべき私だつたんですけど、今現在六十何万人日本で在日の方がいらっしゃる。これも考えれば奇遇です。コリアンとして生まれて良かったことは別にいいも悪いも何もないです。ただこの境遇をいかに入々のお役に立てていけるかということを考えた時には、やはり在日であるが故に活躍できる場面があると思うんです。結構私も韓国へ百回くらい行つてるんでしょうかね。全世界いろんな所も行つて来ましたし。もちろん日本で長いこと暮らしております。結構最初いろんな差別とか不利がありましたけれども、在日だからこそ視点、視野が日本の方よりも広いという部分はあります。今日本と韓国、日本と北朝鮮の交流とか言われていますけれど、私はそれぞの当事者よりも在日の者の方が両方の文化をよくわかつてうまく通訳できる立場にあると思うんですよ。直接日本の方と朝鮮人が話してもなかなか理解するのが難しいと思うんです。ケンカのスピードが早まるんじゃないかなと。ここではうまく通訳できるのは在日だと思うんです。そういう意味では役割が、在日コリアンとしてそういう役割があるんじゃないかなとは思つております。

キム・チヨンデ・私もコリアンに生まれて辛いのが言いたいんですけど、実は私は数回しか韓国に行つてないんです。その時の同行者は日本人ばかりで私だけ在日コリアンなんんですけど、一番最初に水に当たつてるのが私なんです。韓国の水に合わない。二回目行った時に一番最初に音を上げて、おうどんが食べたい

と言つたのは私でしたね。ただ韓國のおいしい料理を知つてゐる、日本のおいしい料理を知つてゐる。日本の料理はあまり上手には作れないんですけど。そういう意味でいうと在日コリアンで良かつたかなと同じよう思いますね。ここで生まれて育つてゐるし。ただ一つ違つるのは在日コリアンの女性は世界一だと思いますよ。日本人のおしとやかさ、そうでもないんですけどこの頃は。日本人の女性の大和撫子の、サツカーモ撫子だつたからちょっと違いますね。日本人の女性の良さを知りながら、働き者の韓国人の女性のまめさを持つてゐる。韓国の女性は一番美しい顔は怒つた顔だと言うらしいんですけど。私たちは怒つた顔が一番美しいらしいです。どちらにせよ、両方の美しさ、よさを知つてゐる在日コリアンの女性が世界一だと思います。

## まとめにかえで

今回のおふたりは自営業、つまり会社などに雇用された方ではなく、ご自分で経営あるいは仕事をされているゲストです。お話しㄧだいいた部分をお読み取りいただいただけでも、それぞれの人生が同じ日本の京都という土地にくらしながら、一般的の日本人のくらしといろんん点で異なつた生きかた、あるいは体験をされてきたことがよくおわかりだと思います。

つまり在日コリアン二世の方は一世の親のくらしを傍らで見て育ち、また自分が異郷でことなつた民族として生きてゆくことの意味を自分自身で感じ取り、その現実から逃避することなく生き抜いてきた方々です。その重みは到底、マジョリティである日本人には分かりえない体験といえましょう。

最初に触れたように、在日の多数がこのよくな自営、あるいは幾多の運命の上下を重ねながら、生き抜いてこられた方々です。一世の嘗められた辛酸とはまた別の重みをわたしたち日本人はこの方々から学ぶことができます。そして、その重みを感じ取る感性をもつことによつて、この人々との接点が生まれると、私はお二人のお話を聞いて改めて思いました。

自営の場合、自分以外に頼るものがない、そして家族を自分の全責任で守らなければならない、という厳しさはひとしおです。ましてや日本の社会で在日あることはゼロからの出発ではなく、あえていうならばマイナスからの出発でした。これは憲法や法律や行政のありかたの問題ではありません。日本の社会全体が民族的マイノリティの存在をマイナスとしてきたことにその原因があります。

そのような日本の現代を独力で生き抜いてきた人々から学ぶことは多い、ということを改めて感じました。

読者の皆さんはいかがでしょうか。

## 追記

今回は、参加者の質疑応答時間が延長になり、録音テープ及びビデオテープとも録音時間がオーバーしてしまい、当日の司会者及びコーディネーターの仲尾先生のまとめが録音できていませんでしたので、仲尾先生に「まとめにかえて」を願いしました。

## 第四回 「韓国からのニューカマー」

パネリスト

金明珍（私立小学校「じども国際クラブ」講師）

劉仙姫（留学生）

ファン・ジュン（留学生）

仲尾 宏（京都造形芸術大学客員教授）

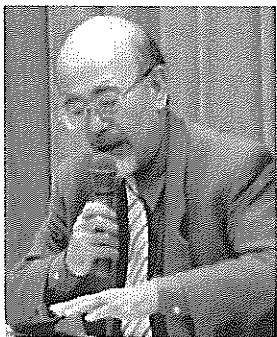
—100五年三月十八日実施



司会・大変お待たせいたしました。ただ今から「チョゴリときもの」、今年度最終回を開催いたします。

第十二回の今年度のフォーラム一回目から三回目までは仕事の場という空間をいくつかに分けましてお話を伺つてまいりました。本日はこれまでの十二回、十二年間の「チョゴリときもの」で初めて韓国からのニューカマーの方をパネリストにお迎えいたしました。これまで在日の方だけを対象にしてまいりましたが、少し不思議に思われるかもしれません。在日コリアンの皆さんは朝鮮半島の方にルーツをお持ちです。しかし当然のことですが、時間的なこと距離的にも全く同じ文化背景をお持ちというわけではありません。言い換えれば、日本と朝鮮半島の両方の文化を知り得るお立場でもあります。在日の方々の歴史とか歴史的な経緯や思いなんかを伺うことと並行しまして、今回日本社会に対する感想、視点、そういうものを伺うというプログラムを組み込んだのは、全く別の軸とか全く別のテーマがあるというわけではなくて、こういう点によりまして複眼的にこれまでの在日コリアンの方の今というものを浮き彫りにして、さらに理解していくことにつながるのではないかという試みからでした。どうしてかと申しますと、在日の歴史といいますのは日本の歴史でもあります。それはまた朝鮮半島の歴史そのものだからです。今回のニューカマーのパネリストのお話や今日ご参加の皆さまの中での在日の方のどこに、あるいは何につながっていくのか後でまたご感想をお聞かせください。それでは本日のコーディネーターおよびパネリストをご紹介させていただきます。本日のコーディネーターをお願いしておりますのは前回同様京都造形芸術大学客員教授 仲尾宏先生です。本日一番目のパネリストとしてご予定しておりました、金明珍（キム・ミヨンジン）さんという方がいらっしゃるんですが、今京都市内東山の方で火事が発生した模様で、その状態で今こちらの方に向かつていただいてますが、後ほどこちらの方にお入りいただきことになる予定です。真ん中にいらっしゃいますが劉仙姬（ユ・ソンギ）さん。向かつて右側は黄 止玩（ファン・ジュン）さんです。それぞれのご紹介は後ほどお話の中で伺うこととなりますので、さっそく始めさせていただこうと思います。途中に後ろの方から写

真を撮らせていただき」とがござりますが、記録用のためでするのでご了承いただきますようお願ひいたします。



仲尾・皆さん、ここにちは。今日は今司会の方からお話をありましたよう

に、初めての試みでニユーカマーの方をお迎えすることになりました。そもそもニユーカマー、オールドカマーといふのは何かということですが、日本語で言いますと在来からいる人、新しく来た人とこういうことです。そのはじめというか区切りはどこかということですね。普通研究者の間、あるいは統計その他でそれを区別しているものは一つは一九五一年四月二十八日です。この日は日本がサンフランシスコ条約によりまして独立を回復した。この条約が発効した日、効力を持つた日。その日を境にして、それまで朝鮮半島あるいは台湾から來ていた旧植民地出身者は日本国籍を失うものとするというように、日本の法務府、今の法務省の民事局長が通達を出しました。結果、それ以前から朝鮮半島出身者の方については一斉に韓国または朝鮮というように外国人登録に記録するように、登録するようになると、そういう命令が出てました。その人たちがそれぞれ子どもさんお孫さんなどんどん今世代を重ねておられます。ニユーカマーの方はそれ以降日本に来られた方ですが、実際に朝鮮半島から日本へやつて来るということが始まりましたのは今からちょうど四十年前日韓基本条約が結ばれまして国交が樹立されました。それ以後、いわば二国間の交流の中で日本に来て住まれる方が出てきました。もちろん日本からも渡航する人が増えました。しかし実際にはいろんな国際政治、双方の国内の政治情勢によりまして日本に来て永住するような形で人々が朝鮮半島から来られるようになつたのは、およそそのところは一九八八年のソウルオリンピック以降のことで

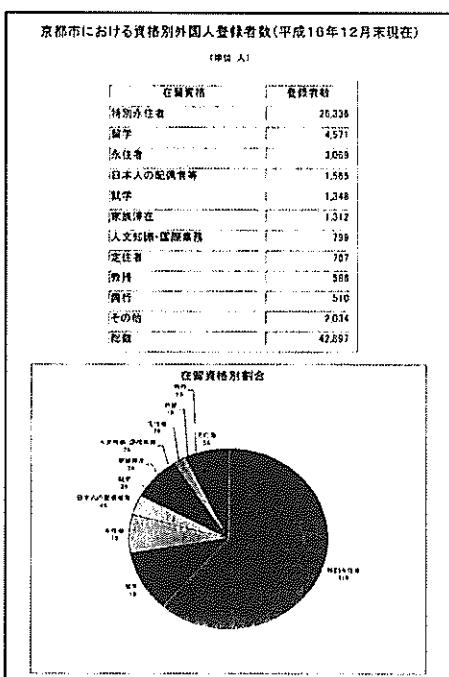
すね。それ以降日韓の交流は飛躍的に深まり、そして今日お迎えしている三人の方々のように日本にいろいろな目的を持つて定住しようと、こういう方が増えてきたわけです。その方がどれくらいの人数になっているか。お手元に資料がありますのでご覧ください。まず第一表の外国人登録人口、これは一〇〇三年、一昨年十一月末の統計ですが。都道府県別にいいますと、京都府五六二一七、の中韓国・朝鮮として登録される方が三七九〇二人ということになります。下は在留資格別にそれを分類したのですが、そこの京都府の韓国・朝鮮という欄、右から四つ目の所をご覧ください。

永住者一プラス二、三五八〇一人となっています。その一プラス二といふのは何かと云うと、そのすぐ下の一般永住者一一四八人、一番下の方にあります二番の特別永住者三四六五三人のこの合計です。特別永住者といふのはいわゆるオールドカマー在日の方三四六五三人。それに対して一般永住で韓国から来られた方が一四八人。朝鮮、北朝鮮からはまだ国交が樹立しておりませんので日本に来ておられる方はゼロです。そういう方々は今のところカウンタされませんし、現実におられません。永住者以外に日本人の配偶者等三百五十九人。定住者二百三十人、留学五百九十人、家庭滞在三百六人。こういう数字がずらつと並んであります。こういう方々はいずれも期限が限られてるんです。一般永住の場合には在日満五年を超しまして申請すると一般永住という在留資格が与えられることがあります。それ以外に最初からこの永住者一般で来るこ

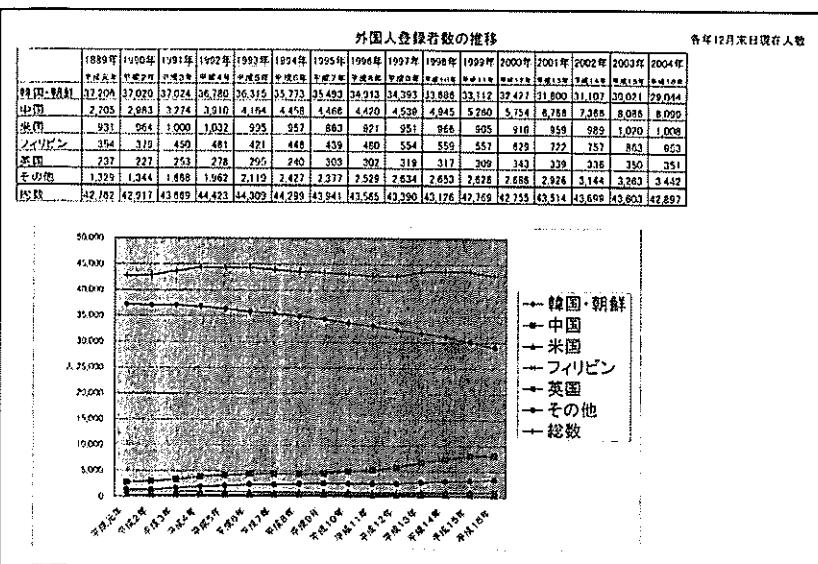
都道府県	登録人口	在留資格		登録人口	在留資格	登録人口	在留資格	登録人口	在留資格		
		在留資格	登録人口								
東京	3,103,573	一般永住者	1,148	1,148	特別永住者	1,480	1,480	1,480	1,480		
神奈川	62,795	一般永住者	21,778	21,778	特別永住者	27,375	27,375	27,375	27,375		
千葉	1,103,573	一般永住者	40,515	40,515	特別永住者	52,241	52,241	52,241	52,241		
埼玉	1,202,122	一般永住者	43,201	43,201	特別永住者	47,632	47,632	47,632	47,632		
群馬	48,552	一般永住者	13,877	13,877	特別永住者	17,731	17,731	17,731	17,731		
栃木	21,459	一般永住者	6,201	6,201	特別永住者	7,622	7,622	7,622	7,622		
茨城	12,457	一般永住者	4,222	4,222	特別永住者	5,471	5,471	5,471	5,471		
栃木	11,497	一般永住者	3,256	3,256	特別永住者	3,624	3,624	3,624	3,624		
福島	32,454	一般永住者	8,019	8,019	特別永住者	10,372	10,372	10,372	10,372		
宮城	18,293	一般永住者	3,376	3,376	特別永住者	4,147	4,147	4,147	4,147		
岩手	21,468	一般永住者	5,962	5,962	特別永住者	7,691	7,691	7,691	7,691		
長野	19,104	一般永住者	24,444	24,444	特別永住者	3,275	3,275	3,275	3,275		
岐阜	10,491	一般永住者	4,774	4,774	特別永住者	7,376	7,376	7,376	7,376		
愛知	26,955	一般永住者	11,765	11,765	特別永住者	3,651	3,651	3,651	3,651		
三重	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
滋賀	5,310	一般永住者	2,109	2,109	特別永住者	1,995	1,995	1,995	1,995		
京都	6,707	一般永住者	2,707	2,707	特別永住者	1,510	1,510	1,510	1,510		
大阪	15,995	一般永住者	6,395	6,395	特別永住者	4,812	4,812	4,812	4,812		
兵庫	13,709	一般永住者	5,252	5,252	特別永住者	3,692	3,692	3,692	3,692		
奈良	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
和歌山	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
福岡	11,130	一般永住者	4,670	4,670	特別永住者	3,496	3,496	3,496	3,496		
大分	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
宮崎	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
鹿児島	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
沖縄	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
東京	3,103,573	在留資格	登録人口	東京	3,103,573	在留資格	登録人口	東京	3,103,573	在留資格	登録人口
神奈川	62,795	在留資格	登録人口	神奈川	62,795	在留資格	登録人口	神奈川	62,795	在留資格	登録人口
千葉	1,103,573	在留資格	登録人口	千葉	1,103,573	在留資格	登録人口	千葉	1,103,573	在留資格	登録人口
埼玉	1,202,122	在留資格	登録人口	埼玉	1,202,122	在留資格	登録人口	埼玉	1,202,122	在留資格	登録人口
群馬	48,552	在留資格	登録人口	群馬	48,552	在留資格	登録人口	群馬	48,552	在留資格	登録人口
栃木	21,459	在留資格	登録人口	栃木	21,459	在留資格	登録人口	栃木	21,459	在留資格	登録人口
茨城	12,457	在留資格	登録人口	茨城	12,457	在留資格	登録人口	茨城	12,457	在留資格	登録人口
栃木	11,497	在留資格	登録人口	栃木	11,497	在留資格	登録人口	栃木	11,497	在留資格	登録人口
福島	26,955	在留資格	登録人口	福島	26,955	在留資格	登録人口	福島	26,955	在留資格	登録人口
宮城	18,293	在留資格	登録人口	宮城	18,293	在留資格	登録人口	宮城	18,293	在留資格	登録人口
岩手	21,468	在留資格	登録人口	岩手	21,468	在留資格	登録人口	岩手	21,468	在留資格	登録人口
長野	19,104	在留資格	登録人口	長野	19,104	在留資格	登録人口	長野	19,104	在留資格	登録人口
岐阜	10,491	在留資格	登録人口	岐阜	10,491	在留資格	登録人口	岐阜	10,491	在留資格	登録人口
愛知	26,955	在留資格	登録人口	愛知	26,955	在留資格	登録人口	愛知	26,955	在留資格	登録人口
滋賀	5,310	在留資格	登録人口	滋賀	5,310	在留資格	登録人口	滋賀	5,310	在留資格	登録人口
京都	6,707	在留資格	登録人口	京都	6,707	在留資格	登録人口	京都	6,707	在留資格	登録人口
大阪	15,995	在留資格	登録人口	大阪	15,995	在留資格	登録人口	大阪	15,995	在留資格	登録人口
兵庫	13,709	在留資格	登録人口	兵庫	13,709	在留資格	登録人口	兵庫	13,709	在留資格	登録人口
奈良	—	在留資格	登録人口	奈良	—	在留資格	登録人口	奈良	—	在留資格	登録人口
和歌山	—	在留資格	登録人口	和歌山	—	在留資格	登録人口	和歌山	—	在留資格	登録人口
福岡	11,130	在留資格	登録人口	福岡	11,130	在留資格	登録人口	福岡	11,130	在留資格	登録人口
大分	—	在留資格	登録人口	大分	—	在留資格	登録人口	大分	—	在留資格	登録人口
宮崎	—	在留資格	登録人口	宮崎	—	在留資格	登録人口	宮崎	—	在留資格	登録人口
鹿児島	—	在留資格	登録人口	鹿児島	—	在留資格	登録人口	鹿児島	—	在留資格	登録人口
沖縄	—	在留資格	登録人口	沖縄	—	在留資格	登録人口	沖縄	—	在留資格	登録人口

とはできないものですから、日本人の配偶者等の在留資格を申請して許可された場合の方が三百五十九人。一定の生活レベルの安定が達したら、更新期限が三年という定住者のビザ二百三十人の方。こういう方もおられます。留学生は原則学部の場合ですと四年ですから、一年更新ことの四年の在留資格を得るということになります。あとは在留期間は一年であるとか非常に短いものになります。そういう訳でこのところの数字としてはわかりやすく見ていただくために一般永住者一一四八人。

この方をニューカマーとして考えておりますが、しかし今日のお三人の中お一人の黄（ファン）さんは留学生でありまして、五百九十二人の留学という在留資格でおられます。そういう永住者一般以外の方々を含めますと一四八人ではなくて、およそ二千数百人の方が韓国からニューカマーとしていらっしゃつてることになります。それからその左側の表ですが、これは京都市だけの表です。しかもこれは二〇〇四年京都府の今の統計のもう一年後、昨年末の統計ですが。これでいきますと、どれぐらい韓国・朝鮮籍の方が増減しているかという数、ここ十五年間の変化がわかると思います。どんどん減つております。三七二〇六人であった一八八九年から、二〇〇四年末の二九〇〇〇人、約八〇〇〇人減つております。これはニューカマーチの方が増えているにも関わらず、オールドカマーの方が減つてることですね。これは在日一世のお年寄りの方々が亡くなつてることがあります。「帰化」という方法で日本国籍を取られた方があります



す。日本人と結婚されて、その子どもさんが日本国籍を取得されるという方も増えています。そういう訳で絶対数が逆に減つてゐるという現象がこの表では見られます。けれども「帰化」された方やダブルの子どもたちの数を入れると決して減つてはいない。なぜならばニューカマーの人が増えてるからですね。そういう表の見方を今少しご説明いたしました。その裏側には二〇〇四年末の京都市の登録者数の数字が出ております。二〇〇三年末の京都府の数字と若干異なつておりますけど京都市だけを取り上げれば、こういう数字になると、いうことでござります。それでは今日の三人の方をお迎えして、それぞれお仕事が違う、あるいは在留年数が違う、お立場が違うということでお話を伺いたいと思います。最初にキム・ミヨンジンさんにお話を伺いましょう。よろしくお願ひします。





キム・ミヨンジン氏

キム・ミヨンジン・ナンヨンハセヨ。今先生から紹介してもらつたキム・ミヨンジンです。ちょっとと遅くなつてすみません。私は今先生の説明どおりでニューカマーで、二十年前ここに在日する主人と結婚して住むようになりました。結婚の形でこつちに来て住んでおりますけど、まず私が嫁に來てる時に一九八三年、韓国はぐんぐん伸びはじまつた国で、いろんな経済的でも伸びる時だった。日本は経済的に安定した先進国で、韓国の経済と比べたら今よりはもつと差がありました。私が嫁に來てる時にはこつちにいる在日のお母さん、お父さんたちは、韓国の昔、私が生まれる以前くらいしかわからぬ人がたくさんおりましたので。私がこつちに來てる時にまだ韓国の現状がわからないのですごい貧乏な国というイメージしかなかつたので、まず私がこつちに來てる時にいろんな環境がものすごく変わつたらとか、日常生活するのにいろんな苦労があるやろうといういろんな話の元で始まつて生活だつたです。私も結婚する時には在日韓国人のことを探してなかつたんです。同じ同胞として結婚するのでそんなに難しくないと思つて。難しさを感じてない今まで「すぐ結婚します」。という返事をして、こつちに来たんです。だけど韓国からこつちに来て住むのに、まず私と結婚してるのは、こつちで生まれて、日本の教育を受けてるから私は国際結婚という形から始めたんです。在日韓国人は言葉なり、いろんな風習なり、韓国のいろんな事を親から学んだから、ここには本国よりもっと古いしきたりとかありました。それと、考えだとか住むことで日本人になつてしまつての部分があるし、その感覚が私の韓国人の考え方と違う面があつて、私もそこからちよつと悩みがありました。その中で周りの人の私を見る目は冷たいでした。まず同じ在日の中へすつとはなかなか入れてくれないんです。それは私よりもっと早く結婚してた人の結婚は、ほとんど恋愛結婚よりは見合い結婚が多かつたので、その方の離婚率が多かつたんです。ここに来て、できないという考えが早めに考えたか

もわからないんですけど。一年、二年で韓国に帰つてゐる人が多かつたので、私がこつちに來てる時にはすぐ帰るやろ、という目で見てるから、私も認められるまでは努力しなかつたらあかんと思つて努力しました。それでも視線が冷たかったので、日本人の中で住んでるよりは在日韓国人の中がもつとしんどかったです。今状況が変わって、日本でも韓国のいろんな文化も皆知つてゐるし、韓国が近いから旅行に行つてゐるからいろんな事わかつてゐるんですけど。結構十分二十分で話できるような量じゃないんです。まずそれがあつたこと。結婚したら日本人でも、韓国人でも、どの国人でも結婚は他人と結婚するから、どこに住んでるは大事故じやない思います。どんな形でどんな努力して住むかが一番大事なことだと思うんですけど。まず家族の理解が一番大事だと思います。私は韓国で教育を受けて大きくなつて日本に來たんですけど。國で育ててもらつてることに誇りを持つてゐるし、今考えたら私は、主人と比べたらものすごく幸せな人と思います。ここにおられるオールドカマーの人が、うらやましいなどいう目で見る視線もあります。教育も何でもニューカマーは本国でちゃんとできたからいいけど、オールドカマーは、ここでいろんな口で言わないいろんな苦労があつたということで、ちょっとその部分はニューカマーは苦労を知らないからという見解でちょっとその部分を避けてる部分もあつたし。今は結婚してここに來る人、たくさん的人は理解してもらつた上でいろんな活動もできますけど。はじめのニューカマーの時代にはそんな事もできませんでし、簡単にいえば私が嫁に初めて來る時に洗濯機は使うことができるのか、電気釜は使うことができるのか、そこまで本国の状態がわからなかつたんです。本国がどのくらい今發展してゐるか、どのくらいのレベルで住んでるか。そのわからぬ同じ国の在日の人でもわからない時代に日本で住んでたから、その細かいことからのいろんな説明できることを一つ一つ重ね頑張りました。今になつたら一番何がしんどいかといつたら、私は自分一人だけこつちに嫁に來る時に子どもの将来だとか国籍だとか、私が年になつたらどうなるとかは本当に考えてなかつたんです。それで曾おばあちゃんがボケで入院した時に、自分は日本語しゃべつてると思つてゐるけど韓

国語をしゃべったんです。その時に病院から呼ばれて私が行つて一日おばあさんが言つてる言葉を通訳しながら、私の三十年後の姿が見えたんです。その時に、中途半端に日本語しやべつて、ボケたらこうなるかなと思って、ものすごい不安になつたんです。それで子どもにいろんな事を心配さすと私が韓国から来て日本語ができる時姿を全部子どもが後ろで見たので、今でも私が日本語を上手になつてないことも気にしないで「これどう言うの？ これ点々あるの？」と聞く時に、「お母さん、そんなに頑張つてないでいいから、言葉を一回しゃべつて、それをちょっと発音が違うところを直すから、一回言つて」と言つて、それで直してもらつたりするんですけど。子どもにそんな私の不足な部分を埋めてもらうことは、ものすごい親として恥ずかしい部分もあります。だけど理解があつていいんですけど。周りの年取つてオールドカマー達があまり認めてくれないから、婦人会とか韓国人の婦人会とかに集まりがあつても、あまりいい顔で受けてくれないんですよね。日本人と韓国人の間はすぐそれが解けていくんですよ、不思議に。同じ在日韓国人と韓国から来てる人のこれが解けない今まで、どうして解けていくかなど私にはまだ宿題で残つてますけど。一生懸命頑張つてもちよつと残るかもわかりませんけど、結局最後まで頑張るしかないというしかないんです。それは何かといつたら、私がさつき言つた通りで、自分たちは自分の本国で育ててもらつてないんです。それは何かといつたら、私がさつき言つた通りで、自分たちは自分の本国で育ててもらつてないんです。韓国で生まれて韓国に育つた人を低い目に見るという視線を。だけどそれなりに、オールドカマーダ達はいろんな苦労はあつたとニューカマーはそんな苦労はなく、すんなりここに住んで皆に仲良くなつてるのはその人たちのおかげだと思います。それが何年後にどうなるかはまだわからないんですけど、多分オールドカマーダちはやさしくなると思います。日本の人人が韓国に行つていろんな事を感じて帰つてると同じに、こつちのオールドカマー達も韓国に行つていろんなものをそろそろ感じて帰つてますので、十年後二十年後

はきっと変わつてゐると思います。私は在日韓国人と結婚している一人の嫁としてここに暮らす生活、その辺にはまだ十分な説明はできないんですけど、それなりに幸せで今暮らしております。周りの日本人の友達がたくさん助けてくれて、言葉一つも知らない私をここまで引っ張つてくれる日本の友達がおるからここまで来てることを認めますし、その友達が見てる前でちゃんとしっかりして生きて、幸せを感じながら頑張る自分を見るつもりです。ありがとうございます。

仲尾・ありがとうございます。二十年間の日本での生活、それも在日三世の方と結婚されたということでお、文字通り自らオールドカマーとニューカマーの架け橋になつておられる。同時に日本の文化と韓国の文化の架け橋にもなつておられる。大変深みのある一つ一つのご発言だったと思います。また具体的には皆さん方からのご質疑に応じて、またお答えいただくこともあるかと思いますのでその時はよろしくお願ひします。それではその次、お二人目ユ・ソンヒさんを紹介します。ユ・ソンヒさんはこれからお話なさいますが、京都市の外国籍市民懇話会の公募委員として、今そちらでもご活躍なさっております。それではよろしくお願いします。



ユ・ソンヒ氏

ユ・ソンヒ・皆さん、はじめましてユ・ソンヒと申します。私は九十五年日本に語学研修のために来て、それから語学研修中に日本人と結婚した者なんですね。つまり国際結婚して、今子どもが一人います。個人的には京都大学の法学部の国際政治の日米韓の安保協力問題を研究している博士課程三年目です。初めて私が日本に語学研修に来る時は、韓国の親としては娘は偉い、うちの娘は偉いから自分で一生懸命勉強して自分の能力で日本にまで行つて、一見出世したということで田舎では大騒ぎになつたりし

てたんですけど。その娘が日本に語学研修中に日本人と結婚したということで、親も親なんんですけど地元では大騒ぎになつて、父親が小学校の校長先生で地元では有名だつたので、そこの娘が日本に行つて日本人と結婚したということで、お父さんもその当時は皆に顔を合わせることも、自分の娘が日本人と結婚したといふことも言えないということで、連絡することもちょっとだけいやがつておりました。友達も友達の両親に「この度結婚することになりました」ということで報告をした時に、「どんな人と結婚したの?」というふうに言われて、「日本人です」と言つた時に、「なんで悪い日本人とあんたが結婚するの?」という感じで言われて。そういうふうに言われた時はそれ以上に何も言えなくて、「あ、そうですか。でも皆が悪いわけじゃないんですよ」と言つてその場で終わつたんです。日本に来て、自分なりには語学研修を受けながら寂しいということを一番感じたと思うんですけど。その中で今の主人が優しく接してくれたことで、別に日本人だからイヤとか、韓国人だから好きとかではなく、私が好きだった人がたまたま日本人で、別に私はそれを問題にしたわけではなかつたから二人が一緒になることができたと思うんです。最初、私なりに日本に来て、日本の語学研修を受けながら、午前中、学校で勉強しただけでは無理だつたんです、日本の文化とか日本の考え方とかを理解することは無理だつたので、近所の工場に勤めました。パートで勤めてたんですけど。午前中は勉強して、帰つて来たらパートで勤めてたんです。今だつたらいろいろないお仕事ができたかも知れませんが、その当時はハンダコテというんですか半導体の下請けみたいな感じで。初め、私も韓国で大学を出て、そういう仕事をしているということ自体があまりにも恥ずかしくて親にも言えなかつたんです。自分なりには、その中の日本のおばあちゃんたちの普通の会話の中で、何かを得られるというふうに確信したので最初はいたんですね。一生懸命私なりに教えてもらつて一生懸命やつたんですけど、一番ビックリしたのが日本人は本当に職業精神というのがすごくて、それをする時はそれに集中して他のことは考えない、頭を上げない。朝行つたら昼帰つて来るまで頭をハンダコテだけに集中してしてゐるのを見て、さすが日本の

経済がこれぐらい発展せざるを得ないな、ということをその時に私も感じたんです。その後、自分なりにこ  
のままじや日本のおばあちゃんたちのそれしかわからないのでということで、塾に行つて英語とか数学を教  
えることにチャレンジしました。うまいこと受かったので、塾で英語を教えたりもしてたんです。もちろん  
日本語は下手なんです、その当時も。しかし、その塾の先生が私の英語の発音を聞いて、これは外人に教え  
てもらうのと一緒ということで仕事を無事にすることができました。その中で一番感じたのが、子どもた  
ちが韓国では「先生」という存在をものすごい偉い存在として考えて、あえて先生に「です・ます形」でし  
やべらないで、ただ「先生」とか呼び捨てにするだけでも本当にあり得ないということを、日本の子どもは  
平気で先生は私たちのためにいるもんだからということで、先生を中心というよりは子どもたちを中心に学  
校であろうが塾であろうが回つていくのを見て。これは日本の未来を考えた時に、ちょっとだけ問題がある  
んじやないかなとその時に初めて感じました。自分なりに語学研修のために来たこともありますので、結  
婚した次の年に京大に試験を受けまして入つて。まず修士課程を終えて、主婦ですから主婦をやりながら学  
業をやらなあかんので、子どもが大事だということを自分も実感しておりましたし育児ということもありま  
したので、博士一年目を終えて三年間休学してたんです。当時の先生がものすごい理解のある方で、普通な  
ら結婚したんだつたらお家に帰つたらという感じの先生も結構いらっしゃるんです。しかし、その先生の考  
え方としては、日本でまだ仕事と育児を一緒にすることがものすごい大変だということをその先生も  
理解してくれたので、とりあえず三年間は育児を頑張つてくださいということでその三年間は本当に子  
どもたちを育てることに集中しました。去年復学して今年で博士三年目を迎えるんです。個人的にさきほど  
仲尾先生がおっしゃったように、京都市外国籍市民懇話会に、それも去年から応募して。大体十名ぐらい  
がメンバーなんんですけど、京都市が依頼してこの懇話会のメンバーになつた方が大体半分ぐらいで、私たち  
みたいに応募期間があつた時に論文、自分がなぜこれに応募したいということを理由を書いて送つて、それ

がたまたま通つて、去年選ばれたメンバーなんです。年に四回くらいの会合がありまして、在日の法的権利、つまり参政権というのが認められていない現在ですから、私たちの生活、法的な権利ということをその場でこういう問題があると思いますということを提案して、それを京都市の公務員の方々がいろんな検討をして市議会および市長に提案するという形で持つていく会合なんです。非常に話の内容というのが、自分が考えたよりものすごく本格的な内容で、結構一年間やつてもものすごい勉強になつたんです。特に今年なんですが、四回目の会合の時はエルファーといつて在日のデイサービスを中心にする所なんんですけど、そこで在日のお年寄りの方々、大体八十才以上の方々を朝迎えに行つて、夕方また見送るという形でやるデイサービスをやつてる所に訪問しまして、どういう活動をしてるかということを私たちは見たんです。そこで感じたことは、お年寄りはものすごく寂しいという感情を持つてるんですけど、私たちが韓国で育てられて、おじいちゃんおばあちゃんを考えたのと、日本の方と在日の方がおじいちゃんおばあちゃんを考えてる考え方が随分違うなということをそこで初めて感じました。一人のおばあちゃんと私がお話をしたところ、「自分はものすごく寂しい」と。「しかしお家にいても誰も話しかけてくれないし、ただ息子はお金があるからここに送つてくれるだけでも感謝している」と。しかし、ここに来ても友達としてお話ししようとしても話題が話題ですから、限られた話題の中で午前中はお風呂に入れてもらって、昼過ぎは絵を描く。また「おばあちゃん、帰る時間ですよ」と言つたら帰るとおっしゃつて。「私の孫とか私の息子とかは私が早く死ぬことを願つてるんだよ」というふうにおっしゃつたんで、「そんな」とないですよ」と私はその時申し上げながらも、こういう年寄りのおばあちゃんおじいちゃん皆さんがものすごく寂しい思いをしてるんだなということをその時に改めて実感しました。この間民団の台湾旅行があつたんですね。私もたまたま友達が一緒に行こうということで私も一緒に行つてきたんです。三泊四日の旅行で、そこにも主に年寄りの方が結構多かつたんですねけど、私を含めた友達グループだけが唯一若いグループということで、最初は先ほどキムさんがおっしゃつ

たようにすごい色眼鏡でなんで私たち年寄りが行く旅行にあんたらが来たのという感じで、そういう対応も受けたんです。韓国で私たちが小さい時はおじいちゃんおばあちゃんをものすごい大事にするという教育を自然と受けたので、別に年寄りだから放つておくわけにもいかないし、私たちが本当に心から尊敬しているということを通訳もしてあげたり、荷物も私たちが持つてあげたりしたら、ものすごく喜んでいただいて。「あんたらは日本人と違うな」とおっしゃって、「私たち韓国人ですよ」と申し上げても、小さい時から生まれも日本でただ韓国語だけしゃべれるだけで、韓国という本国の基本的な教育であろうが文化であろうがそういうのをよくわかつてないそういうおばあちゃんたちに、私たち大学まで韓国で出てここに来た二ユーロマーの姿を見せることが台湾の旅行で本当に自分たちも嬉しかったです。おばあちゃんたちが私たちを改めて見直してくれたことに本当に感謝するところなんです。エルフナーのおじいちゃんおばあちゃんのこともそうですし、民団のおじいちゃんおばあちゃんもそうだったんですけど、やはり在日ということで孝の精神、年上の方を尊敬するという、そういうのが頭ではわかってるんだけど、そういう環境の中にいないわけで、わからない方々に我々韓国から来たニューカマーとして、年寄りを大事にする尊敬するということを行動で示すことによって、本当にただ単にニューカマーではなく日本と韓国の架け橋としての役割もあると思うんです。日本のオールドカマー、在日と本国の間の架け橋役を私たちニューカマーがしないといけないなということを実感しました。私の子どもたちの場合は息子が一人なんんですけど、今は国籍が二重国籍なんですね。父親が日本人で母親が韓国なわけですから二重国籍なんです。これは二十才になると自分が選択できる時期が来るんですけど、今は韓国は軍隊がありますから、男の子はそれが一番問題だと思うんですよ。自分がどうしても国籍を韓国にしてしまつと軍隊に行かないといけないので、そういう問題があると思うんです。子どもはまだ幼稚園に行つてるんですけど、母親が韓国人だということでこれから小学校とか中学校とか高校に行つてイジメもあるかもしれませんし、いろんな事があると思うんです。そういう中で子どもが母親が

韓国人で良かったということを実感するように、私が生活の中で主人と主人の親に対する態度によって、子どもが母親がやつぱり韓国人で良かったというふうに感じるようになればとも頑張りたいと思います。日本と韓国というのは今まで近くて遠い国として皆さんも考へてきたと思うんですけど。最近になって韓流ブームでヨン様とかで日本のお母さんたちがものすごく韓国のタレントさんたちに憧れて、韓国への旅行とかも結構たくさんあると思うんです。今はまだ竹島問題とか政治的な問題があつてゴチャゴチャしてるとこもあるんですけど、これからは近くて遠い国ではなく近くて親しい国としての韓国と日本というそういう間柄、そういう関係になるように私たちニューカマーが一生懸命頑張りたいと思いますのでよろしくお願ひします。

仲尾：ありがとうございました。ユさんもやはり自らの立場で日本と韓国の架け橋、あるいは積極的に在日本との架け橋になろうということをお考えのようです。一つだけお伺いしたいんですが、外国籍市民懇話会で在日の委員の方が何人かおられますね。あなたといろんなお話をされてると思いますが何かそのことについて。

ユ・ソンヒ：在日の方が今四人いらっしゃるんですけど、年寄りの方が一人いらっしゃいますし、もう一人の方は四十代ぐらいでそして私なんですけど。一人の方は民団を背景にしてらっしゃいますし、一人の方は朝鮮連を背景にしております。私の場合はどっちでもないんですけど、つい最近民団に加入したばかりなんです。その中で在日の方のお話によると、三人の方は在日で私だけがニューカマーなんです。私がいろんな発言をする時に一人の方がおっしゃるには、「あなたの考えは韓国から来て間もないのですそれは理解できませんけど、今現在の在日の考え方と違うところが結構ある」とおっしゃるんです。例えば年寄りを大事にすることかということで、「私も年寄りなんだけど、自分の息子に面倒見てもらいたくもないし、私も面倒見て

ほしいと言いたくもない、日本人と一緒にだと」日本の中で在日だと言いながらも生活パートナーは日本人とほ  
ぼ一緒にいるふうにおっしゃつたんです。民団としては民団の方には絶対結婚は民団同士でさせると。な  
ぜならば日本人と結婚させた時には友達からもなぜそういうふうにさせたかということでものすごく批判さ  
れたりするので、民団同士で結婚させて、その後ほとんど皆さんが民団同士で結婚した後、国籍を日本に  
変えるみたいなんです。民団に加入する人もほとんど少なくて、若い人はほとんどいないんです。私は  
ニューカマーで、違うというふうにおっしゃるんだけど、違うのは違うんだけども、考えてみればどつちが  
正しいか正しくないかという問題ではないんですけど、これから社会を考えた時にどつちの方が望ましい  
か。年寄りのことを考えて私たちが面倒を見てあげた方がいいのか、もう結構やからあなたたちはあなたた  
ちで私たちは私たちで生活する個人主義的な傾向の方がいいのか、それは個人の判断に任せるんだけども。  
私たちはせめてニューカマーとして韓国でこういうのが正しい年寄りに対する接し方ということを学んだ通  
りに、それを日本の中でも在日の方にもする方が、正しい教育を受けたそれをそのまま実践する方法であると  
いうふうに思っています。

仲尾：ありがとうございました。それでは三番目の方に参りましょう。ファン・ジュンさん。今のお二人  
は日本に来て結婚されましたけども、ファン・ジュンさんは今大谷大学の大学院でまだお一人です。でもい  
ろんな経験を積んでこられてると思います。それなりに率直にお話ください。よろしくお願ひします。



ファン・ジュン氏

ファン・ジュンさんは、アンヨンハセヨ。現在大谷大学で勉強している韓国人留学生です。ファン・ジュンと申します。よろしくお願ひします。皆さんご存じだと思いますけど、大谷大学といつたら浄土真宗の仏教大なんんですけど、いつも私が大谷大学ですと言つたら、他の人からいつも「仏教の勉強なさつてますよね」とか聞かれたりするんです。私は社会学科で今具体的なテーマとしては在日コリアンの民族教育に関心を持つて勉強しています。日本に来てからそろそろ六年目になるんですが、最初来たのは韓国の大学で姉妹関係である北九州の九州女子大学で交換留学生として一年間、最初は日本語勉強のために留学することになりました。最初は一年間だけ勉強して帰るつもりだったんですが、今までずっと勉強することになったのは、その短い一年間の間での在日の人との出会いが結構多かったというか、すごいきっかけになつたと思ってます。最初私は在日の人々に会つた時はすごい偏見を持っていて、彼らを解釈していたんです。なぜかといつたら、私も韓国で韓国なりの教育を受けてきたので、在日といつたらイコールお金持ちとか金さえ儲けたらいといいう感じで民族意識が薄いとか、韓国語をよくしゃべれないとか、そんな意識をすごい偏見を持ってたんです。その一年間の間にいろんな人と会つてると、ある時疑問点ができてきました。なんでこの人たちが今、日本の中で何世代に渡つて生活してるんだろうと思つて、そこから少しずつ本を読んだり私なりに勉強するようになつたんです。そこで私がすごく恥ずかしかったのが、在日の人と同じ民族として見てる私自身が、在日の人に對して何も知らなかつたと云うこと、知らなかつた自分がすごく恥ずかしくて、もうちょっと日本に残つて、これから在日の人に対してもうちょっと勉強しようかなと思って今まで研究をしてるというかやつてきてるんです。在日の民族教育なんんですけど、今は韓国でも在日の教育に关心を持つていてやつてるんですけど、当時五、六年前は韓国でも在日としたらそんなに重要

な問題として知られていないのが事実であります。民族教育の中でも私が特に関心を持つてるのは民族学級なんです。民族学級と言つたら知らない人も結構いらっしゃると思うんですけど。今、在日の学生の内八割以上が日本の学校なんです、特に公立なんです。八割が日本の学校で、二割が民族学校に通つていると言つても過言ではないと思つてます。このような日本の公教育の中で民族教育を行つてきるのが民族学級です。この民族学級はと云えれば、在日の子どものアイデンティティの確保と日本人との共生とか共生を目的として活発な活動をしております。私がここで注目したいことは日本人との共存とか共生なんですけど。共存と共生のためには在日の子どもだけに教育させるだけじゃなくて、日本人の学生にも勉強させる必要があるんじゃないかなと思ってます。今までではその違うところから在日の人との違うところから区分して差別したりいろんな問題が出てきたんですけど。これからはこの違うところをお互いに理解して尊重して認めてお互の文化を豊かにしていくことが一番大事な課題じゃないかなと思つてます。現在大阪府では小・中学併せて一六〇〇校ぐらいがあるんですけど、その中でも民族学級が設置されてる学校は百四十校くらいあります。その中でも民族講師というんですけど、民族講師の先生方は民族学級が設置されていない所まで足を運んでいて、いろいろ在日の人の事情とか歴史とか教えたりして活発な活動をしております。今日は私は皆さんに紹介したいことがあります。その民族講師の先生たちが他の日本の学校にいて子どもたちに教えて、そこで子どもたちに授業の内容を聞いて感じた感想を作文として書いてもらつた文章なんです。二人分の文章があつて、私がコピーして持つて来たんです。短く少しだけ、私が紹介しよう思つてます。中学二年生の人なんですが、「先生、このあいだはわざわざ学校に来てくださいました。在日韓国人」という言葉とかは前から勉強していく少しあはわかつていただけど、会つたり話をしたのは初めてでした。国籍が韓国ということだけで本当に日本人と同じ暮らしをしていたのがビックリしました。でもやっぱり外国人だからずつと日本に住んでいるのに選挙権がないのは私も納得がいきません。昔日本人が朝鮮や韓国に対しても

すごくひどいことをしたのは今私たちとは知らないけど、ひどいことをされた側はいつまでも傷が消えることはないと思います。今すごく韓国に興味があります。本当にありがとうございました。」もう一人の文章なんんですけど、「このあいだはいろいろお話をしてくださいありがとうございました。私はお話を聞いて一番ビックリしたのは、外国人登録証を持っていないと罪になるということでした。そんなものは必要なのか。なぜ持つていないと罪になるのかわかりませんでした。それに義務は果たしているのに権利がないといふことも驚きました。税金はきちんと払っているのに、どうして日本国籍じゃないと選挙などに参加できないんだろうと思いました。それはやっぱりいけないことだと思いました。そういう点は直していくかなくてはいけないんじゃないかなと思います。私は少し韓国のこと興味があるのでお話を聞くことができて本当に良かったです。」こういう文章なんですが、正直にまだまだ民族学級は問題がまだいっぱい残っています。民族学級の常設とか民族講師の身分保障とか問題があるんですけど、日本の行政とか、もちろん在日自身でもまだ目を向けていないこともないとはいえない事実もあるのです。でも私がお話をしたように、お互いの民族性とか文化とかの違うところを尊重し認め合うことが民族の理解がお互いの文化を本当に豊かにするためにも、民族学級をこれからも活性化させていくことが大事だと思っています。今後も私は日本の公教育における民族教育がどのようにあるべきかをずっと見ていくと思っています。ありがとうございました。

仲尾：ありがとうございました。期せずしてファンさんも民族教育の研究ということを通じて、在日の抱えてるいろんな問題について接点を積極的に持とうとされてるということがよくわかったと思います。というわけで皆さん方新しい視点からの在日像というものをいろいろお考えいただいたと思いますが。これからご質疑、ご感想などの形でまたそれをお受けして答えて、次のセッションに向かいたいと思います。よろしく。

司会・それでは第一部を終了いたします。第二部はこの時計で三時十分に開始いたします。お手元の方に質問用紙をお配りしておりますので、ご意見ご質問ございましたら、どうぞ後ろの箱の方にお入れください。お願いいいたします。できましたら三時ぐらいまでに頂戴いたしたいと思います。その中からこちらの方で読ませていただいた上で第二部に臨みたいと思います。（休憩）大変お待たせしました。それでは皆さまからお預かりしましたご質問ご意見を元にしまして第二部を始めさせていただきます。お願ひします。

仲尾・今年はとても質問ご感想が多いんです。今日も十八人の方からご質問やご意見、ご感想が寄せられております。時間の関係上ゆっくりお話を聞くことができないと思いますが、なるべく要領よくお話ししていただくという前提で始めさせていただきましょう。まず一番の方「三人の方へ、日本語を覚えるのは難しかったですか」。一言ずつキムさんからお答えください。

キム・ミヨンジン・初めは平仮名と片仮名は優しかったんです。それでちょっと一年ぐらいになつたら、ちよつと内容が難しくなつて、やっぱり韓国語よりは日本語が難しいです。漢字の読み方も音読みと訓読みと。韓国の漢字よみは前でも後ろでも同じよみです、その方が今でもまだ難しいです。平仮名の絵本を見て覚えたので、今でも絵本見るのは大好きです。恥ずかしいですけどまだそんなには上手になつてないです。

ユ・ソンヒ・私は十年前にこの国際交流会館がものすごく懐かしく思われるんですけど、十年前に初めて来て。正直言つてお金を払ったYMC Aとかで学んだ時はそんなに役に立たなかつたんですけど、一週間に三回あつたこちらの日本語講座を基本に独学で同じほど自分で勉強したんです。NHKニュースとドラマを一週間

に一つだけ選んで、これを必ず最初から最後まで見ることでそれをマスターするという形で勉強したんですけど、かなりドラマの勉強と NHK ニュース、特に手話ニュースがあるんです。十一番でやるんですけど。それをいつも必ず十五分間観たんです。下に字幕が出て日本語でお話するので結構やさしかつたです。

ファン・ジュン・ジョン：最初日本語は韓国語と文法の並びが一緒にだから、最初はすぐくやさしかつたと思つたんですけど、すればするほど結構難しく思つていて。例えば、韓国ではない表現とか結構日本語であつて。自分の調子が悪くて休みたい時も、日本語だったら「先生、調子が悪いので休ませていただきたいんですよ」と言いますよね。一方韓国では結構ストレートに言うんです。「調子悪いんで休みたいんですよ」と。そのストレートの表現から日本語の表現を考える時、結構頭の中がすごく混乱してすごく難しかつたという思いが結構あります。

仲尾：日本語の場合でいねい語、謙譲語が特に発達してますから、これが特に韓国から来られた方については難しいということをよく聞きますが、今のファンさんのお話もそういうことでしたね。次へ行きます。これもなるべく短くお答えいただいていいと思うんですが。「韓国に住む日本人の方が、韓国人にどう思われてるんでしょうか」。つまり在韓日本人ということですね。これも世代によつて違うと思いますが、キムさんからお願ひします。

キム・ミヨンジン：日本の方が韓国に住む時には、韓国人は自分の家でご飯を食べたら家族です。ものすごく温かい目で見てくれることがありますし。日本の国の問題がテレビに出てる時には「あんまり個人的には関係ないのでこんなこと言われてもう」だとか、全体に入る前にその言葉を言つて話に入つたりすることが

ありますので、そんな差別ということは私がいる間にはなかつたんです。

ユ・ソンヒ、彼女のお話にもありましたように、私も大学の時も日本から来てる留学生とかも結構いたんですけど、やはり日帝時代というのがあって、日本で考へてる韓国人といふのは結構差別されたりというのも多いんですけど、韓国では結構年寄りの方は日本の方に対する先入観とかは結構あると思うんですけど、昔の自分の経験上。しかし今の若い人とかは日本の文化とか日本の映画とかドラマとかを見て、ものすごく親しく同じ東洋文化ということで結構親しくしてくれるし、また留学生とかも自分の日本の名前じやなくてそれを漢字に変えて発音される感じで大学とかでも呼ばれる場合があるので、名前だけ見たら日本人なのが韓国人なのかよくわからない時もありました。今韓国でも名前が四文字になつてゐる人も結構いるので、四文字だけ見てこれが日本人なのか韓国人なのかわからない場合もたまにはあります。それほど韓国では日本人といつたら、昔とは違つて結構ものすごく温かく迎えてくれる雰囲気です。

ファン・ジュン、韓国人は情があついというか付き合いやすいところがあると思うんですよ。私の友達もたまにアメリカとかに留学に行つたら、日本の友達なんですが。アメリカの友達よりかえつて韓国の友達がいっぱいてきて、そこで韓国語をかえつて勉強して帰つて来て、私に会つたら韓国語で声かけてしゃべつたりする場合が結構多いんですよ。だから韓国に住む日本人も結構積極的に素直でお付き合いしたりするとそんな差別とかもないと思つてゐるし。今、韓国のある大学の水野教授という日本人の先生がいるんですけど、結構韓国の番組とかにも出ていて、韓国の人に対するいい印象を持つていて、結構頑張つてゐる先生もいるし全然大丈夫だと思います。

仲尾：心配ご無用ということです。次、「二人の方々共々全く日本人と変わらない外見なので、見かけだけで差別を受けられたことはないと思いませんが。それ以外でどんな時にどんな風にイヤな思いをされたのかお教えください。」六番です。率直にお答えいただければと思います。

キム・ミヨンジン：同じアジアですので全く一緒なのでそんな見た目で差別はないんですけど。差別があるのも、国が違うから仕方がないし、私が言葉しやべれない時に、近所の子どもが「おばさん、変なおばさんや」と言つて、変なおばさんという意味もわからない時だつたんです。その時に「オーヤンファイーファイーと同じ国か?」と聞いてたんです。オーヤンファイーファイーがどこの国の人かその時に何もわからなかつたので、主人が帰つて来てその話をしたら、言葉の速さだと中国人に思ったのかもわからないななどいうことも、言葉をしゃべつたら違つかなという印象でしたけど。見た目には全く一緒なので停留所で待つてる時に、「何番に乗つたらどこに行くんですか」とか、全然日本語しやべれない時に聞かれた時に教えもできなかつたからちょっと悔しかつたりはしました。その位ですよね…。

ユ・ソンヒ：私の劉とうい字だけを見ると、中国の方が結構多いので、このあいだ台湾に行つた時も台湾語でしゃべつてくるので、韓国では少ない字なんです。日本に来て一番差別、その当時はそういうふうに思つてなかつたんですけど、今思えば、最初役場とかに行つて、今外国语懇話会でもいろいろとお話するんですけど、役場に行つた時に公務員の方が一番そういうのが多いんです。最初から日本語がわからないと思って、向こうは「日本語わかる?」とか子どもに言いかけるような感じで、「これわかる? これして」という感じで。韓国では絶対公務員の方は相手がどういう人であろうが、「です、ます」を付けるのが当たり前なのに、日本に来たら公務員の方から最初「これわかる?」とかいう感じで聞いた時に、その時私日本語がある

程度はわかつてたんで「わかつてます」というふうにその時は終わつたんです。まず日本の公務員から外国人に対する接待、話し方をちょっとだけ変えた方がいいんじゃないかなというふうに思いました。

仲尾・この中には公務員の方がかなりたくさんおられると思いますのでよろしくお願ひします。

ファン・ジュン・最初私が日本に来た時、六年前は結構日本の行政が厳しくて、きちんと保証人とかがいなかつたら問題になつて、留学とかはできない場合もあつたんです。最近は学校側がきちんと保証してくれて、住宅問題とかいろんなビザの問題とか昔とくらべたらそんなに問題がないんです。一回だけ私差別に近いものがあつたんですけど。引越しよとして不動産屋に行つていろいろ物件を紹介してもらつてる中に、ちょうどいい条件が合つてこつちにしようかなと思つて向こうの家主に電話してみたら、向こうは一方的に外国人だからダメですよと言われて、ちょっとショックだつたんですよ。

仲尾・そういう入居差別が厳然としてあつたということですね。最近のことですか。ということです。次「お三人の方へ二つ質問がありますが、最初の方韓国にいた時の日本に対する印象は今日本に住んでどのように変化しましたか」。これは先ほどのお話の中で少しずつ触れられておられたと思いますので、後の方の質問に答えていただきましょう。「韓国や市民社会も今大きく変化してると思います。日本に長期滞在する中でそのことがよく見てくるはずです。良くなつたと思うこと残念と思う」とを述べてください」。韓国社会の良くなつた点、悪くなつた点、残念と思う点ですね。

キム・ミヨンジン・良くなつてると思うことは、きつと韓国はこれは大変ということで、ちょっと時間遅

くが多い。日本の会社の人が出張行つた時もものすごく苦労したと思ひますけど、その辺がちょっとあります。それが今会社も日本の会社に対して仕事をする会社が多くなつて、今は時間通りに動くようになりましたし、それはいい変化だと思います。残念と思うことは、日本はものすごく質素で経済的でもちょっと豊かな人達でもものすごく質素で暮らしてゐるんですね。それを見て、韓国はちょっとお金が収入が増えたら生活ぶりが派手になつたり、差がものすごくあつて。私が日本から韓国へ行つたら、一番それが今残念で目に付く部分です。

仲尾：十数年前に私も韓国に行つた時はソウル時間というのがあって、遅刻は当たり前だつたということがありましたが、そういうえば最近それは変わつてゐるようですね。

ユ・ソンヒ：私が日本に来て間もない時に、皆さんも覚えていらっしゃると思うんですけど、サンプン百貨店といつてソウルの一番真ん中にある百貨店が崩壊したり、ソンスデギュといつてハンガンの橋が落ちたりしてすごい事故があつたんです。それが日本に来てその年にあつた事故だつたんで、皆日本のお友達とかが「韓国は大丈夫?」というふうに聞くのが当たり前だつたんですね。やっぱりそういうふうになつた背景というのは、韓国は何でも「大丈夫、大丈夫」「ケンチャナヨ、ケンチャナヨ」というのが何でも通じるんです。しっかりと日本のように何でも確實にしっかりとするというのがちょっとだけ足りないというふうに今でも思つてます。そういう「ケンチャナヨ」という文化がある面ではゆとりがあつていいかもしませんけれど、きちんとしないといけないところではそれが後でのすごい問題を起す原因になるので。まだ韓国はちょっとだけ足りないんじゃないかなと思います。

仲尾・次はキムさんへの質問です。「キム・ヨンジュンさんにお尋ねします。違う国から嫁いで来られて、今まで大変苦労された、特に言葉などと思いますが。今までで一番嬉しかったこと、反対に辛かったことがあればお聞かせください。韓国では日本のこと、特に小学校から高校はどういうふうに教えているのですか」。

キム・ミリハジン・私は今現在小学校で国際クラブを担当しております。一番近い国のこと、京都の子どもたちに国際性を教えようということで、一番近い国の韓国のいろんな文化を子どもに教えるんですけど。その中で一番嬉しいことはそこになりました。私、今七年目になるんですけど、子どもたちが初めて感じてることと今感じることが全然違うようになつて。私が全く外から見たら日本人に思えるんですけど、いろんな事を私の口から聞く時には「あつ違うな」とわかるから、子どもたちがそれなりに私にいろんな事を反対に日本のいろんな文化を教えてくれるんですよ。私が教えたたら、「日本はこれです」とか。それで韓国の踊りを私が教えた時に、日本の子どもが太鼓を教えてくれたんです。それで一緒に太鼓を叩いた時に私はものすごく、これが私が私の國だけじゃなくて反対に日本の文化をまた教えてもらおうんだということで嬉しかつたこと。辛かつたことは、こっちで言葉が自由にできなかつたので、自分の表現したいものが言葉でちゃんとできないこと。相手にしててこんなふうに言いたいけど、それが八十分しかできない時に悔しくて苦しむことを感じます。それより年をいった時のことを考えたら辛いです。今はそれだけです。

仲尾・次はお年寄りの排除の問題ですが。十番です。これは一番お若い世代のファンさんに答えていただきますでしょうか。というのは、ユさんもおっしゃいましたし、今キムさんもお話の中で少し出ております。ファンさんいいですか。「ユさんの」発言にもありました、お年寄りを大切にする教育を韓国で身に付けられ

て、在日の人にそれを返していきたいのですが、今私はこの教え、考えは日本人にも必要だと思っています。スタートラインが同じなら、どのような形で進めていけたらしいのでしょうか」。ファンさん、お答えいただけますか。

ユ・ソンヒ：これは私がお答えします。やっぱりなにより日本の教育の方から先に始めないと思っています。小学校から今の日本の教育は本当に日本の未来をダメにする教育だと私は思います。年寄りを大事にするというそういう教育から始めないと。それもそうですし、今の日本の教育水準が先進国の中でも下にあるというふうに、ゆとり教育をあまりしすぎといることもあるんですけど。その中でも大事な礼儀、そういう教育が全くないというのは本当に子ども中心に日本は教育してるんですね。それよりは、親が正しい方向性を示して、その方向性に従つて正しいのはこれなのかあれなのかとこういうことを子どもがそれを見て判断するような教育方法を取らないと、子どもが自由に何でも判断できるようになることが最高だというふうに思う今の教育姿勢は私は間違ってると思います。

仲尾：他の方はいいですか。

キム・ミヨンジン：私はもう古い世代ですので、と目につきます。私がちょっと年寄りに優しくしたら、私の子どもから「お母さん、余計なことしないでいい」とか聞いたことがあります。その時にいろんな話をしたんですけど。余計なことがどこからどこまでが余計なことかと。それはあるんですけど、ご飯食べる時でも韓国で育つてると私たちは年寄りが食べるまでは決して先にスプーンを取つてないんです。おばあさんがおれば、おばあさんが先にスプーンを取つて召し上がつたら、その次から食べるんです。その中で育つても

のですので、その視線で見たら日本の家庭にいろんな事がちょっと今失ったという部分が結構ありますけど。まだそれは私は今の子どもの時代でまた戻すことはできると思います。一気にはできないんですけど、一つに家族の中で大事にするものは家族、家族から始めてたら友達関係も大事になつていくし。イジメの言葉が私日本に来て初めて聞いたんですけど。私は家族が多い兄弟の中で育つてたから、生まれながらイジメられたことです。横になつて寝させてる子どもの上で兄弟が多いので踏んだりしたり、食べる物でも取つて食べたりするから、それでもイジメの言葉、言葉 자체がなかつたんです。それが日本に来て初めイジメの言葉で、これ何の言葉かと訳してもらつた時にちょっと理解ができなかつたこと。それが私が子どもを育てながら、公園で子供たちが遊ぶ時に子供どうしが「けんか」すると私の子供にもよその子にも私は怒りました。するとその親の顔色が変わつて連れて帰ります。それは私がわが子と同じに思つてたから怒つてたんです。一つ一つ直していくんだつたら、まだ日本もよくなるんちがうかなと思います。

仲尾：次十四番、これはファンさん。「韓国からのニューカマー」という新しいテーマで大変興味深いお話をありがとうございます。ファン・ジュンさんに質問なのですが。もし日本人と結婚して子どもができる場合、お子さんは民族学校、日本の公立学校どちらに通わせたいですか。また現在問題になつてている歴史教科書問題について、日本の社会教育の中では次世代を担う日本の子どもたちにどのように伝え育てていけばよいとお考えでしょう」。こついう二つの質問です。

ファン・ジュン：もし私が結婚して日本で住むんだつたら、やはりその子どもは一つじゃなくて二つだと思ふんですけどね。韓国人と日本人。私は一つのルーツを持つてると思つてて。もし結婚して日本で住むんだつたら、日本の公立学校の民族学級、さつきお話をしたように、民族学級できちんと日本の教育と韓国の教育

両方、私は勉強させていきたいと思ってるし。もし日本人と結婚して韓国で住むんだつたら、それも同じようにも民族学級と同じようなインターナショナルの学校とかもあると思うし。同じ韓国の環境で日本のことときちんと勉強させていきたいと思ってます。なぜなら、私の子どもは私だけ韓国人だけじゃなくて、その半分は日本人だと思ってるから、二つの文化をきちんと身につけて勉強させていきたいと思ってます。歴史教科書の問題なんですが、つい最近竹島とかいろんな問題が出てきていますね。日本の歴史教科書についてはいろいろ、私は私なりに韓国で勉強して育つてきましたから、日本人が持つてる考え方とちょっと違うところもあると思うんです。最近ビックリしたのは、日本の歴史の勉強の中では近代史のところはあまり勉強させてないということを聞いたんです。大事な近代史じゃなくて古代史とかを中心にして勉強させるから、今の韓国とかの交流とかを全然知らない人が育つてくるのはいけないんじゃないかなと思っています。「なぜ近代史のところを勉強しないんですか」と聞いてみたら、「あまり受験とか試験に出ないからです」と言つて。そんな大事なところを無視して、前のところだけ勉強して、何をこの人たちが学んでいつたらいか不安になるところが結構あります。

仲尾：ありがとうございます。今の教科書問題ですが、私も教科書の問題は深く考えねばいけないと思って調べたことがあります。すると歴史の教科書で、今おっしゃいましたけど、教科書の編集はここ十年ぐらいでうんと変わりまして近現代の比重がとても多いんです。三分の一以上が近現代になつてます。ところが学校の先生が教えるのは古代からせいぜい明治維新までということなんです。近現代は今おっしゃつたように受験問題にあまり出でこない、あるいは時間がないとか、もう期末でもういい加減にしておこうということで、せつかく近現代のかなりいい教科書、私は一般的によくなつてるとと思うんですが、それが十分に活かされていないということが私の歴史教科書をいろいろ比較検討した結果です。「新しい歴史教科書をつく

る会」の教科書問題については、これも近現代に触れておりますけれども、私の大学で韓国から来ている学生に五週間の集中研修を日本の歴史教科書を使ってやつてみました。そして「つくる会」の教科書も紹介されました。その「つくる会」の教科書は韓国では、日本でこんな教科書ができると「う」とも紹介されていて、彼、彼女たちは知つておりました。感想を聞いたところ、「他の教科書と違う点が一つだけある。他の日本の四つか五つの検定済み教科書は非常にまだ問題もあるけれども、客観的に述べるということがよくわかつた。ところが「つくる会」の教科書は非常に主観的だ」というように言つてました。それを今のファンさんの答えに併せてご報告させていただきたいと思います。次へ進みますが十五番。「キムさんへ。日本へ来て日本人は親切に助けてくれるが、在日の人たちの目が冷たいというような発言がありピックリしました。もう少し具体的な事例をお聞かせください」。

キム・ミヨンジン：私は幸せすぎて、韓国で育つてもらつてることがこんなに幸せなこと知らなかつたんですけど。こつちに来てからわかりました。在日の人は韓国でも、日本でも場所がないんですよ。そのことを私知らないでここに嫁に来て、私も準備ができなかつた部分があつたんですけど。それでものすごく辛い立場ですけど。私はその立場と全然違つ立場だつたから、その人たちが私を見る時にはいい表現が出来ないけれどすゞくうらやましいものがある。私は自分が考えたものを自由に言つてしまふ。それで私の意見はこうですと言つてるけど、こつちで生まれてる人は許せなかつた時代に育つてる人がたくさんおられて、私を本当に驚く目で見たはずです。それでその人たちはなんだん私を冷たい目で見るようになつてゐんですけど。女は賢すぎたらダメという昔の言葉通りで、私がこれをやりますけどどうですかといふ時には、あまり賛成よりは後ろ下がつてゐる方が多かつたし。それもその時に感じたんですけど、本国育ちと、自分の国ではないところで育つた違ひなんだと思います。こつちで韓国学校はその時になかつたんです。在日の中で一番

初めに学校を作ったのは朝鮮学校でしたので、朝鮮学校に行きたくない人は民族学校がなかつたので、日本の学校へ行つて日本の勉強をした。それに親から本国の昔のことを耳で聞いてるものを口から教えてもらい、その教育を受けてるので、ここにいる在日朝鮮人は韓国の昔の悪い部分を持つてゐるし、日本のまた悪い部分を持つてるんです。二つの悪い部分を重ねて持つてる人が多い在日だったのかど思ひます。それに人に對してもそれどころかちょっと変わつてゐると思ひます。それは小さい時から差別にあって、のびのび育つことができない部分で結局性格がちょっと曲がつてゐる部分があつたということで。それからは私は随分在日韓国人のことをものすごい反対の立場でわかつて胸が痛い時がありました。それに本国の人は、在日韓国人は日本人がアメリカに行つたらアメリカ人と同じになることと同じに考えたんです。本国も在日韓国人の立場はあまり詳しくわからぬ。日本人も在日韓国人の立場はあまりわからぬ。その部分がかなしいので、その部分からいろんなことに私が感じてる冷たい目だつたと思ひます。

仲尾・ありがとうございます。次はユさん、ファンさん。これは一言ずつのお答えでいいと思ひますが。  
「語学研修に來た理由、動機をお聞かせください」。

ユ・ソンヒ・私は元々から政治問題に関心がありまして、大学ではロシア語を勉強したんです。それで大学の時はモスクワに一年間留学をしたことがあるんです。極東アジアの問題に関心があつたんです。英語、アメリカとかは別に行く必要はなかつたんですけど、どちらかといふと日本の安保政策ということを知らない限り極東アジアの情勢問題がよくわからぬ気がしたんで、とりあえず日本の本を見るためには日本語がわからないとダメだったので、とりあえず日本に行って語学研修を受けようと思ひました。

ファン・ジュン・私は韓国の大大学で日本の文学を専攻するようになつていて、そこで初めて日本語を知ることになつて。最初はすごく文字が初めて見た文字だったので、すごく絵に似てるような文字だったので、そこから勉強し始めて。やはり日本語を勉強してるから、本場の日本でもうちょっと生き生きした日本語を勉強した方がいいかなと思って。そこで交流してる姉妹学校の方に偶然運が良くて行けるようになつて、そこから頑張って今まで勉強するようになりました。

仲尾・ありがとうございました。次もファンさんへのご質問ですね。「高齢者の方の相談の仕事をしていますが、お話にあつたように日本語が理解できなくなられて介護が困ったことがあります。食事も高齢者向けの薄味になじまず、ご本人が大変だったと思います。エルファーのような場、例えば食事の問題のない施設ができたら良いなと思います」。実はこのエルファー私も関わっておりますが、東九条の本所だけではなくて、金閣寺の近くの方、城陽市の方にも支部ができております。お隣の滋賀県の大津市でもケナリという同じような施設が小さいですができております。大阪、兵庫でもあちこちにできておりますので少しずつ全国的な運動になりつつありますので、これは関心を持つていただいた方はぜひともいろんな形でご協力いただければありがたいと思います。ファンさんにお答えいただければいいなという質問がこの後に書いてあります、「韓国での教育と在日での教育で高齢者を大切にする教育がなぜ変わっていくのでしょうか、民族教育をされているのに」。日本の在日の民族教育の中で高齢者の問題がどのように意識されているか、こんなことだと思います。お答えいただけますか。

ファン・ジュン・今、私は大谷大学の博士課程で民族教育の勉強をしてるんですけど、修士の時は在日高齢者の福祉のことに関心を持っていて、大阪の生野区にサンボラムという市民団体が運営してる施設があつて、

あそこで結構いろんな在日のおばあちゃんたちハルモニと接していろんな話をすることができたんです。そこは在日のおばあちゃんたちが来ていて昼だけ食べて帰るんですけど、その食事とか介護をする人は在日一世の方で、一世の方もあまり韓国の料理とか最初はうまくなかつたんですけど、できれば韓国の料理をハルモニたちにご馳走するのが目的だったんで、すごい勉強していく韓国の伝統的な料理とかおかげとか作つて、そこでハルモニと食べていて。朝鮮語をしゃべりながら、韓国の楽器を叩きながら、一時間とか二時間とかしゃべつて帰つたりしてたんで、そこで私もいろんな話をしたんですよ。聞いてみたら、やはりハルモニたちは「今まで自分たちが日本の社会で苦労してきたからいろいろな差別を受けてきたから、私の子どもたちだけはそんなひどい目にあわせたくないし、だから私はちゃんと民族教育をさせたことがないんですよ」とか。「だから私は日本の学校でちゃんと日本人として勉強させてきました」とか。だから今は自分の本名を名乗つて生活する人よりは、自分を日本化された自分として日本人として外で生活したり、そこで「私はあんまり迷惑かけたくないんですよ」という本人たちの意志が結構強かつたんです。でもそこで私は在日三世とか若い人たちと出会つていろんな話ができるんですけど、その人達も最初はその親たちがイヤだつた思いがあつたんですけど、でもだんだん自分が大きくなればなるほど、やはり自分のルーツは自分のお母さんとかお父さんとか自分の祖国にあることをすごく気づいていて、年取つて自分の高齢者とか自分の親をちゃんと面倒見ていこうという考えが結構強かつたんです。私は高齢者を大切にする教育がなぜ変わつていくのでしょうかということは、私は変わっていつてるかなという疑問が出てるんですけど、どうでしょうか。

**仲尾** 率直にそのように疑問があるというふうに思われてることで結構かと思います。次は十八番、ユさんです。「韓国では市民がデモをしたり政治に声を上げることが多いと聞きます。市民によるインター

ネット・メディアも広まつたと聞いています。正直すごいと思います。一方、日本では逆に政治に無関心、逆に歴史修正に向かう若い人が増えているようです。なぜこのような違いが生じると思われますか」。政治学を勉強してられるユさんにピッタリ。

ユ・ソ・ノヒ「私自身も大学の時はデモに参加して、積極的に学生運動したメンバーなんです。韓国としては、古代文化までは本当に素晴らしい文化を誇った民族だったと思うんですけど。朝鮮時代を越えて日帝時代を経験してから、元々韓国が持っていた民族性というのはシンメイと言つて遊ぶ時も一生懸命遊ぶ、とにかく楽しく人生を楽しむというのが韓国人の特技というか特徴だと思うんです。それを日帝時代を経験することによって、ハン「恨み」を持つ民族性に変わっていくんです。それというのは、韓国人としては楽しく人生を生きていきたいにも関わらず、他の民族つまり日本民族が来ていろんな抑制されることによって、それを恨みということで自分たちの持つてた全てをなくした。そういう経験をした民族が新しい民主主義ということに接した時に、自分たちの欲求を主張するのは自然な流れだとおもいます。一方で、日本というのは元々確立された体制ということを変えることに対する、今の日本人もそうなんですけど、心の中から抵抗感を持つてると思うんですよ。例えば憲法を改正することに関してもそうです。しかし、韓国の場合は憲法を今まで五回ぐらいは変えてるんで。つまりこれが間違ってると思うんだつたら、それをすぐに変えなあかんというのが韓国人の中にはあるんですね。しかし、日本人の場合は伝統を大事にするからこそ、今問題であつてもそれはちょっとだけ今のところは我慢しろというそういう主義が強いと思うんですよ。しかし、韓国は日本の日帝時代を経験してから、間違ってるることは直さなかん今すぐ直さないといけないということが強くなつたからこそ、若い者、特にノムヒヨン大統領の政権は昔学生運動を主にしていたそういうメンバーが皆長官とかになつてるんです。やはり間違つてることは今すぐにでも直そうという、そういう

う早く早く直そうというのが韓国は強いですし、日本の場合はじつと待つて待つて世界が変わるのを見て、それから日本は後でやつてもいいというそういう主義が強いんじゃないかなというふうに思います。

仲尾：ありがとうございました。次の質問も多少関係があるんですが、お一人の質問を併せてお答えいただきましょう。十三番、十七番です。「外国で生活される三人の方の苦労に計り知れないものだらうと推測いたします。韓国人と日本人と在日コリアン、韓国と日本。皆さんにそれぞれ間に立ち、今の自分らができると思うこと、これから先やってみたいことはどのようなことですか。韓国人である皆さんから見て、韓国と日本が歩み寄るためににはどのようなことが必要あると感じますか」。国と国とが歩み寄るという、こういう表現をなさつてますが。もう一つ似たような質問の趣旨と受け取つて、併せて答えていただきましょう。今は国と国との問題ですが、もう一つは個人として何ができるかというような意味合いのお尋ねです。十七番です。「最近ノムヒヨン大統領が日本の戦時下における賠償の発言がありました。今日のフォーラムとは無関係なのかもしれないけれど、第一回目から参加していて、本当に「チヨゴリときもの」だなどポジティブに思いついたけれど、なんだか一言で言いきれないものを感じました。とても大きな問題なのでこのフォーラムで扱うのは困難なので、特に取り上げてほしいと思わないのですが。日韓の関係は竹島の問題、独島の問題がとても厳しいものがからんでいます。これはこのフォーラムで取り上げるべきではないと思うので、単に参加者としてどのように消化すればよいか、むしろアドバイスしてほしい程度です。先生を含む三人の方にそれぞれ質問です。どうかポジティブになれる考え方をアドバイスしてください。よろしくお願ひします」。つまり日本と韓国の中にあるいろんな外交問題、通商問題などについて、国と国ということもあります、ポジティブに一人の人間としてどのように考えていくのがいいだろうかと。」のような趣旨だと思うので、キムさんからお答えいただけますか。

キム・ミヨンジン、歴史の深い差はいろいろありますけど。私は本国で日本のいろんな歴史を細かいことまで教えてもらつてゐる世代でした。それで私が日本に来てから、私の子どもが小学校に行つてゐる時に歴史をあまり教えてないなということを感じました。それで私なりに子どもには韓国の歴史を教えてますけど、私が教えてもらつたような細かいことまではいらないけど、その時に感じたことは正しい歴史を素直に教えてたら、いろんな問題が起きた時にお互いに会話をしたら解けると思います。お互いに、結果がこんなになつたのと違つかなと思います。本当に素直に話をどんどんしても、解決をする希望を持つて、その希望がなかつたらダメですよね。話だけではダメです。希望を持つて話をすれば見つかると思いますけど。そのためには政治家に今まで通りの政治よりはちょっと現代に向けて、今の現状を見て昔の日本と韓国じゃなくて、今の日本と韓国を今からの子どもに教えるんだつたら、いろんな言いにくい言葉でもできますし。昔の歴史は今さら変わることはできません。私でも昔の植民地のことを忘れませんけど。それがあつたから頑張らなかつたらダメな部分を自分で生かせたらいいと思いますし、その辺を時代が変わつてから皆考えるものが変わつてるので日本もその時代に合わせて話を合わせて、いろんな事を相談してたらきっと見つかるはずです。

ユ・ソンヒ、韓国に行けば、いつも歴史の問題を見てる時にいろんな方がおっしゃるのは、許すこととはできても忘れるることはできない、日帝時代のことを。そういうふうに言つてます。許すこととはできても忘れるることはできないということは、私たち若い世代とか経験してない人にとっても日帝時代は許すことができる過去かもしれませんけど、一人一人が忘れられない過去であるわけで。日韓を巡るいろんな歴史的なそういう問題を言い出せば限りがないと思うんです。しかしあっぱりこういう竹島問題もそうですし、こういう問題を解決するためには、お互いがお互いの素晴らしいところを尊重し合う気持ちが大事だと思うんです。日本は韓

国をほめる、韓国は日本をほめる。いろんないいところが、自分たちの持つてないいいところが必ずあるわけなんですよ。そういう同じ東洋の中でも中国ではない日本と韓国だけがお互いに共有できるところが必ずあると思うんですね。そういうところをお互いが尊重しあうことから始めないとこういう問題は解決できないと思いますし。これは一つの私の提案なんです。竹島問題が前から出て、韓国では「竹島はわが領土」といつて歌までありますし、それを小さい子どもたちから覚えるようにして、それが韓国の国土であるということを小さい時から洗脳されて大きくなつたわけなんです。一番大事なことは、私の研究テーマも日本と韓国の安保協力体制なんですよ。それを韓国において、いろんな研究者に言えば、あんた何を言つてゐるという感じで言うんです。なぜならば、韓国は日本がいろんな安保問題を話すだけでも、日本はまた軍国主義になりつつあるという感じでマスコミもそういうふうに出てきますし。だからこそ私みたいな日本と韓国が安保的に協力体制を持たないといけないということを学会に行つて言つた時に、あなたは日本のスペイジじゃないのという感じで思われるわけなんです。竹島問題ということを解決するためには、一番いいのは竹島に日本と韓国の友情の家を建てるんですよ。そこに根本的に漁業問題が一番問題なんんですけど、そういうことをおいて観光、独島は誰も住んでないんですよ。しかし韓国が勝手に誰か民間人を一人行かせたり、軍人とかもそれを管轄してゐるんですけど。そういうことをやめて、日本と韓国が協力しあつて、独島を観光地域として東洋の一番きれいな観光地域として一緒に共に開発するということをしたらどうかなと、これは私の考えなんですがそういうふうに思つてます。

ファン・ジュン：昨日も韓國のお母さんから電話掛かってきて、「あなた今大丈夫なん?」。「なんで?」と言つたら、「竹島のこと今すぐくるさいやんか。大丈夫なん?」とすごく不安そうな声で電話があつたんです。もちろん私は在日のことを勉強してるから、そこでいろんな日本側の行政の問題とか韓国側の行

政の問題とかいろいろ見てきてるんですけど。今竹島のことをする前に、日本人はなぜ自分の身近に近くにいる在日のことを無視というかほつたらかしにして外の方だけいつも平和平和とか平和を強調してるか、私は疑問になつたんです。前、アメリカに九一一テロがあつた時も、日本の方がわざわざアメリカまで行つて涙流しながら、「かわいそうにこんなひどい目にあつて、世界は平和につながらないといけない」とか話があつたんですけど。その事を聞いた時は、それは当たり前のことなんですよ。私も平和すごく大事だと思ってるし、でも平和をそんなふうに言うとしたら自分の国内の問題を最初に解決しないといけないと思ってたんです。最初私が日本に来た時も、日本の学生と私と中国の学生といつもいろんな話しゃべつてるうちに必ず出てくるのが政治の問題だったんです。日本の学生がいつも言つてるのは「あなたたちはちょっと違うさいんじゃないの。私たちはやつてないんですよ。私の先祖たちがやつたことを、なんで今までずっとひきずつて、私がとやかく言わないとダメなんですか」と言つてます。私は今その若い人たちを責めるわけじゃないで、なんであなたたちはちゃんとした歴史を見ようとしてないんですかということだつたんですよ。それを自分らの過去の歴史をちゃんと見ないまま前に進もうとしたら絶対前に進まないと思つてます。日本はアジアの中でも一番経済的にも成功してるし、アジアの代表としてうちらは誇りを持つてます、韓国人としても。でも日本は自分を同じアジアンとして韓国人とか中国人を見ようとしないところがあつて、それはすごい残念に思つてて。これからも歴史とかもちろんと勉強して、ちゃんとしたことを見て、自分らが過去に何をしたか、これから何をすべきかをお互いに理解していくたほうが一番いいんじゃないかなと思つてます。

仲尾：ありがとうございました。お三人からそれぞれ非常に建設的な意見が出たと思います。私もそれぞれ賛成でして、まず何よりも対話が必要だというキムさんのお考え、非常に大事だと思いますね。外交もやっぱり対話はしなければ始まりません。その中でお互いに良いものをお互いに見つけていくというユさん

のお考えも賛成です。ただ外交というのはやはり最終的にはお互に折れ合う妥協ということがなければ外交する意味もない。妥協しなければ紛争を招く。つまり戦争になるということは歴史が証明しております。そういう意味でもユさんのご提案は新鮮に聞いたんですけど。私は率直なところ、竹島問題は島根県議会が非常に不用意に火を付けたなどという感じはいたしません。というのは、領土問題というのはどちらも一〇〇%正しいことはあり得ないんです。曖昧なところ、竹島だけじゃなくて尖閣諸島もそうだし、南クリールもうですけど。歴史的国際法的に絶対これが正しいということはまずない。なんらかの妥協の産物があつたり、あるいは共生によって現状ができるわけですけど。それを解決するためにはどこかで歩み寄るということを双方の政府が頭に置いてやっていかない限り解決はないと思うんです。平和的な解決はない。そういう意味で一つの平和的な解決のシンボルのようなことをユさんがおっしゃっていただいたのは大変嬉しく思いました。もう一つ私が言いたいのは、仮に政府と政府、国と国との仲が険悪になつても、市民と市民の交流がどんどん進められていたら、まさかあの国とは戦争はしまい、したくない、あるいはするべきではないという考え方方が国内で支配的になると思うんです。例えば今どんなに領土問題でこじれても、韓国と日本が戦争するということは考えられないでしょう。これは二二十年來韓国と日本の市民交流がどんどん進んでるわけです。そういう中から、いくら一部の人人が騒いだところで戦争にはならないという安心感、これは私も含めて皆さんもお持ちだと思うんです。これは市民交流の支えがあるからこそ、そういう実績があるからなので、これが先細りになつていくと怪しくなります。そういう意味でも私はいろんな形での教育も文化もそうですし、生活レベルでもどんどん交流を深くする。それが大きな解決への支えになつていくと思います。大変申し訳ございませんがもう時間がありませんので、あとお一人の方の質問と最後のご感想を紹介します。三人の方へのメッセージ伝言があるんですが、これは三の方に必ずお伝えしましてということで省略させていただきます。次の意見です。「キムさん、日本で留学、結婚、お仕事を本当にいろんな事をなさつて、日本

に興味を持つてられることを大変嬉しく思いました。以前留学した時、お父さんが日本人、お母さんが韓国人の日本国籍の女の子に出会いましたが、やはり母の生まれ育った国を見てみたいという思いからでした。きっとキムさんのお子さんもお母さんの生まれた国に興味を持たれることだと思います。これからも頑張ってください。」「二つの言葉を知る者は二つの国的心を知る。今日の二人の方は本当に日本と韓国との相互理解のためのかけがえのない方だと思います。韓国で儒教教育で年寄りが大切にされているのは良いことです。教育がいかに大事であるか、二つの民族の理解のためにも民族には光と影が、すなわち長所と短所があり、短所となり誤りのみ強調すれば仲良くなりたくても仲良くなれません。日本と韓国は同祖とも言われるほど大事な兄弟的民族だと思います。戦争の絶えなかつたヨーロッパでさえEUを作りました。優秀なアジア民族がAUができないはずがありません。ヨーロッパなどからは喜ばれなく、割つてしまふに違いないほどAUは大変な力になりますよ」。こういうご意見もいただいております。最後ですね。これは私が答えるべき質問だと思いますが、とりあえず質問を読み上げます。「仕事で戦争前後に来日した多くの在日一世の方と関わっています。そして一世の方の多くは自分の名前さえ書くことができません。一方台湾出身の方ではそのような話を聞いたことがあります。同じ日本の植民地でどうして違いが生じたのか、もし「これじゃあお教えください。私は次のような理由を考えました。最初の植民地台湾にはインフラ整備や教育等多くの予算を回したのに対し、半島など二番目以降の植民地にはほとんど予算を回さなかつたからではないかと。私の予想は正しいでしょうか」ということが一つ。もう一つは「在日の方々も徴兵されるのですが、ユさんの発表に対しても、私は今まで在日の方が徴兵されたという話を聞いたことがなかつたので少々驚きました。」韓国籍があつても在日の方、在外同胞については適用されません。ただし韓国へ留学した場合一年以上留学した場合は三十五才までの間ならば徴兵の対象となる可能性がある。こういうことを改めてユさんからお聞きしました。それでよろしいですね。台湾との比較の件ですが、これはいろんな要素が絡んでおり

まして一言二言でとても言うことはできませんが一つ二つだけ申し上げますと。台湾にインフラや教育等をしたということはあまり私は関わりが少ないんじゃないかなと思います。例えば朝鮮半島でも、これはかなり人が言うことが多いんですが、鉄道とか水力発電所とかいっぽい作ってやつたじやないかという言い方をする人がいます。だからインフラ投資はしてる。教育も日本への同化教育ですが、同じようなことはやつてるんです。むしろ決定的な違いは朝鮮半島への場合は、いわゆる強制連行が始まる前から軍需会社や工場が集団募集をやつてる。朝鮮總統府が関わるような官斡旋という形でなれば強制的な割当で募集をしてる。そういう中で何も事情がわからないまま、日本に行つたらとにかく白米が三度食えるとか、給料はちゃんと送つてもらつて家族に送金できるとかそういう情報が流れました。そういう中で本当に貧しかった農村の方々が聞きツテ人ツテあるいは呼び寄せという形で日本に来られたわけです。そういう方々はもうお亡くなりになつた方が多いですが、今の七十才代後半から八十才代にかけての方は、そういう時にごく子どものころに連れて来られてるわけです、親と一緒に。日本に来てもほとんど教育の機会がない。韓国でもまだ学齢に達しているか達していなかつたかのころです。ですから日本に来たら親が両親とも働いてる。そういう中で女性でしたら子守や家事、男性でしたらお父さんの後について回つて仕事をする。そういう厳しい青年時代を送つて、あるいは少年時代を送つてるわけです。これは私もいろいろ聞きます。そういう訳でほとんど勉強する機会がなかつたことがあります。台湾から来られてる方もありますけれども、そのような集団的な形での移入政策は私の知る限りそれほど顕著ではなかつたと思います。むしろ軍人、軍属として南太平洋に行かされた人はありますけど、日本本土への移住の強制ということは私の知る限りまだあまりよく知りません。私の個人的な台湾から来た友人も、お父さんやお母さんが中華料理店を日本に来て営んだとか。あるいは服を作る仕事とか、散髪屋さんをやつたとか、そんな事はちよくちよく聞きますね。ですからかなり日本への来られ方が違うという点が大きいのではないかと推察しています。間違つてる点もありましたらま

た訂正させていただきますが。とりあえずそのような答えにさせていただきます。それではこれで十八人の方々のすべてのご質問、ご感想を紹介させていただきました。ニューカマーの方への大変新鮮な発言に対しても非常に心温まるお言葉を皆さんからいただいたこと、私も心より感謝いたします。三人の方には生の現実の率直なお声を聞かせていただいて、三人の方それぞれに在日と本国の人、そして日本と韓国の架け橋にこれからもなつていきたいという大変力強いお心構えを聞いたように思います。本当にありがとうございます。それではこれで終わります。

司会・ありがとうございます。第十二回「チョゴリときもの」終了いたします。今回は韓国からのニューカマーの新しい視点が加わりました。在日コリアンの理解を深めるどの部分に皆さまの中でつながつてしまふでしょうか。次回、来年度のテーマ等につきましてご意見とかご希望がございましたら、またお寄せいただけたらと思います。本日はありがとうございました。

## 真の国際化

最近、急激な“韓流”的影響で韓国に対する関心が増えてきている。

韓国の俳優や、歌、文化などが、日本人に抵抗なく受け入れられている。

しかし、実は、それ以前にすでに、朝鮮半島の文化は日本社会に深く生きていたのである。キムチ、ホルモン、チョゴリ、言葉など、今や無意識に日本人が記憶する朝鮮半島の文化はすぐ隣に住んでいた在日の生活であつた。

そして、彼らもはや日本社会において欠かせない存在になつたのである。

彼らが民族、国籍、名前などを気にすることなく、社会の一構成員として活躍する—それが多文化の共生する国際社会の真の姿であるだろう。

そして外国からきたニューカマー。

言葉や文化、社会通念、習慣、制度の違い、コミュニケーションの形など、ニューカマーが直面する壁は常に存在する。彼らがそれを乗り越えられず、市民としての自覚や意識が芽生えない社会になつてはいけない。ニューカマーの思いや体験に耳を傾けることは、国際社会を目指す日本の多くの課題を考えさせられるきっかけにもつながる。真の国際化を目指す。そこには同じ時と場を共有する“在日”への理解や“ニューカマー”的持つ異文受け入れ、認め合うことが必要である。コーディネーターの仲尾先生をはじめ、ご出演いただいた方々に感謝いたします。ありがとうございました。

(財) 京都市国際交流協会

事業課

鄭 昌根  
チョン・チャン・ゲン

岡村 敦子  
オカムラ・タクコ

以上



---

アジアの風文庫 21  
「チヨゴリときもの」  
～十二回目の話から～

2005年10月 第1刷発行  
編集・発行 財団法人 京都市国際交流協会  
〒600-8536 京都市左京区粟田口鳥居町2の1  
TEL. 075-752-3010  
印刷 株式会社 アルファ・プリント社

---





＊財団法人 京都市国際交流協会  
KYOTO CITY INTERNATIONAL FOUNDATION